

2 「仏印処理」問題と安南国等の独立

662

昭和20年1月16日

在サイゴン塚本(毅)事務所長より
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理と仏印三国の独立等に関する仏印処

理要綱案について

別電 昭和二十年一月十七日発在サイゴン塚本事務
所長より重光大東亞大臣宛第三八号

右要綱案

サイゴン 1月16日後11時10分発

本省 1月17日前4時00分着

第三七號(緊急、極祕、館長符號扱)

情勢緊迫シ本官出發モ約一週間遲延ノ見込ニ付松本大使ノ

指令ニ依リ佛印處理要綱案別電第三八號ノ通電報ス、本案

其ノモノハ當地陸海軍ニ未タ提示セサルモ口頭ヲ以テ要領

ヲ傳ヘ其ノ意見ヲ質シツツアル處海軍ハ積極的ニ贊意ヲ表

シ陸軍ハ信部隊參謀長自體ニ於テ贊意ヲ表セルモ交趾支那

東京及「ツーラン」ニハ軍政ヲ布キタシト述ヘ居レリ、信

部隊長ハ軍政トハ言ハサルモ軍司令官ノ命令一下總テ軍事

行動ニ從フ如クセサレハ當地力既ニ戰場トナレル今日軍ノ任務ヲ達成シ得スト述ヘ威部隊主任副參謀長ハ當地ニテハ他地方ニ於ケル軍政ノ方式ニテハ不可ナル結論ニハ達シ居ルモ未タ何等腹案スラナシト語リ居レリ、右ハ軍政ナル觀念ノ不明瞭ニ基ク議論ニシテ現在ノ機構ノ存續活用及作戦遂行上ノ便宜ヲ根本原理トシテ考究スヘキ點ニ於テハ何レモ意見一致シ居レリ、故ニ當府案ヲ更ニ説明セハ諒解ニ達スヘキ見込ノ下ニ話合中ナリ御参考迄別電ト共ニ河大ヘ轉電セリ

(別電)

サイゴン 1月17日前0時00分発

本省 1月17日前3時30分着

第三八號(緊急、館長符號扱、極祕)

佛領印度支那處理要綱案

一、方針要領

第一 根本方針

一、大東亞宣言ノ精神ニ從ヒ、一般情勢ノ推移ニ對應シ

佛領印度支那ヲ處理ス

三、佛領印度支那ノ處理ハ安南國獨立ヲ當面ノ目標トシ

テ施策ヲ推進シ、次イテ「カンボジヤ」及「ラオス」ヲ加ヘテ越南聯邦ノ結成ヲ促進ス

三、佛領印度支那ノ處理ハ原住民族ノ自主獨立ノ回復運動ヲ主體トシ帝國ハ大東亞ノ諸友邦ト相携ヘテ之ニ

支持協力スルノ形態ヲ採ルモノトス

第二 處理ノ時期

兵站基地トシテノ佛印ニ對スル帝國ノ期待カ佛印ノ處

理ニ依リ妨害ヲ受ケストノ確固タル見透シツク場合直

ニ之ヲ實行ス、但左記ノ事態發生スル場合ニハ上記ノ

考慮ヨリスル結論ノ如何ニ拘ハラス之ヲ斷行ス

一、獨逸ノ屈服ノ如キ「ペタン」政府存續ノ擬制ノ維持

不可能ナル事態發生スル場合

三、佛蘭西共和國臨時政府カ新ニ對日宣戰ヲ布告スル等

其ノ反日旗色ヲ鮮明ニシ米英軍ト共同シテ佛印奪回

ニ乗出シ來ル場合

三、敵側ノ軍事行動カ佛印國境ニ近接シ日本軍トシテ佛

領印度支那ニ於ケル軍事、政治上、經濟上ノ行動ノ

自由ヲ確保スル絕對ノ必要ヲ生スル場合

二 対仏印關係

第三 處理方針

一、第二所定事態ノ發生ノ爲安南國ヲシテ佛國トノ保護條約ヲ拠棄シ其ノ自主獨立ヲ回復スルコトヲ聲明セシム

三、右ト同時ニ帝國ハ佛印ニ關スル日佛間諸條約カ一般情勢ノ變化及安南國ノ獨立回復ノ新事態ノ下其ノ存立理由ヲ喪失シ帝國カ佛印ニ於テ行動ノ自由ヲ享有

スルニ至レルコト竝ニ安南國カ自主獨立ヲ回復セルヲ歡迎シ其ノ發展生長ヲ支援スルノ確固タル決意ヲ有スルモノナルコトヲ聲明ス

三、上記ノ措置ト同時ニ日本軍ハ佛印軍ヲ武裝解除シ安南國ノ援護ニ任ス但軍政ハ之ヲ施行セス

四、帝國ハ安南國ト日「タイ」、日緬、日比諸同盟條約ト同精神ノ同盟條約ヲ締結ス

帝國ハ大使ヲ派遣シ安南國ト同盟條約ヲ締結ス

二 措置要領

第一 安南國ノ獨立措置

一、安南國ノ獨立ハ現王朝ノ下ニ政治的「クーデター」

ヲ行ヒ獨立派政府ヲ樹立セシメ同政府ヲシテ安南國

ノ自主獨立ノ回復ヲ聲明セシムル方式ニヨリ之ヲ聲

明セシム

三、安南國ノ現行制度ハ已ムヲ得サル場合ヲ除キ一切變

更ヲ加フルコトナシ(新政府ヲシテ獨立聲明ト同時

ニ此ノ趣旨ノ法令ヲ制定セシム)

現存佛人職員ノ繼續使用ニ努ム

佛人職員ノ協力ヲ得サル場合ハ安南人ヲシテ代位セ

シム

三、東京及交趾支那ハ安南國ニ歸屬セシム

但戦爭遂行上帝國ノ負擔ヲ加重スル結果ヲ招來スル

コトナキ様之力實施ノ時期及方式ヲ考慮セシム

第二 帝國ノ對應措置

一、帝國ハ安南國ニ對シ特命全權大使ヲ派遣シ日本安南

間外交ノ處理及安南國ノ輔導ニ當ラシム

二、安南國ノ内面指導ヲ擔當セシムル爲大使館ニ顧問部

ヲ附設ス

三、安南國政府ニ對シテハ邦人職員ヲ派遣セス但技術部

門及安南國ノ補育及戰爭遂行上絶對必要ナル地域ハ

此ノ限りニアラス

第三 聯邦結成措置要領

一、「カンボジヤ」國ノ獨立ハ安南國ノ獨立ニ準シ之ヲ

實行ス

二、「ラオス」ノ處理ハ「ルアンプラバン」王國ハ之ヲ
獨立セシメ其ノ他ノ地域ノ歸屬ハ政治的ニ決定スル

ノ豫想ノ下ニ情勢ノ推移ニ應シ之ヲ定ム

三、越南聯邦ノ結成ハ安南國ヲ核心トシ「ラオス」ノ處

理ノ決定ト同時ニ又ハ之カ處理ノ後適當ノ時期ニ三

國間條約又ハ共同宣言ノ方式ニ依リ之ヲ行フ

四、聯邦ノ首都ハ西貢トス

帝國ハ聯邦ニ對シ特命全權大使ヲ派遣シ帝國ト聯邦

間ノ外交ノ處理及聯邦ノ輔導ノ任ニ當ラシム

大使ハ西貢ニ駐在シ順化、河内、「ブノンペン」及

「ラオス」(首都所在地)ニ大使館事務所ヲ設置ス

西貢及河内ニ總領事館ヲ併置シ海防ニ總領事館ヲ設
置ス

聯邦ノ内面指導ヲ擔當セシムル爲西貢大使館及各大

使館事務所ニ顧問部(政治部及軍事部ノ二部ヨリ成

ル)ヲ附設ス

吾、三國ノ獨立ト聯邦ノ結成トカ同時ニ行ハルルカ又ハ
其ノ間ニ短期間ヲ置クヲ以テ足ル場合ニハ同盟條約
ハ聯邦トノ間ニ之ヲ締結ス

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

昭和20年1月24日 在サイゴン塚本事務所長より  
重光大東亞大臣宛(電報)

(別電一)

サイゴン 1月24日前1時00分発  
本省 1月24日前2時50分着

日本と安南国との同盟條約案等について

別電一 昭和二十年一月二十四日発在サイゴン塚本事務所長より重光大東亞大臣宛第五八号

「日本國安南國間同盟條約案」

二 昭和二十年一月二十四日発在サイゴン塚本事務所長より重光大東亞大臣宛第五九号

「日安同盟條約附屬議定書要領」

三 昭和二十年一月二十三日発在サイゴン塚本事務所長より重光大東亞大臣宛第六〇号

「越南連邦結成ニ關スル三國共同宣言要綱案」

サイゴン 1月24日前0時30分発

本省 1月24日前2時50分着

第五七號(大至急、館長符號扱)

第一條

之カ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎タル不動ノ決意  
ヲ以テ左ノ通り協定セリ

大使ノ命ニ依リ別電第五八號、第五九號、第六〇號ノ通り  
日安同盟條約案同附屬議定書案及三國共同宣言案電報ス

日本國及安南國ハ其ノ主權及領土ノ相互尊重ノ基礎ニ於

テ兩國間ニ同盟ヲ設定ス

## 第二條

日本國及安南國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ニ協力ヲ爲スヘシ

## 第三條

日本國及安南國ハ昭和十八年十一月六日ノ大東亞共同宣言カ大東亞各國ニ對スル指導原則タルヲ認メ右原則ニ基キ大東亞ノ共同ノ建設ニ緊密ニ協力スヘシ

## 第四條

本條約ノ實施ニ關スル細目ハ必要ニ應シ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルヘシ

## 第五條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ  
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印ス

昭和 年 月 日即チ安南曆 年 月 日

ニ於テ本書二通ヲ作成ス

(別電二)

サイゴン 1月24日前1時00分発  
本省 1月24日前2時30分着

第五九號(大至急、館長符號扱、極祕)  
曰安同盟條約附屬議定書要領(不公表)

一、安南國ノ防衛ハ當分ノ間日本軍之ニ當ル

一、安南國軍ハ前項ノ期間日本軍司令官ノ指揮監督ニ服ス  
二、安南國政府ハ日本軍ノ作戰及給養ノ爲必要ナル資金ヲ提供ス

三、安南國政府ハ日本軍ノ作戰及給養ノ爲必要ナル物資ノ獲得ニ關シ一切ノ便宜ヲ供與ス

四、安南國政府ハ附表記載ノ鐵道、港灣、飛行場、電信施設及通信施設ノ管理ヲ日本軍ニ委任ス

五、前各項實施ノ爲必要ナル事項ハ兩國當該官憲間細目取締ヲ以テ之ヲ定ム

年 月 日 二於テ

日本國代表  
安南國代表

(別電三)

サイゴン 1月23日後11時40分発

本省 1月24日前2時00分着

第六〇號(大至急、極祕、館長符號扱)

越南聯邦結成ニ關スル三國共同宣言要綱案

安南王國皇帝陛下

「カンボヂヤ」王國皇帝陛下

「ルアンプラバン」王國皇帝陛下ハ

一方三國カ各其ノ自主獨立ヲ恢復シ大東亞解放ニ一進展ヲ

劃シタルコトヲ認ム

他方各國カ各其ノ所ヲ得相倚リ相扶ケテ共榮ノ樂ヲ偕ニス  
ルハ世界平和確立ノ根本要義ニシテ而シテ右根本要義カ三  
國ニ關スル限り三國間聯邦結成ニ依リ最モ克ク具現且推進  
セラルヘキコトヲ確信シ

茲ニ左記原則ニ付確固タル合意ニ到達シ且之ヲ忠實ニ遵守  
スヘキコトヲ共同ニ聲明ス

一、安南王國、「カンボヂヤ」王國及「ルアン」國王ハ相互

ニ其ノ本然ノ特質ヲ尊重維持シツツ聯邦ヲ結成ス

二、聯邦ノ稱號ハ越南聯邦トシ首都ハ西貢トス

三、越南聯邦ハ安南皇帝、「カンボヂヤ」國王及「ルアン」  
ラバーン」國王ノ各代表者ヲ以テ組織スル聯邦執政委員會  
之ヲ統轄ス

執政委員會ノ一名ヲ聯邦ノ代表者ト爲スコトヲ得

四、交趾支那及從前佛蘭西共和國ノ直接管轄ノ下ニアリタル  
地域ハ聯邦成立ニ依リ其ノ最終的歸屬ノ決定セラル迄  
聯邦直轄地タルヘシ

五、執政委員會ヨリ國政ノ首班トシテ國政總務長官ヲ任命シ  
其ノ推薦ニ依リ任命スル各部長官ト聯邦政府ヲ組織セシ  
ム

六、聯邦政府ハ左記ノ權限ヲ與ヘラレ聯邦政府ノ權限ニ屬セ  
シメラレタル事項ニ付テハ三國政府ハ何等ノ權限ヲモ主  
張スルコトナカルヘシ

イ、外交

ロ、軍事

ハ、關稅

ニ、通貨

ホ、通信

ヘ、鐵道、航空及船舶

ト、本質上聯邦ノ全領域ヲ通シ統一的管理ニ服セシムル

ヲ要スル業務及事業

チ、聯邦直轄地ノ統治

ニ、聯邦政府ノ諮詢ニ應セシムル爲聯邦會議ヲ置ク

聯邦會議ハ各邦ノ選出セル議員ヲ以テ組織ス

ハ、本共同宣言ノ原則ヲ留保シ且聯邦政府ノ別段ノ命令ナキ

限り從前聯邦ノ領域ニ於テ施行セラレタル法規ハ引續キ

效力ヲ有ス

六、越南聯邦ノ憲法ハ聯邦政府ト三國政府トノ間ニ協議決定

セラルヘキ時期及方法ニ依リ制定公布セラルヘシ

七、聯邦各國間ノ意見ノ相違及聯邦執政委員會ニ於ケル意

見ノ對立ノ場合ハ大日本帝國政府ニ之カ調停ヲ委嘱ス

年　月　日　西貢ニ於テ

安南帝國代表名

「カンボヂヤ」王國代表名

「ルアンプラバン」王國代表名

~~~~~

第七號(館長符號、部外絕對極祕、大至急)

本使着任以來一箇月戰局ノ推移ハ佛印ノ事態ヲ極度ニ緊迫ニ導キ現下ノ情勢ニテハ最初豫想セラレタル佛印ト本國トノ關係ヨリ來ル佛印ノ處理ノ必然性ハ寧ロ減退シ戰局ノ大勢ヨリスル處理ノ必要焦眉ノ急トナレル感アリ從ツテ現地陸海軍其ノ他ニ於テモ從來唱ヘラレタル安南獨立等ノ聲ハ

軍政施行を意図する現地陸軍案に対し大義名分ある仏印処理案策定方意見具申

付記一

昭和二十年一月三十日付萩原(徹)政務局第二

課長より在ソ連邦守島(伍郎)公使宛郵第七号

仏印処理に関する陸軍案及びこれに対する重

光外相の意向について

二　昭和二十年一月二十八日付、陸軍省部作成

「情勢ノ急變ニ應スル佛印處理ニ關スル件」

三　昭和二十年一月二十八日付、陸軍省部作成

「情勢ノ急變ニ應スル佛印處理ニ關スル件」

ニ基ク對佛印具體措置要領(案)」

ハノイ　1月26日後発
本省　1月27日前着

却テ影ヲ潛メ寧ロ佛印カ戰場トナル場合ヲ豫想シ之カ把握ヲ確實ナラシムル爲好ムト好マサルトニ拘ハラス速ニ佛印ヲ處理シ置ク要アリトノ意見強ク之カ陸軍中央ニモ反映シ單純ナル軍政ヲ布クコトヲ前提トシテ考案ヲ廻ラシ之ヲ總軍及現地軍ニ聯絡シ來リタル模様ナリ併シ乍ラ佛印ノ實情ト事態ノ急迫トハ單純ナル軍政ヲ以テシテハ到底之ヲ把握シ得サルコト現地陸海軍モ好ク知レル所ナルヲ以テ成ルヘク現在ノ總督府及大使府ノ機構及人員ヲ利用シ乍ラ他方軍司令官ニ總ユル權力ヲ一元化シ（最近ノ臺灣及香港ノ例ヲ引キ居レリ）以テ作戦上ノ自由ト便宜トヲ得ントスルコトヲ考ヘ居ル模様ニシテ本使及塚本總領事カ土橋司令官河村參謀長ト接觸シテ得タル結果ヲ綜合シテ現地陸軍案（書物トシテハ未タ中央ニ提出セラレ居ラサル模様）ノ大要ヲ掲クレハ概ネ左ノ通りナリ

一現在ノ佛國領即チ交趾支那河内海防「ツーラン」ニハ軍政ヲ布ク（司令官ハ軍政ナル語ハ極力之ヲ避ケ居ルモ司令官自ラ佛印全体ノ總督トナリ是等各市ノ司直ハ軍人ヲ以テ充ツト言ヒ居ルヲ以テ實際上ハ是等ノ地域ハ單純ナル軍政ト異ル所ナシ）

三、安南「カンボヂヤ」「ラオス」三國ハ獨立ノ形態ヲ帶ハシメ軍司令官トノ間ノ協定ニ依リ獨立ヲ容認ス
 三、「ラオス」ノ數州ハ安南王國ニ行政ヲ委任ス
 四、東京ニハ安南王國ヨリ副王ヲ派ス
 五、安南「カンボヂヤ」「ラオス」及東京ニハ顧問府ヲ置キ之ヲ指導ス顧問府ヘハ軍政監部（總督部）ヨリ職員ヲ出ス（大公使ハ派遣セス司令官ハ戰場ニ大公使ノ駐在ハ考ヘ得スト言ヒ「ビルマ」「フイリピン」大使カ何等實權無キヲ指摘シ居レリ）
 六、現在ノ總督府機構下級職員及大使府員ヲ出來得ル限り其ノ儘利用ス
 以上ハ素ヨリ現地陸軍ノ素案ニシテ司令官ト參謀長トノ間ニモ未タ意見一致セサル點アリ又考ヘ明確ヲ缺ク點多キモ現地軍側ハ大体以上ノ如キ頭ニテ之力實現ヲ急キツツ焦り氣味ノ感アリ本使等ニ於テモ極力之カ善導ニ努ムヘキモ中央陸軍ノ一部ニ於テハ佛印ノ實情ヲ無視シ一層單純ナル考方ヲ爲シ居ルニアラスヤトモ考ヘラルルヲ以テ中央ニ於テ對蘇關係其ノ他ヨリ戰局ノ推移如何ニ拘ハラス當分佛印ヲ從來通リニシ置クコトニ廟議御決定相成ル場合ハ格別佛印

處理ヲ決定相成ル場合ニハ作戦上ノ必要ト言フカ如キ狹隘ナル立場ヲ離レ帝國國策ノ根本ト戰爭指導ノ大局トヨリ見テ大義名分ト爾後ノ統治上ノ便益トノ兼々備リタル案ヲ速ニ樹立セラルルコト切望ニ堪エス西貢發往電第三八號ノ案ハ全ク右ノ見地ヨリ立案シタルモノナルヲ以テ廟議御決定ノ際是非共之カ大綱ヲ御採用相成ル様致度重ネテ稟申ス

尙軍費問題モ豫想通り佛印側ノ抵抗極メテ強ク敵機動部隊ノ南支那海侵入、北部佛印ノ増兵等ハ痛ク佛印側ヲ刺戟シ居ル現状ニ於テ何時如何ナル事態ノ發生ヲ見ルヤモ測リ難キヲ以テ本件御審議ノ模様早目ニ御聯絡ヲ得ハ幸セナリ（總軍總參謀長近ク上京ノ筈ニテ佛印處理ハ其ノ用務ノ一ナルヘシト言フ御参考迄）

（付記一）

郵第七號

一、佛印問題最近ノ進展ハ宇山事務官ヨリ御聽取相成度

二、要スルニ陸軍側ノ考ヘハ米國上陸ノ公算大ナルニ付早キニ及ンテ（四月二十五日ヲ待ツコトナク）佛印軍ノ武装解除等所謂佛印ノ處理ヲ爲ス要アル處之力爲對「ソ」關係

三、右ニ對シ重光大臣ノ御考ヘハ

（イ）對「ソ」關係ニ極メテ慎重ヲ要スルハ勿論ノ儀乍ラ佛印ニ對シ武力ヲ行使スル以上佛國ノ主權ヲ認ムルト言ヒタリトテ得ル所ナカルヘク且佛「ソ」同盟ト佛印問題ノ關係ニ付テハ佐藤「モロトフ」會談ニ依リ一應保證ヲ得居ル次第ナリ

（ロ）帝國トシテハ飽迄大東亞開放、民族開放ノ方針ニ徹底シ行ク要アリ佛印ヲ處理スル以上當然民族開放ニ行クト言フコトコソ帝國ニ領土的野心ナキコトヲ現實ニ示シ行ク所以ニシテ「ソ」トシテモ民族開放ニ反對出來ス「ソ」ノ容喙ヲ防止シ行ク所以ナリ

（ハ）依テ佛印ノ現當局ノ共同防衛不履行ニ依リ日本自ラ單獨ニ印度支那ヲ防衛スル外ナキニ至リタルコト及安南「カンボヂア」等ハ佛國ノ侵略的勢力カ除去セラレタ

ニ影響ヲ及ホスコトハ極力之ヲ避ケル要アルニ付安南「カンボヂア」等ノ獨立（佛國ノ主權ノ否認）迄行カヌ要スレハ佛國ノ主權ヲ認メツツ自衛上必要ノ最少限度ハ採リタルモ一時佛印ヲ管理スルモノナリトノ建前ヲ採ルコトヲ可トスト言フニ在リ

二 対仏印関係

ルニ伴ヒ自發的ニ佛國トノ保護條約ヲ廢棄シテ獨立ヲ宣言スヘク帝國ハ之ヲ支援スルモノナルコトノ建前ヲ採ルヘキモノナリ

(二)既ニ「ペタン」政權ハ實質上解消シ(獨ハ「ペタン」ハ元首ナリトノ建前ヲ採リ居ルモ「ドクー」佛印總督モ「コスマ」モ「ペタン」政權ハ解消セルモノトナシアリ)「ドコール」ハ對日戰爭ヲ主張シ佛國軍艦等ヲ派遺シ居リ一方「ドクー」ハ密ニ「ドコール」ト聯絡ヲ計リ居リ日本ト共ニ米英ト戰フト言フカ如キ氣持ナキコトハ明ナリ即チ謂ハハ佛本國ナルモノハナキニ等シク而モ現地佛國人カ共同防衛ノ意志ナキ以上佛印處理ハ十分名目立ツモノト言フヘシ

(付)素ヨリダマシ打チ的ニ突然武裝解除等ヲ行フハ「トリー チヤラスアタツク」ナリトノ攻擊ヲ受クヘキヲ以テ一應共同防衛ノ爲日本軍ノ指揮下ニ佛印軍(約八萬)ヲ入ルルコトヲ要求シ右ヲ拒否シタル場合武裝ヲ解除スル等所要ノ外交的ノ手續ヲ採ルコトハ必要ナリ

ト言フニ在リ

四、右大臣ノ意嚮ニ基キ軍側ト目下話合中ニシテ如何ニ決定

スヘキヤ未タ適確ニハ判明セサルモ目下ノ所陸軍案ニ對シ大臣ノ意見ニテ修正ヲ加ヘ討議ノ基礎トナリ居ル案ハ別紙(見当次)ノ通ナリ本件直前迄絶對ニ企圖ノ祕匿ヲ必要トシ直前簡單ニ電報スル所存ナルモ以上不取敢内報ス尙大臣トシテハ本件ニ付我方ヨリ豫メ又ハ追テ「ソ」側ニ説明スルルカ如キコトハ却テ紛糾ノ原因トナルヘク我方針民族解放ニ決定シ置キ此ノ線ニ沿ヒ將來「ソ」側ト調整ノ餘地ヲ存シ居ル次第ナルヲ以テ我方トシテハ獨立ニ向テ押シ進メ行ケハ可ナリトノ御考ナリ爲念

(付記二)

情勢ノ急變ニ應スル佛印處理ニ關スル件

(陸軍省部合作案)

(昭和二〇、一、二八)

一、帝國ハ戰局ノ推移竝ニ佛印ノ動向ニ鑑ミ自存自衛上ノ絕對必要ニ基キ佛印ニ對シ機宜自主的ニ武力處理ヲ行フ武力處理發動ノ時期ハ別ニ定ム
二、帝國ハ佛印ニ對スル佛ノ主權竝ニ領土ハ之ヲ認ムルモノトシ、武力行使ニ伴ヒ所要ノ期間佛印ヲ管理シ實質的ニ

我カ軍政ヲ施行スルモノトス

三、本施策ニ關聯シ特ニ對「ソ」關係ノ惡化防止ニ努メ且嚴ニ我企圖ノ欺騙祕匿ヲ圖ル

應スヘキ旨ヲ即時發令スルコト

三、佛印ニシテ我カ要求ニ應セサル場合ニ於テハ帝國ハ武力ヲ行使シテ目的ヲ貫徹ス

(付記三)

「情勢ノ急變ニ應スル佛印處理ニ關スル件」ニ基ク

對佛印具體措置要領(案) (昭和二〇、一、二八)

一、帝國ハ佛印ニ對シ武力處理ヲ發動スルニ當リテハ至短時

間ニ外交的措置ヲ完了スル如ク大使ヲシテ佛印總督ニ對シ左記ヲ期限附ニテ要求セシム

左記

全般情勢特ニ米軍ノ佛印領域ニ對スル武力行使ノ事實並ニ其ノ趨勢ニ鑑ミ帝國ハ自存自衛ノ絕對必要ト日、佛印

共同防衛ノ根本精神トニ基キ佛印ノ防衛ヲ全ウスル爲

(イ)佛印總督ハ所要ノ機能ヲ現事態ノ續ク限り我カ軍ノ實質的指揮下ニ置クヘキコト
(ロ)佛印軍隊並ニ武裝警察隊ハ帝國軍ノ指示ニ基キ武裝ヲ解除スルコト

(ハ)帝國ハ自存自衛ト佛印ノ共同防衛トノ必要上已ムヲ得ス非常措置ヲ採ルニ至レルコト
五、「ソ」ニ對シ帝國ノ眞意特ニ其ノ非侵略性ヲ所要ニ應シ同調セシム

六、獨ニ對シ帝國ノ對佛印處理ノ眞意ヲ通報シ帝國ノ施策ニ同調セシム
(イ)佛印全機能ニ對シ前述帝國軍ノ要求ニ全面的且忠實ニ

二 対仏印関係

爾他ノ地域ニ於ケル佛國軍隊等ニ對シテハ我方ヨリ進ン
デ武装解除ヲ行ハサルモノトス

在大東亞佛人權益等ニ對シテハ穩健ニ取扱ヒ我レニ協力
スル者ハ之ヲ活用ス

註 佛印ノ歸屬又ハ原住民ニ對スル獨立許與等ニ

關シテハ當面ノ對佛處理終了後一般情勢特ニ

「ソ」聯ノ動向ヲ勘案ノ上別ニ定ム

~~~~~

665 昭和20年1月30日

在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

仏國解放に言及したドクー演説など仏印側動

向に関する情報について

ハノイ 1月30日後6時50分発

本省 1月31日後6時10分着

第六四號

貴電第一六號ニ關シ

「ドクー」總督年頭ノ辭要旨左ノ通り(大使府トシテハ本

件ニ對シ何等抗議セル事實ナシ)

客年ハ以前ニ増シテ世界戰爭ノ恐ルヘキ慘禍力擴大セリ

母國ニハ前古未會有ノ破壞力齎ラサレタルニモ拘ハラス  
本年ハ待望セラレタル佛蘭西ノ解放力歷史上ニ殘ル年ナ  
リ他ノ各國モ免レ得サル内部動亂ニ抗シツツアリ我國ハ  
其ノ國民ヲ再編成シ生命力ノ新シキ證據ヲ世界ニ示ス年  
ナレハ印支モ亦增大スル不自由ト困難ニ勇氣ヲ以テ直面  
セサルヘカラス

一時的ニ本國トノ關係杜絶シタルモ諸君ハ其ノ孤立狀態  
ニ於テ過去ヨリ強靭ニ印支ヲ佛蘭西ニ結フ忠順關係ノ永  
久性ヲ實證セリ既ニ四回ニ亘リ余ハ團結及規律ノ下ニ現  
下ノ辛苦ニ耐フルコトヲ勸告セリ今回之ヲ新ニスルニ際  
シ諸君ノ胸中ニ嘗テナキ大ナル希望ヲ持タレンコトヲ勸  
告ス千九百四十五年ハ諸君ニ新ナル犠牲ヲ課スルナラン  
モ右ハ印支カ高價ナル試練ヨリ脱スル爲ナルコトヲ思ヒ  
勇敢ニ之ヲ甘受セサルヘカラス佛軍隊ハ母國ヲ潰滅ヨリ  
救助セリ之ト同シク佛人及印支人間ト緊密ナル團結力印  
支聯邦ヲ再建サレタル佛帝國中ニ第一等ノ地位ヲ獲取ス  
ル日迄保護スルコトナラン本年カ吾人ニ此ノ深キ喜悅ヲ  
齎スヘキヲ希望スルハ強チ理ナキニアラサルヘク此ノイ  
シヤノ感慨ニ於テ諸君及其ノ家庭ニ熱烈ナル祈願ヲ送リ

再建サレタル母國ニ對スル愛情ニ於テ一致セラレンコト  
ヲ望ム

二、「レジオン」ノ廢止「アンシアン、コンバタン」復活ハ  
客年十二月二十一日附總督令ヲ以テ公布セラル尙祕密結  
社禁止及猶太人排斥ノ法令廢止ニ關シテハ一月十一日附  
總督令ヲ以テ公布新聞ニモ報道セラレタリ(往電第五五  
號御參照)

西大ヘ轉電セリ

666  
昭和20年1月30日

在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

### 仏印軍費問題に関するドクーとの会談について

別電 昭和二十年一月三十一日発在仏印松本大使よ

り重光大東亞大臣宛第七〇号

軍費支出に関する仏印側提出資料

述へタル處

第六九號(大至急)  
往電第五七號ニ關シ

ハノイ 1月30日後4時30分発  
本省 1月31日後4時00分着

二、總督ハ要旨別電第七〇號ノ如キ書キ物ヲ讀上ヶ從來ノ主  
張ヲ繰返シ客年十一、十二月ハ支拂ヒ過キタリトノ非難  
アリ本月ハ如何ニ考フルモ之以上支拂フコト能ハスト種  
々苦衷ヲ訴ヘタルニ依リ

二十九日午前「ラオス」巡視ヨリ歸河シタル總督ヲ訪問シ  
軍費問題ニ關シ

一、本使ヨリ軍費問題ニ付テハ本月九日本使西貢ニ赴キ軍側  
ト篤ト協議ヲ遂ケ又東京ニ請訓シタル上月額二千萬圓ヲ  
減シタル上要求シ其ノ後更ニ(電文不明)月分ニ付テハ特  
ニ三千萬圓ヲ減シタル案ヲ提出シタルニモ拘ラス貴方ニ  
於テハ其ノ僅ニ一千萬圓ヲ支拂ハレタルノミニテ今月分  
ヲ打切りトスルカ如キ回答アリ依テ我方ヨリ更ニ二十七  
日妥協案トシテ今月中ニ二千五百萬圓殘額ノ二千萬圓ハ  
來月ニ入り支拂ハル旨ノ提案ヲ爲シ置キタルカ此ノ提案  
ハ眞ニ最終的ノモノニシテ本提案ニシテ容レラレサルニ  
於テハ貴方ニ於テ先日來ノ本使ノ努力ヲ無視セラルルモ  
ノト認メサルヲ得斯クシテ本使トシテハ軍側ト總督府  
トノ間ニ立テル謂ハハ仲介者タル立場ヲ棄ツル外ナキ旨  
述ヘタル處

## 二 対仏印関係

三、本使ヨリ乍然三千五百萬圓ニテハ軍ノ當座ノ必要ニスラ  
事足ラス今月ハ之以上支拂ハレヌトアラハ事態ハ洵ニ重  
大ナリト述ヘタルニ

四、總督ハ來月ニ入ラハ直ニ相當額支拂フヘシト言ヘルニ付  
本使ハ來月ニ入り來月ノ内金ヲ支拂ハルハ何等ノ讓歩  
ニアラス問題ハ今月中ニ如何程支拂ハルカニアリ就テ  
ハ我方前記ノ提案ニ付篤ト御考慮アリ度シト述ヘ種々押  
問答ヲ繰返シタル末總督ハ漸ク考慮ヲ約シタルニ付本使  
ハ更ニ軍側カ緊急必要トスル所以ヲ說キ辭去セリ

西大ヘ轉電セリ

### (別 電)

ハノイ 1月31日前11時20分発  
本省 2月1日前10時00分着

第七〇號(大至急)

總督府ハ駐屯日本軍ノ必要トスル軍費ヲ云々スルモノニ非  
ス然シ乍ラ戰爭ノ發展ニ依リ一九四〇年協定當時ノ事態ハ  
完全ニ覆サレ佛印ノ外部トノ交通ハ遮斷サレ日本品ノ輸入  
ハ杜絶セリ而モ佛印ハ日本及日本軍ニ對シ多量ノ物資ヲ供

出ス佛印ノ提供スル經濟的「サービス」ト佛印カ日本ヨリ  
受クル「サービス」トノ間ノ不均衡ハ今ヤ其ノ極ニ達シ右  
不均衡ハ使用不可能ナル特別圓ヲ對價トスル軍費要求ニ依  
リ激化セラレタリ急速ナル物價騰貴カ輸入杜絶ノ結果タル  
物資缺乏及佛印ニ於ケル日本ノ買付増加將又軍費ノ爲ノ通  
貨激増ニ依ルコト勿論ナリ總督府ハ日本政府及其ノ代表者  
カ佛印主權尊重ニ關スル約束ヲ遵守セラレ居ルコトヲ喜フ  
モ重大ナル社會的紛擾勃發シ或ハ佛印カ經濟的財政的ニ破  
產スルカ如キコトアランカ右ハ間接ニ主權ノ侵害トナリ右  
日本側態度ノ利益ハ喪失セラルコトトナルヘク總督府ハ  
佛印住民ニ對スル責任上又曰佛關係ノ見地ヨリ斯ル事態ノ  
發生ヲ助長シ得ス總督府ハ日本ノ要求ニ應シ客年末可能ノ  
極限迄軍費ヲ提供セリ友好的精神ヲ以テ日本政府カ右努力  
ヲ評價セラレンコトヲ希望ス

西大ヘ轉電セリ

~~~~~

667 昭和20年2月1日 最高戰爭指導會議決定

「情勢ノ變化ニ應スル佛印處理ニ關スル件」

付記 昭和二十年二月七日発重光大東亞大臣より在

仏印松本大使宛電報第六号

最高戦争指導会議における右決定の審議模様
について

●情勢ノ變化ニ應スル佛印處理ニ關スル件

第一、方針

一、帝國ハ戰局ノ推移竝ニ佛印ノ動向ニ鑑ミ自存自衛上ノ絕對必要ニ基キ佛印ニ對シ機宜自主的ニ武力處理ヲ行フ

二、武力處理發動ノ時期ハ別ニ之ヲ定ム
三、武力處理發動ノ時期ニ至ル迄ハ嚴ニ我力企圖ノ祕匿ヲ圖ル

第二、要領

一、武力ヲ發動スルニ先立チ至短時間内ニ外交措置ヲ完了スル如ク先ツ大使ヲシテ佛印總督ニ對シ左記趣旨ヲ期限付ニテ要求セシム

記

全般情勢特ニ米軍ノ印度支那領域ニ對スル武力行使ノ事實竝ニ其ノ趨勢ニ鑑ミ帝國ハ印度支那ノ防衛ヲ全ウスル爲日佛印共同防衛ノ根本精神ニ基キ佛印總督カ米英ノ印

度支那ニ對スル武力行使ニ對シ帝國ト協力シ飽ク迄印度支那ヲ防衛スヘキ旨ノ明確ナル決意ノ具體化トシテ左記ニ同意セントヲ要求ス

(イ)現事態ノ續ク限り佛印軍及武裝警察隊ハ帝國軍ノ統一指揮下ニ入ランメ部隊、兵器、資材ノ編成、配置、移動等ニ付全面的ニ其ノ指示ノ下ニ行動セシムルコト竝

ニ鐵道、海運、通信等作戰上必要ナル機關ヲ我力軍ノ管理下ニ置クヘキコト

(ロ)佛印全機能ニ對シ帝國ノ要請ニ全面的且忠實ニ協力スヘキ旨ヲ即時指令スルコト

(ハ)○時間内ニ前二項ヲ全面的ニ受諾スルコト

右期限經過ノ上ハ帝國軍ハ佛印總督府ニ共同防衛ノ誠意ナキモノト認メ所要ノ手段ヲ講スヘキコト

三、佛印カ全面的ニ我力要求ヲ受諾セル場合ニ於テモ佛印軍隊竝ニ武裝警察隊ハ再編成ス

三、佛印ニシテ我力要求ニ應セサル場合ニ於テハ帝國ハ武力ヲ行使シテ佛印ヲ處理シ差當リ之ヲ軍管理下ニ置ク

四、安南國等ニ對スル措置ハ左ニ據ル

(イ)現地軍ニ於テ適宜安南國等ノ獨立的地位ヲ向上支援シ

積極的ニ我ニ協力セシムル如ク施策ス

- (回)一般情勢ヲ勘案ノ上安南國等ノ獨立ヲ承認ス
獨立承認ノ時期、方法等ニ關シテハ別ニ定ム
吾帝國政府ハ武力處理ニ伴ヒ機ヲ失セス聲明ヲ發表ス
六、「ソ」聯ニ對シ所要ニ應シ帝國ノ眞意特ニ其ノ非侵略性
ヲ説明ス

七、獨ニ對シ帝國ノ佛印處理ノ眞意ヲ通報シ帝國ノ施策ニ同
調セシム

八、廣州灣租借地並ニ其ノ他ノ地域ニ於ケル佛國軍隊等ニ對
シテハ佛印ニ準シ處理ス

注意

一般佛國人、權益等ニ對シテハ努メテ穩健ニ取扱フモノ
トス

(付記)

本省 2月7日^{(編註)11時}発

第六號(國家機密級、館長符號)

往電第四號ニ關シ

最高戰爭指導會議ニ於ケル本大臣ノ説明要旨及審議概要左

ノ通ナルニ付右御含ノ上本件處理ニ留意アリタシ

一、本大臣ヨリ本案ハ帝國トシテノ肚ヲ決メントスル趣旨ニ
シテ其ノ政策的運用並ニ對外ノ宣傳方針ニ付テハ自ラ考
慮ヲ要スルモノアル處茲ニ政策的見地ヨリ事態ヲ説明ス
ルト共ニ之カ施策運用ニ關シ意見ヲ開陳スヘント冒頭シ
先ツ印度支那ノ國際的地位ニ關シ

(一)「ドクー」ハ自主的行政ヲ行ヒ居ル建前ニシテ國際的
地位ヲ有ス「ドゴール」トモ「ペタン」トモ關係ナク
之カ處理ハ結局我方施策ニ懸ル次第ナルコト

(二)「ドゴール」ハ日本ニ對シ敵意ヲ表示シ居ルコト
(三)獨ノ「ドゴール」及「ペタン」政府ニ對スル立場
(四)蘇佛同盟ノ意義

ニ付説明ヲ加ヘ次テ施策ノ順序トシテ

(一)我軍ノ進駐ハ共同防衛協定ニ基ク建前ニテ今日迄支障
ナク進ミ來リタルモノナルカ最近ノ軍費問題ニ付テハ
交渉満足ニ進ミ居ラサルモ決裂ノ域ニ達シ居ラス
(二)「ドクー」カ共同防衛協定ノ趣旨ニ依リ我方ト協力ス
ルヤ否ヤノ最後的判定ハ本案要領ノ申入ニ依リ決定ス
ル譯ニテ從テ協力ノ有無ノ認定ハ結局我方ノ下スヘキ

所ナルカ本申入ヲ拒否スル場合ハ勿論之ヲ應諾スル際ト雖モ佛印當局カ米英ノ意ヲ迎フルニ汲々タル現狀ヨリ判斷スレハ實質的ニハ協力ノ意思ナキコトハ明ナル所ナルヲ以テ所詮我方トシテ印度支那ヲ如何ニ處理スヘキカノ問題ニ當面スル次第ナリ

(三)我方ニ於テ「ドクター」ノ協力カ不充分ナリト認定セハ佛印當局カ共同防衛協定ニ違反セリト云フコトトナリ我方トシテハ佛印カ敵側ニ廻レルモノトシテ我方單獨ニ印度支那ヲ防衛セサルヲ得サル立場ニ立ツ次第ナルカ之ヲ安南「カンボヂヤ」等ヨリ見レハ侵略勢力タル佛ノ壓力排除セラレタルヲ以テ佛蘭西ヨリ強要セラレタル保護條約ヲ廢棄スル段取トナリ斯くて安南「カンボヂヤ」等ハ佛蘭西侵入以前ノ形態ヲ恢復シ獨立ノ地位ニ復歸シ得ル次第ナリ

佛印處理ニ付獨立問題ヲ採り上クルコト必要ナル所以ハ

(イ)佛印軍カ大部分土民兵ヨリ構成セラルル點ニシテ安南「カンボヂヤ」等ノ民族的希望ヲ達成セシメ其ノ民心ヲ收攬シテ之ヲ我方ニ引付ケ置ク様施策スルコ

トハ特ニ武力處理ニ伴ヒ現地ニ複雜ナル事態ヲ惹起スル場合ニ極メテ重要ニシテ茲ニ獨立運動助成ノ必要大ナルヲ認ムル所以ナリ

(ロ)國際情勢上ヨリ觀ルモ我方カ單ニ自存自衛ノ爲ナリトノ建前ヲ呼稱シテ武力ヲ行使シ占領地ニ軍政ヲ布クカ如キ方針ニ出ツレハ敵側ヨリ右ハ帝國カ佛蘭西ニ代位シテ印度支那ヲ占領スル企圖ヲ暴露セルモノナリトシテ宣傳セラルヘク其ノ結果蘇側其ノ他ノ中立國ニヨリ乘セラルル處多分ニ存スル處武力行使ト共ニ間髪ヲ入レス安南等ニ於テ保護條約ヲ廢棄シ獨立ノ意思表示ヲ行ヒ帝國カ之ヲ擁護スル態度ニ出ツルニ於テハ我カ意圖カ侵略ニ非スシテ大東亞共同宣言ノ趣旨ニ則ルコト自カラ明トナリ何レヨリスルモ乗セラルル危險ナカルヘシ此ノ點ハ施策上最モ肝要ニシテ大義名分ヲ立ツルト共ニ第三國ニ乗セシムル機會ヲ封スル所以ナリ

四安南等ノ獨立ハ即時トセサル迄モ遲滯ナク行フノ決意ヲ要ススクリコトカ敵若クハ第三國ノ策動ヲ封スル所以ナリ

何レニセヨ右筋書ニ依ツテ進ムコト然ルヘク統帥部ノ

措置ト政策ノ運用トカ完全ニ一致シテ始メテ本案ヲ成

功裡ニ實施シ得ル次第ナリト信ス

ト述ヘ諒承ヲ得タリ

二、尙右ニ引續キ行ハレタル討議經過中主ナルモノノ概要左

ノ通

佛印當局カ我要求ヲ受諾セル際ノ處置ニ付疑問ノ向アリ
タルニ對シテハ現下ノ狀態ニ徵スレハ佛印側カ誠意ヲ以
テ我カ要求ニ應スルコトハ想像シ得ス假令表面受諾ヲ裝
フモ他日寢返リノ時期ヲ待ツニ過キスト判斷セラルルヲ
以テ其ノ完全協力ヲ認ムルコトハ現實ノ事實ノ許ササル
所ニシテ特ニ大東亞共同宣言ノ趣旨ヨリモ印度支那ノ獨
立ニ今日着手スルハ當然ナリトノ見解ナリ尙原案ニハ軍
政ナル文字アリシモ特ニ之ヲ避ケ軍ノ管理ノ下ニ置クト
訂正セリ

編　注　發電時間が午前か午後かは不明。

~~~~~  
668 昭和20年2月3日 在仏印松本大使より 重光大東亞大臣宛(電報)  
仏印軍側より南方軍総司令官に対し仏印静謐  
保持の繼續希望方申入れについて  
ハノイ 2月3日後1時00分発 本省 2月3日後9時00分着  
第七七號(館長符號扱、大至急)  
二十七日「モルダン」將軍ハ特別仕立ノ飛行機ニテ南下セ  
ル旨ノ情報ニ接シ居リタル處一日來河セル土橋司令官ノ二  
日本使ニ内話セル所ニ依レハ同將軍ハ西貢ニテ寺内元帥ヲ  
訪問シ最近日本側ヨリ巨大ナル軍費ノ要求アリ引續キ有力  
ナル日本部隊ノ北部進駐アリ右ニ關聯シ佛側ハ日本ノ印支  
ニ對スル態度ニ何等カ變更ヲ來スモノニアラサルヤヲ危惧  
スルモノナリ佛側トシテハ佛本國トノ關係如何ニ拘ハラス  
只管印支ノ靜謐維持ヲ祈念スルモノニシテ米英軍ノ南支那  
又ハ馬來侵攻ハアリ得ヘシト考フルモ日本側ノ言ハルル何  
キ米英軍ノ印支侵攻ハ無之モノト考ヘ居リ又無之ヲ希望ス  
ルモノナリトテ日本側ニ於テ印支ノ靜謐保持ノ方針ニ變更  
ヲ加ヘラレサランコトヲ切望スト縷々哀願セルニ對シ寺内  
元帥

元帥ハ個人ノ意見トシテ印支ノ平和ノ維持セラレンコトヲ

等シク希望スルモノナリトノ趣旨ヲ答ヘタル趣ナリ

尙右「モ」將軍ノ申入ハ總督ノ旨ヲ受ケテ爲サレタルモノナルコト確實ナリト思考ス

西大ヘ轉電セリ

~~~~~

669 昭和20年2月3日 沢田(廉三)外務次官
在本邦コスマ仏國大使 会談

米ソの動向や仏印情勢等に關する沢田次官と

在本邦仏國大使との会談

澤田次官、佛國大使會談錄

(昭和二十年二月四日 政務局第四課)

二月三日「コスマ」佛國大使澤田次官ヲ來訪セル處其ノ會談要領左ノ通

一、佛國大使ヨリ曾テ御話セル佛人「ボッセ」ニ對シ愈々判決アリ同人ハ懲役四年ノ宣告ヲ受ケタリトノコトナル處今茲ニ其ノ判決ノ是非ニ付論議スルノ意圖無キモ右裁判ノ過程ニ於テ

(一)本人力證人ノ召喚ヲ要求セルニ不拘許可セラレサリシ

コト及

(二)本人ハ供述書ニ一旦署名セルモ後ニ至リ右ハ強要セラレタルモノナリトノ理由ニテ後ニ之ヲ取消セルコトアリ右二點ニ付裁判ノ手續トシテ納得シ得サル所アルニ依リ至急事情取調ノ上結果通報ヲ得度シトテ右趣旨ヲ認メタル公文ヲ手交セル後實ハ佛ノ大商社ノ代表者ニシテ抑留取調ヲ受ケシモノ既ニ八名ニ上リ居ル處彼等ノ中ニハ本使ノ見ル所ニテモ所謂「ドゴール」派ニ同情ヲ寄スルモノアリ口數多キ佛人ノコト故熱スレハ不用意ニ激論ヲ鬪ハスカ如キコト無シトセスカル不用意、不注意ノ點ハ充分戒シメサルヘカラサルモ去レハトテ彼等カ如キ意思ノ國防上ノ法規ヲ紊リ秩序ヲ攪亂セントスルカ如キ意思ヲ毛頭有シ居ラサルハ在留佛人一同ノ認ムル所ニテ況ニヤ彼等カ相當ノ經歷ヲ有シ且佛國者名ノ商社ヲ代表シ居ル點ニ鑑ミ將來ノ日佛親善關係持續ノ見地ヨリ日本政府ニ於テ出來得ル限り政治的考慮ヲ加ヘ取扱ハレンコトヲ希望スル次第ナリト述ヘタリ

二、續イテ同大使ハ比島方面ノ戰況ニ言及シ日本ト南方地域トノ連絡力益々困難トナル様解セラルルコト並ニ比島攻

略ノ上ハ米國ハ佛印又ハ支那大陸ニ對シテ上陸ヲ試ムルモノト推測セラルコト等同大使個人ノ見解トシテ述ヘ更ニ歐洲方面ニテハ蘇軍ノ進出驚異的ナル處柏林カ占領セラルレハ戰爭ハ終熄スト思ハルル旨述ヘタルニ依リ次官ヨリ獨ハ「オーデル」河ノ線ニテ蘇軍ノ進撃ヲ喰止メ必スヤ反擊ニ轉スルモノト確信スル旨答フルト共ニ東亞ノ戰況ニ關シ日本トシテハ如何ナル事態(à tout évènement)ニモ對處スル用意アルコトヲ述ヘ米國ノ今後ノ意圖ニ關シテハ自分ハ戰略ニ付テハ全クノ素人ナルカ故ニ何處ニ上陸ヲ試ムルヤ等ハ判斷シ兼ヌルモ現實ノ事態トシテ佛印其ノモノカ米軍ノ海空ヨリスル攻擊ニ殆ト連日曝サレ居ルコト事實ナルニ依リ日本ハ此ノ事實ヲ直視シ共同防衛ノ見地ヨリ佛印駐屯軍ノ増強ヲ余儀ナクセラレ居ル次第ナリ從テ軍費ニ付テモ膨脹ヲ來スコト自然ノ勢ナルカ畢竟スルニ右ハ佛印トノ間ノ條約上ノ義務ノ履行ノ爲生スル不可避的結果ナルニ鑑ミ佛印側ニ於テモ右軍費ノ分擔方快諾アランコトヲ希望スルモノナリト述ヘタル處大使ハ日本側ハ一躍從來ニ三倍スル軍費ヲ要求セラレタリト聞キ居レルカ右ハ佛印ノ一年間ノ豫算ニ相當ス

ル額ニテ從テ臺所ノ小サキ佛印トシテ之ヲ負擔シ切レスニ覆ヘルコトヲ恐ルルモノナリト云ヘルニ付
次官ヨリ其ノ額ニ付テハ現地ニ於テ松本大使ト「ドクー」總督トノ間ニ話合中ナルカ主義ノ問題トシテ右ハ前述ノ通佛印防衛ノ爲ノ必要ニ基ク要求ナルカ故ニ佛印政廳ニ於テモ共同ノ義務ヲ自覺セラレ充分協力ノ精神ヲ發揮セラレテ我方要求額分擔方同意セラレソコトヲ切望スル次第ナリト述ヘ置キタリ

670

昭和20年2月9日

在サイゴン塚本事務所長より
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印の「軍管理」とは「軍政」の意であると の南方軍側説明について

サイゴン 2月9日後発
本省 2月9日後着

K第一號(極祕、館長符號)

二月八日河内發貴大臣宛館長符號電及河内宛館長符號電第
七號ニ關シ
「軍管理」ノ意味ニ付戶村參謀ヨリノ説明ニ依レハ軍ハ佛

印總督府直轄地ニハ軍政ヲ布キ保護領ニハ之ヲ布カサル心算ナルニ付「軍政」ナル字ヲ止メテ「軍管理」トセル次第ニテ實際ハ軍政ヲ行フ意味ナル由ニ付信軍參謀長ニ質セルニ同様ノコトヲ述ヘ更ニ(一)佛側受諾ノ場合ハ大使其ノ他若干ヲ除キ他ヲ軍政要員トン(二)受諾セサル場合ハ大使府員全

部ヲ軍政要員トスヘキ旨連絡アリ又大東亞省ニテハ安南獨立ニ關聯シ大使派遣ノ意圖ヲ有スルモ獨立ノ時期ハ作戰ヲ考慮ノ上現地軍ニテ決定スヘキコトヲ連絡アリタル旨語レリ

671 昭和20年2月9日 在仏印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

軍費問題をめぐる仏印側との交渉方針につき請訓

ハノイ 2月9日後7時00分発
本省 2月10日前1時30分着

第七八號(大至急、館長符號扱)

軍費問題ハ屢次ノ往電ニテ御承知ノ通御訓電ノ趣旨ニ從ツテ執拗ニ交渉ヲ試ミタルモ先方ハ飽迄當初ノ主張タル十二月分ヨリ減額シタル額ノ支拂ニ止ムル方針ヲ固持シテ讓ラ

ス當方トシテハ軍ノ當面ノ必要ト睨合セ逐次御訓令ノ最低額ニ近キ案ヲ出シ正面及側面ヨリ交渉ヲ試ミタル次第ナルカ遂ニ一月中ニハ一月分ノ最終額決定ニ至ラス(二月一日迄ニ現實ニ五千五百萬圓ヲ支拂ハシメタル結果トナレル次第ナリ

總督府側態度ノ强硬ナルハ一ハ戰局ノ影響モアルヘキモ實際上最近頗ニ顯著トナレル物資不足、物價騰貴ニ怯ヘ今般ノ我軍增兵ノ如キモ元來ナラハ交渉ヲ有利ニ展開スヘキ壓力トナルヘキモノカ却テ増兵ニ伴フ經濟不安ヨリ態度ヲ硬化セシメタル感アリ總督トシテハ一應共同防衛ニ伴フ義務ハ認メ乍ラモ事態切迫ノ此ノ際軍費問題ヨリ端ヲ發シ印度支那ヲ破綻ニ導キ將來Collaborationismノ汚名ヲ着ルコトヲ極力回避セントシ居ル如ク看取セラル

他方我軍側トシテハ過般ノ艦載機ニ依ル西貢爆擊以來印度支那ヲ以テ兵站基地トスルカ如キ生溫キ考ハ捨テ何時戰場トナルヤモ計ラレサルヲ慮リ其ノ準備ニ大童ノ狀態ニテ從ツテ軍費交渉モ將來ノ爲ニスル多額ノ要求ヨリモ當面ニ必要ナル資金ヲ得ルニ急ナルコト西貢發本使宛電報第三八號ノ通ナリ

依テ本使トシテハ此ノ上共貴電(凡)ノ趣旨ヲモ體シ執拗ニ交

渉ヲ繰返ス積リナルモ此ノ上ハ(一)當面必要ナル資金ノ支拂

ヲ受クルヲ以テ満足スルカ又ハ(二)金又ハ銀ノ現送或ハ他

ノ物資(例ヘハ「キニーネ」)ノ交付ヲ提議スルカ(四)軍票發

行等ヲ以テ切實有效ナル計畫ヲ試ルコトニ依リ根本解決ヲ

圖ル以外方法ナキモノト思考セラル處右(イ)ニ關シテハ客

年十一月軍費交渉當時先方ヨリ金又ハ銀ノ提供方申出アリ

タルモ(客年西貢發責大臣宛電報第一二五號ノ(三)參照)我方

ハ右ハ特別圓機構ノ根本義ニ觸ルモノトシテ之ヲ拒否シ

又(ロ)ニ關シテハ客年十一月信軍河村參謀長ヨリ佛側ニ對シ

卒直ニ申渡シ又河内ニ於テモ專門委員會ノ討議中ニモ之ニ

言及シタル經緯モアル處今日ニ於テハ右二點ニ付慎重再考

慮ノ要アリト思考セラルルニ付右篤ト御研究ノ上何分ノ儀

御指示相成度

西貢ヘ轉電セリ

~~~~~

672 昭和20年2月10日 在サイゴン塚本事務所長より  
重光外務大臣宛(電報)

軍政施行を優先する仏印処理方針のは正方意

### 見具申

サイゴン 2月10日前發  
本省 2月10日前着

(極祕、館長符號、大至急)

往電第八一號ニ關シ

戶村參謀ヘ托送ノ關係書類ニ依レハ軍政ノ解釋意見一致シ

居ラス又大使府職員ノ地位及任務ニ關スル事項ハ意見合致

セサル爲削除セラレ居ル處冒頭往電ノ通軍ハ自(二)ノ解釋及

見解ヲ全然屈シ居ラス妥協案ト稱シテ大使府關係ヲ削除シ

軍管理ノ語ヲ以テ實質上ノ軍政ヲ意味セシメ其ノ原案ヲ強

行スルモノト判斷セラル又安南等ノ獨立問題ハ要領中ニ掲

クルノミニテ實行ノ意ナク時機ニ非ストシテ遷延セシムル

モノト判斷セサルヲ得ス

右ノ如クナルヲ以テ安南等ノ獨立ヲ以テ大義名分ヲ立テン

トスル我方ノ意圖ハ完全ニ封セラレ佛印處理ハ結局佛國打

倒ノ無名ノ師ヲ起スコトニ陥リ今日迄凡ユル苦衷ヲ忍ヒ佛

國主權ノ尊重ヲ持續シ來レル帝國ノ努力ハ水泡ニ歸スルノ

結果トナルヘシ殊ニ其ノ衝ニ當レル我々大使府員ヲ軍政要員タラシムルニ至リテハ帝國外交カ名實共ニ偽瞞ナリシコ

トヲ實證スルモノト云ハサルヘカラス

軍ト接觸ノ狀況不取敢

大使ノ總督宛通譯ハ名目ノ最モ立タサル最後通譯トモ謂フ  
ヘク軍ニ於テハ通告ト同時ニ行動ヲ起ス腹ノ如クナルニ付  
開戰ノ最後通譯以上ニ亂暴ナル遣口ト云ハルモ詮方ナク  
斯ノ如キ交渉ニ大使ヲ利用スルハ畏クモ御名代タル大使ヲ  
侮辱スルモノト謂フヘク帝國外交ニ一汚點ヲ殘スコトナル  
恐ル

小生歸任後右意見具申スルヲ妥當カト思考スルモ現地軍ニ  
於テハ冒頭往電ノ通ドンドン取運ヒ居ルニ付中央ニ於テ何  
等力是正ノ措置執リ得サルモノカト存シ取急キ卑見申進ス

673 昭和20年2月11日 在サイゴン塚本事務所長より  
重光外務大臣宛(電報)

仏印処理をめぐる現地での軍側との折衝につ

き報告

(館長符號)

河内宛貴電館長符號第七號ニ關シ

サイゴン 2月11日前5時55分発  
本省 2月11日後6時40分着

(2) 尚「發動ノ時機ハ別ニ之ヲ定ム」トアルハ更ニ中央ニ  
テ決定スルモノアリヤトノ質問ニ對シ右モ現地軍ニテ  
都合良キ時機ヲ中央ニ打電スレハ夫レニテ決定スルナ  
ラン等ノ説明アリ又ハ「承認ノ時期方法」等モ現地軍  
ノ自由トナル次第ヲ述へ其ノ話振りヨリ察スルニ總參  
謀長出發前信軍司令官ヨリ本官ニ内話セル同司令官ノ

回「再編成」ハ其ノ爲ノ武裝解除ヲ含ムコト

(イ) 「○時間」ハ先ツ二十四時間ナラン等ニ議アリシモ現  
地軍ニテ都合良キ様決定ノコト(參謀總長モ現地軍ノ  
遣リ良キ様ニ遣レト云ハレタルコト)要スレハ一時間  
トスルコト尙實際ハ通告ト同時ニ武力發動トスヘシ等  
述ベ

(イ) 「軍管理」ハ軍制ヲ布ク地ト然ラサル地トアルニ付右  
ノ表現トセラレタルルコト

「○時間」等ノ語ニ付戸村山田兩參謀ヨリ

要望ヲ中央ニ於テ極端ニ貫ケルモノトノ印象ヲ受ケタ  
リ右内話ハ餘リニ機微ナリシニ付司令官ノ人物ヲ知ラ  
サルモノハ誤解ヲ生スルヲ惧レ大使丈ヶニ報告シ置ケ  
ルカ御参考トシテ轉電ス

二、右會同前信軍司令部ニ於テ主任副參謀長室ニテ戸村參謀  
ハ本官ニ對シ貴大臣ノ要望トシテ堂々ト遣レト傳言殊ニ  
佛印問題ハ蘇聯邦ニハ關係ナキコトヲ確言セラレタルコ  
ト等ヲ強調シテ傳へ最モ弱腰ナルヘシト思ハル外務大臣  
カ最モ强硬ナリシハ總參謀長モ意外ニ思ハレタル如シト  
語レリ

三、前項ノ話ノ際副參謀長ハ本官ニ對シ知事ノ仕事ハ仲々面  
白カラント言ヒ軍案トシテ本官ヲ「トンキン」カ交趾支  
那ノ知事ニ擬シ居ルヲ仄カシ他方九日午前信軍參謀長ト  
會見セル際同參謀長ハ「トンキン」ノ知事ハ西村ニテハ  
如何ナルモノカ又松本大使ハ差當リ「ユエ」ニ行キテ貫  
フカ等ト述へ又大使府員ハ司政官ニナルヲ好ミ居ラサル  
由ナルカ眞實ナリヤ（本官自身ハ好ミ居ラサルコト確ナ  
ルモ他ハ未タ意見ヲ徵セルコトモナク何等知ラスト應答  
シ置ケリ）今頃斯ル「セクショナリズム」ニテハ困ツタ

コトナリトカ述ヘ斯クナレハ何モ彼モ打明ケルカト前提  
シ直轄地ニハ名實共ニ軍政ヲ布クコト從テ大使府員全部  
カ軍政監部ニ入ツテ貫ハネハナラス又現機構ヲ維持利用  
スルニハスルモ現在ノ「レヂタン」カ管掌シ居ル程度ニ  
ハ中ニ入込マサレハ行政ノ效果ヲ擧ケ難ク又軍ノ必要ト  
スル物資ヲ確保シ難シト主張シ本官ヨリ大使府員ハスル  
行政ニハ何等ノ経験ナキコト從テ現在ノ大使府機構ヲ存  
續セサレハ能率ヲ上ケ得サルコト又大使府ヲ移動シ行ク  
モ何等ノ支障ナキハ満洲事變支那事變ノ例モアリ少シモ  
不思議ナキコトヲ述ヘタルニ對シ経験ナキ點ハ軍人モ同  
様ナリ唯大使府員ハ佛語ヲ能クスルニ付（本官ヨリ其ノ  
人少ナキヲ告ケ置キタリ）他省員ヨリモ優レ居ルコト（同  
席ノ主任參謀モ此ノ點ヲ強調セリ）大使府ヲ存置スルモ  
何ノ仕事アリヤ在留民ノ保護モ軍ニテナスヘキニ付用ナ  
カルヘシト言フヨリ大使府ハ行政ノ中ニ這ラス顧問ノ形  
ニテ指導スル方可トスト反駁スレハ批評丈ヶニテハ困ル  
中ニ入ラサレハ目的達成シ難シト論シ他地方ニ於ケル軍  
政（之ニハ現地軍トシテ反對セルコト河内發大東亞大臣  
宛電報館長符號第七號及本官發貴大臣宛第三七號ノ通り）

ト略々同様ノコトヲ考ヘ居ルヤニ看取セラレ内地ヨリモ  
幾分ノ要員ヲ連レ來リ又當地居留民中ヨリモ採用スル意  
嚮ヲ示セリ

674

昭和20年2月11日

在サイゴン塚本事務所長より  
重光外務大臣宛(電報)

仮印処理後の軍政下における大使府の取扱い  
につき意見具申

サイゴン 2月11日前5時00分発  
本 省 2月12日前7時40分着

(館長符號)

大使歸着後更ニ申上クルコトトナルヘキモ前電(館長符號)  
ノ諸事實ニ鑑ミ軍管理ノ解釋及大使府員ノ地位任務ニ關シ  
左ノ通り

軍政ヲ施行スルコトヲ止メテ軍管理ニ置クコトトセル經緯  
ニ付テハ我方ト軍側ニ見解ノ相違アルモノト思考セラルル  
處右ハ國際法上占領ト云ヒ得サルヲ以テ斯ノ如キ表現トナ  
リタルモノト存セラル然ラハ今回ノ武力處理ヲ戰爭トシテ  
取扱ハス事變扱ヲ爲シ滿洲事變支那事變ニ於ケルト同様在

外公館ヲ持續スルニ不思議ナシ支那滿洲ニハ治外法權アリ  
タル爲領事館ヲ存續セル旨信軍參謀長ハ述ヘ居ルモ之ハ當  
ラスト云フヘシ即チ領事官職務規則ニ定ムル領事事務ハ治  
外法權ノ有無ニ拘ラス依然存在スレハナリ從テ領事官ヲ監  
督スル大使ノ存在モ不思議ニアラス  
斯ル法理論ハ別トスルモ領事事務ヲ軍政下ニ置クトスレハ  
其ノ事務ハ不案内ノ軍人ニ指揮セラルルコトトナリ能率舉  
カラサルハ勿論中央ノ政策ハ不統一トナリ南方軍政地域同  
様ノ不便ヲ來スヘシ從來ノ大使府員ニ於テ其ノ儘事務ニ當  
ルトスルモ其ノ指揮監督カ統帥部ニ移ル爲總ユル混亂ヲ來  
スコトトナリ(日本人會、國民學校、南洋學院、商工會議  
所其ノ他公共機關ニ對スル指導殊ニ補助金ノ交付等無用ノ  
混亂ヲ見ルコト明カナリ)而シテ現地軍ハ大使府員ヲ各方  
面ノ行政部面ニ使用セントスル意圖ヲ有スルニ付領事事務  
ハ等閑ニ附セラレ在留民ノ困惑一方ナラサルヘシト思考セ  
ラル大使府ヲ存置シ得サル理由ナキニ拘ラス之ヲ廢止ゼン  
トスル軍ノ意圖ハ外部ヨリ何等拘束セラルルコトナキ獨善  
ヲ欲スルニアリ我方最後ノ妥協案トシテ軍最高指揮官ヲシ  
テ大使ヲ兼任セシメ大使タル資格ニ於テ大使府ヲ統率セシ

ムルコトヲ考フル處既ニ武力處理ニ伴ヒ外交使節タル特派

大使ノ任務ハ終了セル次第ニシテ大使ハ所謂行政大使トシテ領事事務ノ指揮監督ヲ主務トスルコトトナリ兼任大使ヲシテ領事官ヲ直接統率スルコトトシテ中間ニ參謀ノ介在ナキコト滿洲ニ於ケル如クセハ軍最高指揮官カ大使ヲ區署ス

ルノ案(此ノ場合ハ參謀力受持々ニテ府員ヲ指揮スルコトトナルヘシ)ヨリモ右兼任制ヲ遙カニ優レリト思考セラル尙安南等ト外交關係設定セラル場合ハ文官大使ヲ專任スルコト素ヨリ必要ナリ竝ニ本官個人ノ意見ニ就キ更ニ大使ヨリ何分ノ儀上申アルモノト考フルモ現地軍ノ準備進ミ居ル次第モアリ取急キ申進ス

(部外絶對極祕)

~~~~~

675 昭和20年2月11日

在サイゴン塚本事務所長より
重光外務大臣宛電報

仮印処理要領案をめぐる現地での軍側との折衝について

サイゴン 2月11日後5時30分発
本省 2月12日前4時00分着

第三三號(館長符號、大至急)

(欄外記入)二十日午後信軍司令官ヲ訪問處理要項案ノ第一案新要領

(措置要領ハ餘り興味ナキ様子ニ付省略)ヲ讀上ケ其ノ意見

ヲ質セル處司令官ハ(一)本件ハ中央ニテ既ニ肚ヲ決メタル模

様ナリ但シ確聞ニハアラス(二)威軍總參謀長ハ召電ニ依リ數

日中ニ上京ノ筈ナルカ此ノ關係モ一要務ニアラスヤト思考

ス之モ自分ノ推測ナリ(三)又總參謀長ニ自分ノ肚ヲ語リ中央

ニ取次ヲ頼ム積リナリ但シ中央ノ意見判明セサルニ付信軍

意見トンテ書キ物ヲ提出スルコトハ差控フル積リ(四)事態ハ

切迫シ居リテ自分ニハ軍政ヲ考ヘル餘裕ナク中央ヨリ連絡

シ來レル軍政參謀ノ任命モ終レリ(五)自分ノ考ヘニハ戰爭以

外ニナク從テ大使公使ノ存在ヲ認メス(六)自分ハ總督トナリ

河内、海防、「ツーラン」、西貢、「ブノンベン」ノ市長ハ軍人トシ大使ハ總督ノ最高顧問トナリ大使府員ハ夫々ノ役

ニ就任セシム西貢、海防市長ハ海軍軍人ヲ以テスルヤモ知レススクシテ軍人ハ專ラ戰鬪ニ從事シ治安ヲ確保スルニ專

念シ政治ハ大使府竝ニ司政官ニ一任スル積リナリ(七)現在政治機構ハ其ノ儘存續シ佛人技術官及下級官吏ハ努メテ存續シタシ日本ニ亡命シ居レル原住民政治家ハ當分近寄ラシメ

ス云々ト語レリ

右四五ノ點ニ付軍政ノ觀念ニ明瞭ヲ缺クモノアリ又ハ法
理的ニ頗ル怪シキ點アリ當方試案ニテ充分司令官ノ意圖ヲ
達成シ得ヘキコトヲ説明セルモ納得行カス別電ノ在留民保

護モ實施官廳何レニナルヤモ判明セスト言ヘルニ夫レハ軍
トシテハ顧ル餘裕ナキニ付領事館ニ一任スルヨリ外ナシト

答フルノミニテ要領ヲ得ス尙右ノ談話ハ參謀長トモ協議シ
居ラス全ク自分ノ肚ノミニテ信軍トシテノ決定案ト言ヒ難
キモ之ニ反スルコトヲ總軍ヨリ押付ケラルカ如キ場合ハ
總軍ニ對シテ免職ヲ申出ル積リナリト語レリ

本件竝ニ貴大使發本官宛館長符號第一號ハ要領大臣宛電報
シ置キ度キモ機微ニ亘ル點多々アリ如何スヘキヤ御指示ヲ
仰キ度ク又貴方ヨリ直接要領御電報願ヘレハ幸ニ存ス

(欄外記入)

本電ハ一月二十日頃西貢塚本事務所長ヨリ河内松本大使ニ宛テ

タル電報ヲ轉電シ來レルモノナリ

~~~~~

676

昭和20年2月12日

在サイゴン塚本事務所長より  
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印處理要領案に関する氣付きの点報告

サイゴン 2月12日後8時30分発

本省 2月12日後10時50分着

K第一號(館長符號、大至急)

河内宛大東亞大臣發電報館長符號第七號ニ關シ

佛印處理ニ關スル氣付ノ點不取敢左ノ通

一、現地軍ハ佛印ニ於ケル總ユル措置ハ現地ニ委セラレタル  
モノトシテ取運ヒ居レリ從テ一般官憲竝ニ在野有力者ノ  
逮捕拘留ニ關スル「リスト」用意中ナリ二月一日決定末  
段ニ記スル方針ニ從ヒ一般官憲ニ對シテハ最モ寛容ニ取  
扱フヘキ旨軍側ニ話セル處努メテ其ノ様ニ措置スヘシト  
贊意ヲ表シ居ルモ仲々具體的決定困難ナル模様ナリ決定  
ハニハ「佛國軍隊等」トアリテ一般官憲モ含ムモノト解

セラルル處在東亞佛國外交官領事官ハ如何ニ取扱ハルル  
中央ノ方針ナリヤ承度シ若シ佛印處理カ對佛宣戰ヲ爲サ  
サル建前トセハ右官憲ハ存續セシムルヲ妥當トセサルヤ  
ト考フル次第ナリ

二、佛印在住外國人ニ對シテハ何等ノ決定ナキ處佛印駐在外

國官憲ノ取扱ニ關シ考慮ノ要アルヘシ

(イ)獨逸休戰協定委員ハ本來ノ任務ナキニ至ルヘキ處佛印駐在外

トテ之ニ閉鎖ヲ要求スルコトハ日獨關係上考慮ヲ要ス

ヘク又之ヲ領事官ニ變更スルコトモ考慮ヲ要スヘシ

(ロ)「タイ」國總領事ノ存廢ハ曰「タイ」關係ヨリ考究ス

ヘキ問題ニシテ在「タイ」國佛國外交官及領事官ノ存

廢モ前記ニ準シ考慮セサルヘカラサルヘシ

(ハ)支那通商代表部ハ華僑對策上存續強化ノ要アルヘシ

(二)瑞西領事事務官(「アジヤン、コンシユレエル」)ハ當地

ノ有力ナル商人ニシテ英米(利益代表事務ヲ行フ)ノ番

犬ノ如ク振舞ヒ我方ニ取り好ハシカラサル存在ナルモ

瑞西カ我方ノ利益代表國タルニ鑑ミ之ヲ閉鎖セシムル

ハ極メテ困難ト思考セラルモ現地軍ニ一任スル時ハ

之カ閉鎖ヲ強要シ重大ナル反動ヲ生スル惧ナシトセス

豫メ中央ノ方針決定ノ要アルヘシ

三、決定因ノ帝國政府聲明ハ中央ニ於テ起草セラルコトト

存スルモ現地軍ニ於テハ印刷ニ時間ヲ要スルニ依リ當地

ニテ作成ノ上早急ニ印刷スヘキ旨語リ居レリ

677

昭和20年2月14日

在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

佛印處理後の大使府の地位及び任務に関する  
大使府員の不満につき報告

サイゴン 2月14日前11時30分発

本省 2月14日後11時50分着

第五號(館長符號、大至急)

往電館長符號K第三號ニ關シ

大使府員ノ地位及任務ニ關シ河内宛貴電館長符號第七號ノ

次第アル處結局冒頭往電ヲ以テ具申セル妥協案ノ成立如何

ニ懸ルモノニシテ軍政同様トナルニ於テハ職員ノ大部分ハ

司政官ニ振向クルノ外ナキモ府員中殊ニ上層部ハ之ヲ希望

シ居ラススル場合辭職ヲ申出ツルモノアルヘキ處其ノ希望

ハ充分御諒察御聽屆ケ相成度殊ニ交趾支那、「トンキン」

ニハ純然タル軍政ヲ布ク現地軍ノ案ナルニ付其ノ長官理事

官級ハ佛語系統ノ府員ヲ擬シ居レルモ現地外交官ハ直ニ軍

政要員トナルハ原則トシテ面白カラサルノミナラス各個人

トシテモ不都合多キニ付右要員ハ本省ヨリ御派遣相成ルカ

退官者中ヨリ御選定アランコトヲ御願ヒス

冒頭往電第一案即チ大使府ヲ其ノ儘存續シ置ク場合ハ本使ノミニ歸朝ヲ命セラル様致度ク第二案ノ場合ハ適當特派公使ヲ選定セラレ兩領事館ヲ擴充スル爲河内西貢海防ヨリ夫々轉勤方發令相成様致度右擴充ニ不必要ノ府員ハ歸朝ヲ命セラルカ又ハ希望ニ依リ軍政要員ニ振向クル様御取計相成度

現地軍ニ於テハ召集又ハ徵用ノ適用ヲ仄シ軍政要員擴充ヲ强行スル氣配アリ甚タ面白カラサル空氣漂ヒ居レルニ付冒頭往電ノ方針御決定ヲ急速ニセラレンコトヲ切望シテ已マ

ス

~~~~~

678 昭和20年2月15日

在仏印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理に際しての在仏印日本外交機関のあ

り方につき意見具申

サイゴン 2月15日前2時00分発

本省 2月15日前11時00分着

K第三號(館長符號)

本使西貢歸着直ニ書類閱讀更ニ塚本ヨリ詳細ノ報告ヲ受ケ

タル處同官ヨリ不取敢電報セル事項ハ貴大臣ノ最高會議ニ於ケル御説明ニ副フモノニシテ本使ニ於テモ意見ヲ異ニスル點ナシ本使トシテハ最高會議ノ決定ヲ最モ忠實ニ且政策的ニ有效ニ施行スル所存ナル處軍側ニ於テ作戦上ノ都合等ヲ云爲シテ決定ノ趣旨ニ副ハサル實際的措置ヲ執ラントスル場合ニ極力其ノ是正ヲ主張スルコトハ現地ニ在ル本使等ノ任務ニシテ貴大臣ノ意ニ副フ所以ト存シ居ルニ付本使等ノ微意ノ在ル所ヲ御汲取リ相成貴大臣ニ於テ當方ノ主張貫徹ニ暖キ御理解ヲ以テ御盡力下サルルコトヲ切望シテ已マ

ス

(一)本使ノ使命ハ佛印トノ交渉ノ外在佛印帝國諸機關ヲ監督シ陸海軍最高指揮官ト協力佛印施策ノ遂行ニアルモノニシテ陸海軍最高指揮官ノ指揮下ニ立ツコトハ何レノ觀點ヨリ見ルモ面白カラス又佛印處理ニ依リテ本使ノ外交官トシテノ任務ハ終了スルモノト存セラレ殘ルハ領事事務ノ監督ノミト言ハサルヘカラス故ニ領事事務監督ノミノ爲専任大使ヲ置クコトハ存在理由ハ立ツモ其ノ必要ハ程度甚タシク低下スルモノニシテ之ヲ軍最高指揮官ニ移管スルモ不可ナシト存セラル唯領事事務ヲ軍ニ委任スル形

トナリテハ軍政施行ト區別ナキコトナルヲ以テ軍最高指揮官ニ大使ヲ兼任セシメ大使タル資格ニ於テ大東亞大臣ニ命ヲ受ケ領事事務ヲ指揮監督スル建前トスルヲ要ス
 ヘシ斯クスルコトニ依リ軍ハ政治的方面ノ負擔輕減シ專心軍務ニ從事スルヲ得ルノミナラス最近ノ臺灣、香港ノ例ノ如ク軍官ノ統一ヲ得シメ軍管理ノ意義ヲ完フルモノト言フヘシ

(二)前項第一段階トシテノ妥協案ハ既ニ塚本ヨリノ報告ニ言及シ居ル所ニシテ理論ト實際共ニ申分ナキ解決案ト思考スルモ軍ニ於テ到底受諾シ得サル事情下ニ於テハ第二段階ノ妥決案トシテ安南「カンボヂヤ」ニ特派公使ヲ派遣シテ其ノ獨立準備期中ノ指導扶育ニ充ラシメ領事官ヲ指揮監督セシムルノ案ヲ以テ妥協スルモ致方ナカルヘキカトモ思考セラル此ノ際ニ於テモ大使ヲ兼任スル軍最高指揮官ノ指揮監督ヲ受クルコトハ同様ナルヘシ要スルニ右兩案共大東亞省指揮系統下ノ官吏ヲ存續スルコトカ主眼點ニシテ右特派公使カ大東亞省系統機關トシテ存置シ得ルニ於テハ大使ノ問題ハ起ラサルモ此ノ場合軍ノ區處權ヲ主張セラルル公算アリテ結局最高指揮官ヲ大使兼任ト

スルコト必要ト思考スル次第ナリ尙「ルアンプラバン」ニ對スル措置ハ何レトモ決定シ居ラサルニ付本案ニ省略セリ

(三)尙第三段階ノ妥協案トシテハ「ユエ」「ブノンペン」ニ總領事館ヲ置キ特派公使ト同様ノコトヲ行ハシムルコトスルモ已ムヲ得サルコトアルヘキ處本案ハ餘り贊意ヲ表シ難ク思考セラル

尙右妥協案ハ現地軍ト交渉スルヨリモ中央ニ於テ大所高所ヨリ軍側ヲ說得セラルコト適切ト思考スルヲ以テ現地軍トハ話合ニ先立チ電報スル次第ニ付原住民ニ對スル政策國際上反響武力處理ノ大義名分等ノ見地ヨリ御検討アランコトヲ切望ス

~~~~~

679

昭和20年2月15日

在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理後の大使府等に対する措置につき現

地軍司令官と意見不一致の旨報告

サイゴン 2月15日後2時00分発  
本省 2月15日後11時00分着

K第四號(館長符號、大至急、部外絕對極祕)

(本電取扱ハ特ニ極祕ニ願度)

十三日夜土橋司令官河村參謀長ヲ帶同シ本使ヲ訪問シタルニ付三人ニテ約二時間ニ亘リ懇談ヲ重ねタリ土橋司令官ハ

本使永年ノ友人ニシテ過般河内滯在中モ本使官邸ニ同宿シタル位ノ間柄ナルニ付御互ニ胸襟ヲ開キ遠慮無ク意見ノ交換ヲ行ヒタルカ双方ノ立場全ク相違シ居ルヲ以テ重要ナル

諸點ニ於テ意見ノ一致ヲ見ス本使ノ甚々遺憾トスル所ナリ

同司令官ノ考ハ一二印度支那カ戰場トナル場合ヲ豫想シ差

當リ現總督府ノ機構體制ヲ維持シ總務長官各局長理事長官

等ノ要職ニ現在ノ大使府員ヲ配置シ以テ一應ノ行政體制ヲ

整へ之ヲ作戰行動ニ利用セントスルニアリテ安南國「カン

ボヂヤ」國等ノ現在ノ地位ヲ壞ス意思ハ無キモ之ヲ育成シ

テ將來完全ナル獨立國タラシメントスル意思ハ全然無ク本

使ヨリ貴大臣ノ最高會議ニ於ケル御説明ヲ傳ヘタルニ司令

官參謀長共ニ軍側ニハスル聯絡無ク安南獨立ノ如キハ戰局

ノ好轉スル迄ハ到底見込無ク從ツテ今日ヨリ之ニ對シ特派

公使ヲ派遣スル等獨立國ノ面目ヲ高ムルカ如キ措置ヲ執ル

コトハ無意味ナリト言ヒ本使ヨリ今回ノ如キ措置ヲ執ルニ

當リテハ民族問題等ヲ振翳シテ大義名分ヲ立ツルニアラス  
ンハ侵略國呼バワリセラルモ言譯立タサルヘシト種々說  
得シタルモ此ノ點ニ關スル意見ヲ變更スル色見エス又本使  
カ總領事館等ハ滿洲事變支那事變等ノ前例モアリ其ノ儘之  
ヲ存置シ司令官自身大使ヲ兼ネテ之ヲ統轄スルコトモ一案  
ニアラスヤト述ヘタルニ對シ總領事館ノ存在ハ最早認ムル  
コトヲ得ス但シ現在ノ大使府員ハ其ノ儘官名ヲ保有セシメ  
軍ノ囑託トシテ仕事ヲシテ貴フ考ニシテ司政長官司令官等  
ニハ轉官セシメサル方針ナリト言ヘリ

尙最高會議決定ニ基ク本使ノ申入ノ時期方法等ニ關シ種々

打合ヲ遂ケタルカ土橋司令官ハ本使ノ申入ハ佛國ニ對スル

仁義ヲ立ツル爲ナルヘク本使ニハ誠ニ氣ノ毒ナルモ之ニテ

不意打ヲ避ケルコトトナリ自分トシテハ助カリタリト言ヒ

但シ交渉ノ時間ハ極メテ短時間精々二時間位トシ度キ意嚮

ナリト述ヘタルニ付本使ヨリ一體先方カ必ス之ヲ受諾ノ見

込アリヤト質ネタルニ見込無キニアラス從ツテ武力行使ハ

短時間ノ交渉ノ結果ヲ待ツテ發動スルコトニシ度ク從ツテ

實際問題トシテ種々困難アル次第ナリト述ヘ居リタリ

又本使ニ對シテハ任務終了後モ司令官ノ最高顧問トシテ事

實上ノ總督ノ仕事ヲ遣ツテ貰ヒ度キ意嚮ナリト言ヒタルニ

付本使ヨリ本使ノ任務ニ關スル大東亞大臣宛往電第六號本

使ノ心情ヲ話シ轉換期ニ當リ司令官ノ仕事ノ側面ヨリ御助

ケスルコトハ素ヨリナルモ其ノ儘居殘ルコトハ絕對ニ御斷

リ致度ニ付御了承アリ度シト述ヘタルニ對シ司令官ハ良ク

之ヲ了解セリ

會談中參謀長ヨリ安南ノ理事長官ハ現地人ヲ以テ之ニ充ツ

ル方針ナリト言ヘルニ付本使ヨリ理事長官ハ安南カ保護國

タルニ基ク特殊ノ佛國官吏トシテ之ヲ現地人ニスルコトハ

全ク意味ヲ爲サスト述ヘタルニ對シ司令官モ理事長官ハ之

ヲ廢止スルニ不如ト述ヘ居タルカ斯ル重要ナル點ニ於テ

軍側ニ研究不充分ナルコトヲ暴露セル實例トモ見ラルヘク

之ヲ要スルニ現地軍トシテハ未タ自信アル爾後方策案ヲ有

シ居ラサル次第ナルカ然リトテ大使府ノ智慧ヲ借リル襟度

モ無キモノト判斷セラルニ付中央ニ於テ出來得レハ最高

會議ニ於テ二月一日ノ決定ノ補足トシテ爾後ノ施政方策ニ

對スル明確ナル方針ヲ決定セラレ之ヲ現地軍ニ御訓令相成

様致度ク中央軍部ヲシテ細目(實ハ細目ニアラシテ原則

ナリ)現地軍ニ委シアリト言フカ如キ逃口上ヲ封殺セラレ

## 二 対仏印關係

ンコト切望ニ堪エス

680 昭和20年2月15日

在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

### 仏印処理後の免官を松本大使より申出について

サイゴン 2月15日後2時00分発

本省 2月15日後11時00分着

第六號(館長符號、大至急)

二月一日最高會議決定ニ伴フ大使府ノ地位ニ付テハ卑見別

電ヲ以テ申進メ置キタル處本使トシテハ客年計ラスモ貴大

臣ノ御推輓ニ依リ大使トシテ印度支那特派ノ大命ヲ拜シ爾

來短時日乍ラ貴大臣ノ御指導ノ下ニ久方振ニ外交官トシテ

ノ本務ヲ盡シ且修養スルノ機會ヲ得テ甚タ本懷ト存シ居ル

次第ナルカ今回ノ決定ヲ見タル上ハ決定實施ト同時ニ任務

終了シタルモノトシテ歸朝ヲ命セラレ歸朝後直ニ本官ヲ免

セラルルコト當然ト心得居レリ

此ノ上本使カ印支ニ居殘ルコトハ佛國側ヲ欺瞞シテ居直リ

タルコトトナリ國際信義上モ誠ニ面白カラス又大使ノ如キ

親任官ニシテ外交官ノ最上級者ノ出所進退ヲ明カナラシム

ル所以ニモアラスト信ス右ハ何等本使ノ私情ヲ交フルコトナク本使印度支那特派ノ大命ヲ拜シタル當初ヨリ抱懷シ居リタル衷情ヲ率直ニ申上クル次第ナルニ付既ニ御氣付ノ御事トハ存スルモ右御含ノ上萬事御手配賜ル様致度ク不取敢申進ス

681 昭和20年2月17日

重光外務大臣より  
在ハノイ西村(熊雄)事務所長 在仏印  
松本大使宛電報

### 在極東仏國官憲と仏本国との連絡状況について

本省 2月17日後6時発

合第二一一號(館長符號扱)

一、佛本國トノ聯絡ニ付テハ

(1)「マルジユリー」ハ本年一月初ヨリ毎週一回 *Vége* (在

瑞西代理公使ナル由)ヲ通シ在支佛國人關係ノ情報ヲ外務省ニ傳フルコトセルカ客年來ノ聯絡ト同様本省ヨリ返電ハナキモ本省ニ到着シ居ルコトハ確實ナリト

爲シ居レリ

(2)「コスム」ニ於テ或ル人物ニ書キ物ヲ托送スルコトト

ナリタルカ客年八月頃ニ比スレハ既ニ事態モ變化シ殊ニ佛本國政府カ其ノ態度ヲ明ニセル今日之ヲ批評シ又ハ變更ヲ求ムルカ如ク解セラルコトハ避ケ度トノ「ド」ノ意見アリ(一月下旬)結局『今日迄在支權益及佛印主權ノ維持ニ成功シ來リ「ペタン」政府解消以來「ド」「コ」「マ」三名ハ個人的發意ニ依リテ事態ノ變ヲ招來スルコトハ避クヘシトノ結論ニ達シ夫々其ノ地位ニ止マリ來レルカ右ハ如何ナル意味ニ於テモ右三名及在極東佛國人ノ本國及本國ニ成立セル政府ニ對スル忠誠ヲ裏切ルモノニ非ス』トノ意味ヲ托送スルコトナレリ

(ハ)尙「ファン」ハ一月二十八日「ブラザヴィル」放送ニ依レハ「ドゴール」カ若シ今日戰爭カ起キタリトセハ佛國ハ日本ヲ敵トシ同盟國側ニ參戰シタルナラントノ比較的の穩當ナル聲明ヲ爲シタル由ナルカ右ハ本國ガ反省シタル爲ナルヤモ知レストナシ居レリ

二、佛印情勢ニ關シテハ

(イ)「ドクー」ハ一月十八日「コスム」ニ對シ東京増兵ニ關スル紛争ニ加フルニ軍費問題未解決ニシテ佛印ノ對

日關係ニ相當重大ナル危機力釀成セラレツツアルコト  
ハ蔽ヒ難シト報シ

(ロ)「マルジユリー」モ佛印ノ事態ヲ懸念シ當方面ニ於テ

モ若干對應策ノ要アリト電報セルニ對シ「ボアサンジエ

一」ハ一月二十二日對日關係ノ危險ノ進展ニ付テハ隨時電報スヘキモ何時事態ノ變化アルヤモ計リ難シト返電セリ

本電宛先 河内、西貢

682 昭和20年2月17日

重光外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

仏印情勢につき報告

本省 2月17日後7時発

第一七六號(館長符號扱)

客年往電第一七九一號ニ關シ

其後ノ佛印情況貴官限り御含迄

一、十二月十三日「ドクター」ハ松本大使着任挨拶ノ際佛印ニ

於ケル佛國權益ノ擁護者トシテ努力スル考ヘニテ此ノ意味ニ於テ日本トノ協力ヲ誓フ旨ヲ述ヘ且「ドゴール」ニ

付テハ佛國人間ニ種々意見アルモ自分ハ之ヲ「ディシダン」トシテ取扱フヲ正當トスル考ヘニテ正統政府ハ將來選舉ニ依リ定メラルヘキモノト考ヘ居レリト述ヘタル趣ニ、尤モ總督其後ノ態度ハ對内的ニハ「ペタン」的色彩ヲ漸次排除シテ内々「ドゴール」ニ迎合スル如ク努メツツアリ(例へハ佛印各地ノ「ペタン」ノ肖像ハ漸次撤去セラレ十二月二十一日總督令ヲ以テ「レヂオン」ヲ廢止シテ「アンサン・コンバッタン」ヲ復活シ一月十一日總督令ヲ以テ祕密結社禁止及「ユダヤ」人排斥ノ法令ヲ廢止シセリ但本件ハ新聞等ニ宣傳スルコトハ差控ヘ居レリ更ニ官廳用紙、官印等ニ從來使用セル Etat Français ナル標章ヲ廢止シ從前ノ République Française (ヲ復活セリ)而カモ總督ハ本國ハ解放セラレ佛印在住者ハ希望ヲ持ツヘントノ年頭ノ辭ヲ放送シ某師團長ハ隸下部隊ニ友軍來リテ侵入者ヲ驅逐スル日近カルヘシトノ年頭ノ辭ヲ祕密ニ回章シ居レリ

三、對日關係ニ於テハ表面友好的態度ノ持續ヲ標榜シツツモ日本側要請ヲ最少限度ニ喰ヒ止メントシ且日本ノ要請ヲ

容認セル事實カ宣傳セラレテ米英等ニ傳ハルコトヲ極度

ニ恐レ居リ殊ニ軍費ニ付テハ本年度ハ兵力増強、飛行場等ノ建設、物價ノ騰貴等ノ爲一、二、三月ノ三ヶ月毎月一億一千萬圓ヲ要求シタル處佛印財政破壞ノ惧アリト爲シ一月中ニ三千五百萬圓、二月十日迄ニ三千五百萬圓ヲ提供(特別圓ヲ對價トスル爲替許可)セルノミニシテ二月中ニハ右以上提供不可能ナリト回答シ來リタルモ斯クテハ到底陸海軍ノ必要ヲ充足シ得サルニ付更ニ極力交渉中ナリ

四、又南支作戦ニ伴ヒ北部佛印ヨリモ我軍ハ南寧方面ニ作戦ヲ開始シ十二月南支軍トノ聯絡成リタルカ其後右ニ關聯シ北部佛印ニ我軍兵力カ增强セラレタルニ對シ一月十六日總督ハ松本大使ニ對シ北部ノ食糧不足及佛印軍ガ防備ニ任シアルコト等ヲ理由ニ其ノ中止方ヲ懇請シ(松本大使ヨリ我方既定ノ方針ヲ通告セルニ止マリ交渉スヘキ事項ニ非ス共同防衛上當然ナル旨應酬セリ)一月三十一日

「モルダン」前佛印軍司令官ハ南方總軍司令官ニ對シ杉大ナル軍費要求ト言ヒ増兵ト言ヒ日本ノ政策ニ變化アルニヤ受取ラルモ戰局ノ見透ハ佛印ニ米英カ手ヲ付クル

可能性萬ナキモノト信スル旨ヲ述へ探リヲ入レ來レリ

五、一方現實ノ事態ハ從前ノ在支基地ヨリスル北部佛印空襲ノ外一月十一日米機動部隊ニ依リ西貢及南部佛印海岸ニ對シ相當規模ノ空襲アリ各方面ニ相當深刻ナル影響ヲ與ヘタルカ如ク二月七日西貢ニ對シ印度方面ヨリスル相當機數ノ空襲アリ佛印全土戰場化ノ空氣濃厚ナルカ佛印當局及佛印軍ノ動向前述ノ如クニシテ相當憂慮セラルル次第ナリ

六、(本項絕對極祕)尙冒頭往電四項ノ佛印總督及在京佛國大使等ノ本國政府ニ對スル意見眞申ハ其ノ後在瑞西佛國代理公使經由電報等ノ方法ニ依リ本國ヘ到達セルモノノ如ク「ドクー」「コスマ」等ハ本國ヨリハ右ニ對シ何等申越ササルモ確ニ其ノ意見カ本國ニ通シタリト爲シ最近ノ「ドゴール」ノ演説等カ對日關係ニ付過激ナラサルハ之カ爲ナリト自慰シ居レリ

獨、支ヘ轉電セリ

獨ヨリ「シグマリンゲン」ニ轉報アリ度

~~~~~

昭和20年2月18日

重光大東亞大臣より
在仏印松本大使宛(電報)

仏印処理後の大使府の取扱いにつき大使以下
職員の現地残留を指示について

本省 2月18日後7時30分発

第七號(館長符號、極祕、至急)
貴電K第五號及六號ニ關シ

今回ノ最高會議決定ニ依リ軍事行動發生シ安南等ノ獨立ア
ルトモ今日ノ東亞戰局ニ鑑ミ軍ニ於テ總チヲ總括スルハア
ムヲ得サル所ニシテ斯ル重要ナル過渡期ニ於テ軍ノ機構内
ニ於テ政策實行ノ爲努力スル必要アリ要ハ政策ノ實行ニ在
リテ軍事行動ト共ニ遲滯ナク獨立工作ヲ行ヒ而テ軍ニ於テ
希望スルニ於テハ大東亞省職員ハ現在ノ儘全員(貴大使ヲ
含ム)軍ノ顧問等トナリ獨立ノ諸國ニ對シテハ特派使節ノ
肩書ヲ以テ政策ノ運用ニ當ルコト可然シ貴大使ノ立場就中
今次交渉ノ特殊性ヨリ見テ居殘リヲ不可トセラル貴見ハ
充分諒トスル所ナルモ國家危局ノ此ノ際貴地大使府力擧ケ
テ大局ニ就キ小異ヲ捨テ善處スルコト望マシク之力爲ニハ
先ツ貴大使自ラ暫クハ殘留セラル様御再考ヲ得度

684 昭和20年2月19日

重光大東亞大臣より
在仏印松本大使宛(電報)

仏印処理問題の経緯及び処理後の大使府の取
扱いについて

本省 2月19日後8時発

第八號(館長符號、極祕)
貴電K第三號、第四號、第五號ニ關シ

一、佛印處理問題ノ全般ヲ通シ本大臣トシテハ安南等ノ獨立
ノ急速實現ヲ第一義ト考ヘ居リ此ノ點ハ最高戰爭指導會
議ニ於テ本大臣ノ特ニ強調シ又決定ニ於テモ原則的ニハ
明白トナリ居ル次第ナルカ軍側ハ作戰ノ困難性ニモ鑑ミ
獨立ノ時期等ハ現地軍ニ一任シ度シト爲シ居ル一方現地
軍ニハ中央ノ意嚮充分反映シ居ラサル模様ナルニ付本大
臣トシテハ今後共機會アル毎ニ獨立ノ急速實現ヲ要望シ
現地軍ニモ徹底セシムルコトトシ且出來得レハ佛印處理
ノ具體的細目ニ關スル事項ヲモ決定シ現地ニ指示スルコ

以上貴大使限り御含迄

尙機構問題等ノ詳細ニ付テハ追電ス

トトスル様取計ヒ度キ所存ナリ

三、大使府ノ處置ニ付テハ事ノ性質上決定中ニハ之ヲ記載セ
ス四省申合等適當ノ形ニテ決定シ度キ考ニテ今日迄度々
事務當局間ニ協議セシメ來レルモ未タ意見一致ヲ見ルニ
至リ居ラサル處本件ニ付テハ軍カ其ノ責任ニ於テ決定ノ
實行ニ當ルコトヲ要望シ且施策ノ一元性及作戰トノ吻合○
ヲ主張スルハ現下ノ情勢ニ於テ一應無理カラヌ點モアリ
此ノ際寧口軍ニ於テ其ノ全責任ニ於テ安南等ノ急速獨立
ノ根本策ヲ實行スヘキコトヲ要望スルコト肝心ニシテ而
テ外交機關ニ付テ軍力施策ノ一元性ノ見地ヨリ安南等ニ
對スル政務ニ付テ外交機關ニ對スル區處ヲ固執スルニ於
テハ此ノ點ハ讓歩スルモ已ムヲ得サルモ唯對安南關係ヨ
リモ將又世界全般ニ對スル關係ヨリモ獨立承認前ヨリ少
クトモ外交代表(特派使節)様ノモノヲ存置スルコトハ必
要ナリト考ヘ居リ此ノ程度ノ案ニテ軍側ト話合ヲツクル
様努力スル所存ナリ尤モ要ハ根本施策ノ實現ニ在ルヲ以
テ已ムヲ得サレハ一時大使府職員ヲ軍ノ機構ニ入ラシメ
(但シ安南國等ニ對シテ外交使節ノ肩書ヲ使用ス)内部ヨ
リ施策推進ニ當ルコトトスル外ナカルヘシト考ヘ居レリ

領事官ニ付テハ在留民關係法令上形式的ニモ軍政施行ノ
建前ヲ明カニセサル限り之ヲ廢止シ得サルヘキヲ以テ之
ヲ存置スルコトニ話合ヲ付ケ度意嚮ナリ(其ノ政務施行
ニ付テハ軍ノ指令ニ從フコトトナルハ已ムヲ得サルヘシ)
尙軍司令官ノ大使兼任ニ付テハ軍側ハ獨立承認後ノ事態
トシテハ軍ノ指揮權ニ付テハ軍側ハ獨立承認後ノ事態
ラス旁々右ハ他地域トノ關係上機微ナル點モアリ此ノ際
當方ヨリ進ンテ取上クルコトハ差控ヘ度意嚮ナリ

三、以上詳細ニ付テハ貴地ニ出張セシメタル東光書記官ヨリ
聽取セラレタク軍側ヨリモ現地軍ト打合ノ爲係官ヲ東光
書記官ト同行セシメタルニ付貴方ニ於テモ更ニ軍側ト話
合ハレタシ

685

昭和20年2月20日

在仏印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

大使府存続問題に關し松本大使より改めて免
官を申出について

サイゴン 2月20日後3時30分発
本省 2月20日後8時50分着

第八號(館長符號、至急)

申添フ

貴電第七號館長符號ニ關シ

大使府カ大局ニ付キ小異ヲ捨テ堂々ト行動スルコト國家危急ノ此ノ際極メテ肝要ナルコトニ付テハ全ク御同感ニシテ本使等モ及ハス乍ラ軍ヲ助クル趣旨ニ於テ軍ノ言分ノ正シキハ容レ誤レルハ正スニ何等憚ル所ナク行動シ居ル積リナリ從テ本使ニ於テモ本件決行後必要トアラハ短期間居残リテ出來得ル限り軍ヲ助クルニ何等異存ナキコト既ニ土橋司令官ニモ話シタル通ニシテ(往電K第四號)右ハ本使ノ責務トサヘ感シ居レリ往電第六號(館長符號)ハ全ク本使ノ私心ヲ去リ冷靜ニ考慮シタル信念ニ基キ申上ケタル次第ナルニ付右轉換期ニ於ケル軍ノ輔佐ノ任務一應終了シ大使府職員ノ地位定マリタル際ニハ歸朝セシメラル様致度永年外交官トシテ終始セラレタル貴大臣ニ於テ最モ好ク本使ノ心情ヲ御了解相成ルモノト信シ懇願致ス次第ナリ

尙右本使ノ心情竝ニ本使限リノ特殊ノ立場ハ大使府ノ幹部ニモ篤ト説明了解ヲ得居ル次第ニテ此ノ爲ニカリソメニモ大使府員カ動搖シテ結束ヲ紊シ又ハ軍トノ協力ヲ拒否スル等ノコトハ生セシメサルニ付此ノ點本使ヲ御信賴相成度右

686 昭和20年2月21日

重光大東亞大臣より
在仏印松本大使宛(電報)

仏印処理に伴う諸案件取扱いにつき訓令

本省 2月21日後10時発

第一號(館長符號、至急)

貴電K第二號ニ關シ

一、佛印ノ武力處理ニ當リテモ佛國ニ對スル關係ニ付テハ國際關係其他ヲ考慮シ當面我方ヨリ進ンテ佛國ヲ敵國ト認メス從テ佛國人、佛國財產ヲ敵國人、敵產トシテ取扱ハサル建前ナリ即チ「ドゴール」假政府ニ付テハ我方トシテハ從來通り之ヲ無視シ從テ其ノ對日宣戰等モ相手トセサル態度ヲ維持スル次第ナリ他方「ペタン」ニ付テハ我方ヨリ進テ「ペタン」ノ元首ノ資格ハ之ヲ否定スルコトナキモ「ペタン」政府ナルモノハ既ニ事實上解消シ居ルモノト看做シ居ル次第ナリ從テ在本邦外交官領事官ノ取扱ニ付テハ佛國人以外トノ接觸ヲ自制セシムル等ノ措置ハ論スルモ(尤モ軍側ニハ此ノ際進シテ斯ル措置ヲ執ル

コト不必要ナルヘシトノ意見モアリ)私生活其ノ他ニ付
テハ從前通ノ取扱ヲ爲ス所存ニシテ他ノ大東亞地域ニ於
テハ成ルヘク本邦ニ準スル様當該國官憲ニ要請スル考ナ
リ

二、佛印ニ於ケル措置振ニ付テモ當方トシテハ成ルヘク大體

ノ要領ニテモ中央ニ於テ決定シ度シト考ヘ居ルモ軍側ハ
現地軍ニ一任シ度少クモ現地軍ノ意見ヲ徵シタル上ニ
非サレハ決定シ難シトナシ居ル次第ナリ尤モ當方トシテ
モ現地軍ノ作戦ノ困難ナルコトハ充分理解ヲ有シ居リ從
テ安南等ノ獨立ニ關スル施策以外ノ細目ノ事項ニ付テハ

相當程度現地軍ノ遣リ易キ様考慮ヲ拂フコト可然シト考
ヘ居レリ

三、佛印側カ我カ要求ヲ容レサル場合ハ大體總督府ナルモノ

ハ解消スル譯ニ付總督以下主ナル佛印官憲ニ對シ何等カ
ノ處置ヲトルコトハ已ヲ得サル所ナルヘク唯下級職員等
ノ活用ノ必要上及一般國際關係上ノ考慮ヨリ總督府首脳
部モ概ネ軟禁程度ニテ日常生活上ノ待遇等ハ努メテ寛大
ナルヲ可トスト考ヘ居レリ

尙決定ハノ「佛國軍隊等」トアルハ武裝警察隊ヲ含ム意

味ニテ用ヒタルモノニシテ官憲ヲ含ム意ニ非ス

四、佛印駐在第三國官憲ニ付テハ貴電ノ通對獨、對「タイ」
對瑞西關係ヲ考慮スル必要アリト考ヘ居ル處軍側ニハ占
領地ニ準シテ總テ職務ヲ停止セシメ度トノ意見モアリ更
ニ詰合ノ所存ナリ

五、帝國政府聲明ハ閣議決定、上奏等ノ手續ヲ經テ決定スヘ
キモノニ付成ルヘク前廣ニ決定ノ上電報スヘシ尙右聲明
ニ準シ現地ニ於テ大使又ハ軍司令官カ聲明ヲ發スルコト
ハ妨ケナキニ付爲念

~~~~~

687 昭和20年2月22日

在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

### 大使府員の地位や特派大使派遣等に關する現 地軍參謀長の意見につき報告

サイゴン 2月22日後11時15分発

本省 2月22日後11時30分着

K第五號(部外絕對極祕、至急)

石澤局長ヘ東光ヨリ

十八日十九日ノ兩日河村參謀長ト面談ノ機會アリタル處其

ノ際參謀長ノ述ヘタル主ナル點左ノ通

中央ヨリ出張シ乍ラ一致セル案ヲ持參出來サルハ困リモノ

ナリ現地トシテハ話ヲ極メル譯ニ行カスト皮肉リツツ(大)

使府職員ハ司政官トセス現身分ノ儘例ヘハ總務長官知事又

ハ安南「カンボヂヤ」ニ對スル顧問等ニ這入ソテ貴フ心算

ナリ(安南「カンボヂヤ」ノ理事長官ハ廢止ス)又佛印カ受

諾セル場合ニ於テモ從來ノ如ク一々本省ノ訓令ヲ仰ク譯ニ

ハ行カス結局陸軍原案ヲ可トスト述ヘ(二)獨立問題ニ對スル

大臣御意嚮ヲ傳ヘタルニ對シテハ現地軍シテモ考慮シ居

ルモノナリト答ヘ(三)特派大使派遣ニ關シテハ考慮シ居ラス

ト述ヘタルニ付右派遣ナル簡單ナル措置ニ依リ安南等ニ對

シ獨立ノ面子ヲ與ヘ現地人ヲ引張リ得ルモノニシテ極メテ

名案ナリト思考スト言ヒタル處右ハ研究ヲ要スヘク司令官

ノ指揮ヲ受ケサル特派大使ハ困ルニ非スヤト反問セルニ對

シテハ指揮ヲ受クルコトハ差支ナク其ノ遣リ方ハ幾通りモ

アリト説明シ置キタルカ參謀長ハ其ノ際之等問題ニ付テ中

央ノ決定アラハ素ヨリ右ニ從フモノナリトノ意嚮ヲ洩シ居

タリ

尙參謀長ハ軍ニ依ル施策ノ一元性及通信權ノ問題ニ言及セ

## 二 対仏印關係

リ以上不取敢

688 昭和20年2月22日

在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

### 仏印処理に対する現地海軍側の見通しについて

K第六號(部外絶對極祕、至急)  
本省 2月23日前0時00分着

石澤局長ヘ東光ヨリ

二十日海軍ヲ訪問シ黒木少將(大使府隨員第一南遣艦隊參謀)及佐々木大佐(西貢海軍根據地先任參謀)ト面談シタルカ其ノ際個人的ノモノナリト斷リツツ洩シタル當地海軍側ノ意見左ノ通

見透シトシテ本件處理ハ到底手際良ク行クトハ思ハレス佛印軍ハ山地ニ入りテ抵抗スヘク(既ニ奥地ニ移駐ヲ開始シツツアリ)米軍ノ本格的爆撃ノ強化並ニ中華民國軍ノ妨害等アリテ治安亂レ民心動搖シ混亂ハ相當長期ニ亘ルヘシ安南獨立ト言フモ順化ニハ有力ナル佛印軍ト行動ヲ共ニスヘク

獨立ト言フモ仲々旨ク行カサルヘシ又陸軍ハ誘導作戦ヲ考へ居ルモノト解スルモ現戦局ヨリ見レハ米軍上陸ノ可能性ハ甚夕稀薄トナリ從テ本決定當初ノ根本理由ハ餘程少クナリタルモノト言ハサルヲ得ス且「クリミヤ」會談ニ於ケル桑港會議ノ開催決定ハ意味深長ニシテ忌憚ナク言ヘハ一旦決定セルモノナリトノ理由ノ下ニ事情乃至狀況ノ變化如何ニ拘ハラス之ヲ强行スル要必シモナキニアラスヤト思考ス但以上ハ佛印ノミヨリ見タル見解ニシテ大局的ニハ又別ノ考慮アルヘン云々

以上何等御参考迄

689 昭和20年2月22日 在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理に対する現地軍及び南方軍の意見及  
び態度につき報告

サイゴン 2月22日後11時50分発

本 省 2月23日前0時00分着

K第七號(部外絶對極祕、至急)  
石澤局長へ東光ヨリ

榎原少佐出張ニ基ク打合ノ結果タル當地信軍及總軍ノ意見並ニ態度ノ要點左ノ通御参考迄

一、獨立問題ニ付テハ中央決定ノ原則ニ從フハ素ヨリナルモ直接其ノ衝ニ當ル信部隊トシテハ治安ノ回復軍ノ基礎確立ヲ第一義トナシ居リ從テ其ノ時期ハ數ヶ月後ト考へリ總軍モ右ニ同意ナル由

二、軍政ナル名稱ハ南方諸地域ニ於ケル軍政ヲ聯想セシムルヲ以テ之ハ使用セス

三、大使府問題ニ付テハ大使ハ最高顧問トシテ當分殘留ヲ願ヒ府員ハ現職ノ儘活用ヲ考ヘ居ルモ特派使節派遣ハ時機尙早ナリ權限ナキ外交代表ノ如キ名稱ヲ附スルヤ否ヤノ問題ハ大ナル考慮ヲ拂ヒ居ラス總軍ハ本問題ニ付テハ信軍ヨリモ更ニ强硬ナル由

四、印度支那力戰場トナル可能性減少シ且桑港會議ナル新事態發生セルモ誘導作戦ノ見地並豫テ準備ヲ進メ居リタル關係上豫定通り實行ノ意図ナリ

吾、「ドクー」カ受諾セルヤ否ヤハ司令官大使ト連絡協議ノ上決定スヘキモ「ド」自身カ假リニ我方要求ヲ容レ書物ニ署名セリトスルモ其ノ後ニ於ケル武装解除ノ進行狀況

ニ依リ佛印側カ受諾セルヤ否ヤノ判斷ヲ下ス要アリ從テ「ド」カ署名セル旨電報シタル際ニ於テ直ニ受諾シタル場合ノ聲明ヲ出スコトハ尙早ニシテ此ノ點ニ付テハ尙打合ノ要アリ

六、一般佛國人ノ取扱ハ中央決定通り寛大トスヘキハ諒承シ居ルモ或ハ狀況ニ依リ逐次一定場所ニ收容スル等ノコトトナルヘシ

~~~~~

690 昭和20年2月23日

在仏印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

大使府存続問題に關し大使府側の意向に配慮

方意見具申

サイゴン 2月23日前0時45分発

本 省 2月23日前1時20分着

K第八號(部外絶對極祕、至急)

石澤局長へ東光ヨリ

今次問題ニ關シテ松本大使及塚本總領事ハ大臣御意嚮ニ全面的ニ副ヒタル堂々且毅然タル態度ニテ而モ極メテ圓満ナル關係ニ於テ當地信及總軍首腦ト折衝ヲ重ネ居ラルハ敬

服ニ堪ヘサル所ニシテ最近軍ノ態度稍改善セルモノト見受ケラレタルニ拘ラス根本的ニ於テハ結局何等ノ進歩ヲモ認メラレス即チ獨立ハ數ヶ月後ト言フハ結局之ヲ考慮セサルニ等シク最近「ドゴール」スラ安南人ニ呼掛ケ居ル事態ニモ鑑ミ寒心スヘキモノアリ大使府ノ地位ハ獨立トハ表裏一體ノ問題ナリトノ政策的見地ヨリ大使及首腦部力頑張リ居ラルル次第ニシテ大使府問題ニ於テ讓歩スル時ハ茲ニ軍ノ機構内ニ入りテ根本施策ノ實現ニ努力セントスルモ言フヘクシテ行ヒ難ク結局獨立問題ハ有耶無耶ノ内ニ葬リ去ラル虞多分ニ存ス

武力處理ニ伴ヒ大使府ノ對佛印政廳關係ノ任務ハ一應終了ヘキモ直ニ内地各省ヲ綜合セル出先行政的機關トシテノ地位ヲ有スルニ至ルヘク殊ニ軍管理ハ軍政ニアラストノ建前ヲ採リ且軍ニ於テモ軍政ナル名稱ヲ使用セサル以上領事館ノ存續スヘキハ勿論大使府ノ解消スラ理由ナキ次第ナリ(内地戒嚴ニ際シ諸機關カ存續スルカ如シ)軍力施策ノ一元性ト作戰トノ吻合ヲ主張スルハ容認シ得ヘシトスルモ軍力大使府機構ヲ一體トシテ活用スルニアラサレハ意味ヲ爲サス從テ中央トシテ具體細目決定ノ場合之等ノ諸點充分御考

慮ヲ煩度シトハ大使及大使府幹部ノ一致セル意見ナリ

尙獨立承認前ニ於ケル軍司令官ノ大使兼任ハ(素ヨリ次善ノ策ナルモ)佛印處理ノ特殊性ニ基クモノニシテ右ニ依リ外務大東亞ノ出先機關トシテノ地位ヲ保存セシメ得ルノミナラス安南及第三國關係ニ於テ民族問題ヲ考慮シ且ハ佛國ニ代リ單ニ印度支那ヲ占領スルモノニアラストノ形式ヲ示シ得ル一石二鳥ノ名案ナリト思考ス大使トシテハ本省ノ御再考ヲ要望セラレ居レリ(他地域ニ及ホス機微ナル關係ハ佛印處理ノ根本問題ニ關スル此ノ際考慮スル要ナキモノト認メラル)

以上當大使府ノ苦心並ニ努力ハ何卒此ノ上共御酌取り相成度右卑見申進ス

691 昭和20年2月23日

(重光大東亞大臣より
在仏印松本大使宛(電報))

仏印處理後の措置に関する陸軍と現地軍との

打合せ内容につき通報

第一三號(大至急、館長符號、絶對部外祕)

本省 2月23日後8時20分發

南方事務局長ヨリ

貴地へ出張ノ陸軍側係官ヨリ現地軍ト打合ノ結果ノ意見トシテ(イ)大使府機構ノ處置ニ付テハ陸軍案ノ「ライン」ニ依ルヘキコト(但シ大使府職員ノ身分取扱ニ付テハ現身分ノ陸軍ニテ活用シ大使ハ政治顧問トス)(ロ)政務處理要綱ニ付テハ現地軍トシテハスルモノヲ作ラルコトヲ好マサルコト(尤モ強テ作成ノ要アリトセハ陸軍側携行ノ原案)、(ハ)ニ付政務全般ニ關シ大使ニ對スル區處權ヲ前提トスルコトニノ(ロ)ニ付實質的ニ軍政ヲ施行スルモ軍政ノ名稱ハ一切使
用セサルコトヲ明確ニスヘントノ意見ナル由(ハ)現地軍トシテハ當面直チニ獨立施策推進ノ意嚮ナキ模様ニシテ在本邦獨立黨員ヲ歸國セシムルコトニ反對ナルコト等ヲ連絡越タル處之ヨリ先重光大臣ヨリ今次決定ノ趣旨殊ニ獨立施策ニ關スル中央ノ意嚮力充分現地軍ニ徹底シ居ラサルコトニ付陸軍首腦部ニ懇談セラレタル結果更ニ事務當局間ニ詰合ヲ爲スコトトナレルニ付御含置アリタシ

692 昭和20年2月24日

(重光大東亞大臣より
在仏印松本大使宛(電報)

仏印処理に関する中央方針の徹底方現地軍へ

要請について

本省 2月24日後7時発

第一四號(館長符號、部外祕、大至急)

往電第一二號ニ關シ

其ノ後種々話合ノ結果

一、安南等カ佛國ノ侵略的勢力ヨリ解放セラレテ獨立スルモノナリトノ建前ヲ明ニスルコトカ現下ノ國際情勢殊ニ對

「ソ」關係ヨリモ是非共必要ナルニ付現地軍ニ於テ此ノ點一層努力アリ度キ旨軍中央ヨリ電報スルコトナレリ
委細追電ス

(省略)

二、政務指導要領ハ大體別電第一五號ノ通係官ノ話合纏リ多少字句修正アルヘキモ二十六日最高戰爭指導會議報告ト

シテ確定スル見込ナリ

確定次第電報スヘキニ付夫レ迄部外祕トセラレ度

三、大使府ニ關スル申合ニ付テハ現地軍ヨリ陸軍案ニ依ラレ度キ旨及大使及大使府員ハ現身分ノ儘活用シ度從軍文官

ニテモ臨時囑託ニテモ差支ナキ旨電報アリ係官ニ於テ大體別電第一六號ノ通取纏メタル趣ニシテ其ノ通確定スル様致度所存ナリ

以上不取敢

693 昭和20年2月25日

(在仏印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

現地軍における仏印処理要領の立案経緯及び今

後の見通しに関する同軍參謀部員内話について

サイゴン 2月25日前3時50分発

本省 2月25日前4時25分着

K第一二號(館長符號、部外絕對極祕、大至急)

石澤局長ヘ東光ヨリ

(二十四)

二十三日三十四日信參謀部員(特ニ名ヲ祕ス)ト會談セル處要點左ノ通り御参考迄

一、客年十月頃ヨリ河村參謀長ノ命ニ依リ密ニ佛印處理ニ關スル立案ヲ命セラレ安南獨立ノ「ライン」ニテ案ヲ作成シ十二月末參謀長之ヲ採用シ司令官ノ下ニテ逐條審議迄進ミタルモ某日司令官ヨリ獨自ノ處理案(獨立デガタガ

タスルハ好マシカラス成ルヘク現機構ヲ壞サス日本カス
ポツト佛印政府ニ取ツテ代ル案)ノ提案アリ(總軍ノ意見
ニ影響セラレタルニアラスヤト想像ス)結局獨立案ハ否
定セラレ右司令官案ヲ總參謀長中央ニ携行シ今次決定ト
ナリタル次第ニシテ苦心シテ立案セルモノトテ甚々遺憾
ニ考ヘ居レリ自分トシテハ右決定ノ下ニ於テ出來得ル限
リ元ノ案ヲ生カスヘク努力シ居ルモ前途ヲ憂慮シ居レリ
二、今次佛印處理ノ根本觀念ハ作戰第一ナリ米軍ノ上陸ヲ豫
想シテノ佛印軍武裝解除ニシテ(右ニ依リ日本軍ノ裝備
戰力ノ急速増強ヲ企圖ス)佛印處理以外ニ米軍ニ取付カ
ルル場合ハ處置無キ次第ナルノミナラス印度支那ハ南方
諸地域中戰略上最モ重要地域ナルヲ以テ米英上陸ハ南方
自戰自活態勢ニ重大脅威ヲ受クヘク從テ右案ハ作戰家ノ
考トシテハ無理カラヌ點アルモ敵上陸シテヨリ獨立ヲ許
ス様ニテハ話ニナラス本案ハ政策的ニハ零ニシテ自分ハ
急速獨立ノ必要ナルヲ痛感シ居ルヲ以テ今次決定ハ極メ
テ暫定的ノモノトシテ進ムコト肝要ナリト考ヘ居レリ
三、然ラハ米英カ近ク上陸スルヤ否ヤハ見透ノ問題ナルカ若
シ當分上陸無シト言フナラハ本件處理ノ最モ重要且前提

694

昭和20年2月26日 最高戰爭指導會議決定

「對佛印武力處理發動ニ關スル件」

●
對佛印武力處理發動ニ關スル件

一、最高戰爭指導會議決定第一六號情勢ノ變化ニ應スル佛印
處理ニ關スル件ニ據ル武力處理ハ (編註) 月旬以降機宜之ヲ
發動スルモノトス

二、同決定第一六號第二要領一ノハノ〇時間ハ二時間トス
三、佛印カ帝國ノ要求ニ應シタリヤ否ヤハ現地陸軍最高指揮
官ニ於テ大使ト連絡ノ上之ヲ決定ス

編　注

空欄箇所は、同決定の内容を伝える昭和二十年二月二十八日発重光大東亞大臣より在仏印松本大使宛電報第

二四号において、「三月上旬」として発電された。

695

昭和20年2月26日 最高戦争指導会議報告

〔印度支那政務處理要領〕

印度支那政務處理要領

佛印處理ニ伴フ政務處理ハ本要領ノ定ムル所ニ據ル

一、佛印カ全面的ニ我カ要求ヲ受諾シタル場合

(イ) 日佛印關係ハ引續キ協同防衛ノ關係ニ在ルモノトス

總督以下佛印側ノ統治機構ハ依然之ヲ存續セシメ以テ

積極的ニ我ニ協力セシムルニ努ム

(ロ) 再編成ニ當リ不要トナリタル佛印軍人及武裝警察隊員

ハ一般人ト同様ニ取扱ヒ俘虜トシテ取扱フコトナシ但

シ我ニ抵抗セルモノハ佛印當局ヲシテ處斷セシメ又ハ

我方ニ於テ俘虜トシテ抑留ス

(ハ) 一般佛國人及佛國人財產等ノ取扱ヒハ概ネ現狀通リト

ス

(二) 安南國等ノ獨立運動ニ對シテハ帝國ハ之ヲ妨害セサルモノトス

(ホ) 通貨ハ在來通貨ヲ使用スルモノトス

二、佛印カ我要求ニ應セス武力ヲ行使スル場合

(イ) 日佛關係ハ戰爭狀態ニ非サルモノトス但シ佛印ニ關ス

ル既存日佛間ノ條約ニ拘束セラルコトナシ

(ロ) 佛印總督以下首腦者ノ職務執行ヲ認メサルモ其ノ處遇

ハ努メテ隱^(隠カ)當ニス

總督府下部機構ハ之カ活用ヲ圖ル

(ハ) 佛印軍人、武裝警察隊員ハ武裝ヲ解除シ抵抗スルモノ

ハ之ヲ俘虜トシ^(シ)否ルモノハナルヘク速カニ再編成ノ上

之カ活用ヲ圖ル

(二) 佛國人及佛國人財產ハ之ヲ敵國人及敵產トシテ取扱ハ

サルモノトス但シ作戰上特ニ必要アル場合ニハ我方ニ

於テ財產ヲ管理シ居住行動等ニ制限ヲ加フルコトアリ

(ホ) 第三國官憲及第三國人ノ取扱ヒハ差當リ限狀ヲ變^(現カ)更セ

サルモノトス

(ハ) 印度支那管理ニ伴ヒ安南國、「カンボヂア」國及「ルアンプラバン」國ニ於テハ此等諸國固有ノ統治機構ヲ

尊重シ我カ方ノ内面指導ノ下ニ適宜其ノ統治ニ任セシム

佛國直轄タリシ地域ニ於テハ軍政ヲ施行ス但シ外部ニ對シテハ其ノ旨明示スルヲ避ケ日本軍ニ於テ一時其ノ行政ノ管理ニ任スルノ建前ヲトルモノトス

印度支那全域ニ亘ル共通事項ニ付テハ差當リ我方ニ於テ之力實施ニ任ス

(ト)安南國等ノ獨立ニ關スル指導ハ左記ニ準據ス

(1)速カニ安南國等ヲシテ自發的ニ佛國トノ保護條約破棄等ノ舉ニ出テシテ獨立回復ノ事現(マツマツ)ヲ闡明ニス

但シ具体的の獨立施策ニ付テハ作戰ニ支障ナキ範圍ニ於テ之ヲ行フモノトス

(2)安南國等ノ獨立的地位ノ向上支援ニ當リテハ原住民ヲシテ積極的ニ我ニ協力セシムルヲ以テ根基トシ特

ニ民族意識ノ昂揚ヲ計ル

(3)安南國等ノ獨立承認ノ時期、方法等ニ關シテハ中央ニ於テ別ニ定ム

(チ)發券銀行ハ我方ニ於テ之ヲ管理シ在來通貨ヲ使用ス但シ所要ニ應シ當初ろ號軍票ヲ併用スルコトアリ此ノ場

合ハ爾後速カニ之ヲ回收スルモノトス

三、經濟對策ハ自給自戰態勢ノ強化ヲ第一義トシ併セテ現地

民生ノ維持ヲ圖ルヲ主眼トス

通貨ノ放出ハ極力之ヲ抑制ス

備 考

廣州灣租借地ニ於ケル政務處理ニ關シテハ本要領ニ準ス

696

昭和20年2月26日

重光大東亞大臣より
在仏印松本大使宛(電報)

「情勢ノ變化ニ應スル佛印處理ニ關スル件」における仏印獨立の真意に関する軍電報送付について

別 電

昭和二十年二月二十六日発重光大東亞大臣より

在仏印松本大使宛第一九号

右軍電報内容

本 省 2月26日後3時30分発

第二〇號(館長符號、部外祕、大至急)

往電第一四號ノ一二關シ

陸軍次官次長發威信參謀長宛電報要旨別電第一九號ノ通御
含迄

約延長後まで延期すべしとの大使府意見について

(別電)

本省 2月26日後3時発

本省 2月27日前10時00分着
サイゴン 2月26日後7時30分発

第一九號(館長符號、部外祕、大至急)

過般通牒セシ最高會議決定要領四ノ「現地軍ニ於テ適宜安南國等ノ獨立的地位ヲ向上支援ス」ノ件ハ中央ニ於テハ現地軍ノ本施策實施ニ即應シテ諸外國就中「ソ」ニ對シ今回ノ武力行使ノ非侵略性ヲ宣明スルノ資ニ活用致シ度所存ニ付(佛國ノ羈絆ヨリ脱シタルコトニ依リ佛國ト安南國等トノ間ニ締結セラレアル保護條約ハ自然消滅シタルノ事實ヲ闡明セントスルモノニシテ特ニ速急ニ獨立ノ具體的施策ヲ强行スルノ意ニ非ス)最近ニ於ケル國際情勢ノ機微ナル點モ併セ考慮セラレ右趣旨ノ具現ニ關シ此上共配慮相成度本件昨二十二日最高會議ニ於テ更メテ了解セラレタル所ニ付爲念

~~~~~

K第一三號(館長符號、大至急)

當大使府ニハ御承知ノ通「ソ」聯關係ノ者アリ是等ヨリ左ノ通意見提出アリ本使ニ於テモ同感ニ付二月二十日附往電ト重複ノ嫌ヒアルモ重ネテ申進ス御勘考相煩度

二月一日ノ決定ハ政治的考慮ハ全然別トシ純粹ニ作戦上ノ理由ニ基ク軍側ノ主張ヲ實際上貫徹セル關係上敵側ノ佛印上陸ノ可能性遠退キタル現在全ク大義名分ヲ缺キ若シ右決定ヲ其ノ儘遂行スル時ハ佛側ハ之ヲ目シテ我方ノ侵略主義ト宣傳スヘク前佛印總督「カトルウ」莫斯科ニ大使トシテ著任セル今日右宣傳ハ「ソ」聯側ニ相當影響ヲ及ホスヘク他方米英又「ソ」聯ニ對シ之ヲ名トシテノ對日戰參加强要ニ狂奔スヘキヲ以テ歐洲問題戰後機構問題等ニ付相當橫車ヲ押シ來レル「ソ」聯トシテハ國內復興其ノ他世界政策的見地ヨリ此ノ際右ヲ口實ニ對日態度變更ノ身振リヲ示スコトヲ有利ト認メ中立條約ヲ廢棄スルノ舉ニ出ツル可能性大ナリト思考セラルニ付兎モ角モ本件決定ノ實施ハ四月二ノ連への配慮から仏印武力処理發動は日ソ中立案

二 対仏印關係

697

昭和20年2月26日 在仏印松本大使より

重光大東亞大臣宛(電報)

十五日以降ニ延期セラルコト緊要ト存セラル

軍側ノ説明ニ依レハ右決定ニ先立チ本件ノ結果「ソ」聯ノ

策動ヲ誘發スル結果トナル心配アルニ於テハ軍ニ於テハ取

止メトスル肚ナリシ處貴大臣ニ於テ其ノ心配ナシト保障ヲ

與ヘラレタルニ依リ安心シテ決定取纏ノ運ヒトナリタルモ

ノト稱シ居ル次第ニシテ其ノ後「ヤルタ」會談ノ結果發表

ニ基ク世界情勢ノ變化並ニ大義名分ノ缺如ハ軍側ニ於テモ

承知シ居リ今日トナリテハ最早「一旦決定セルコトハ準備

成リタル關係モアリ反對ノ命令ナキ限り實行スルノ外ナシ」

ト言フ迄ノコトニシテ貴大臣ニ於テ此ノ際情勢ノ變化ヲ理

由ニ本件決定實施ヲ四月二十五日以降ト爲スコトヲ主張セ

ラルニ於テハ軍側ニ於テモ右期日迄ニ米軍上陸ノ公算少

シト見ル限り本件延期ヲ承諾スル可能性アルモノト存セラ

ルルニ付是非共右様貴大臣ノ御盡力相煩度懇願ス

~~~~~

698 昭和20年2月27日 在仏印松本大使より

重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理後の領事館存置につき陸軍と協議の

上現地軍へ指示方要請について

サイゴン 2月27日後5時15分発

本省 2月27日後8時10分着

K第一四號(館長符號、大至急)

貴電第一六號ニ關シ

佛印側ノ受諾セナル場合ノ大使府ノ措置ハ御來示ニ依レハ

結局現地軍ニ一任セラルコトナル様解釋セラルモ領

事館ノ存置ニ付テハ屢次往電當方稟申ノ理由ニ基キ別途考

慮ノコト存スルニ付右存置方ニ付本省ニ於テ陸軍ト御話

合ノ上明確ニ出先軍ニ指示アル様御取計方御配慮アリタシ

。 。

699 昭和20年2月27日 在仏印松本大使より

重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理後の大使府員待遇は大使に一任すべ

き旨意見具申

サイゴン 2月27日後6時30分発

本省 2月27日後7時25分着

K第一五號(館長符號、大至急)

次官ヨリ

大使府職員ノ身ノ振方ニ付テハ現地軍ノ希望ヲ考慮シ本人

等ノ同意ニ基キ本省ニ於テ陸軍ト交渉決定セラルヲ本則
ト存スル處右ハ急場ノ間ニ合ハス又ハ事態ニ即應セサル場
合ヲ生スル惧アルヘキニ付現地ニ於テ適當最善ノ措置ヲ執
リ得ル爲松本大使ニ全權ヲ御委任相成ルコト此ノ際最適宜
且必要ナリト存スルニ付右然ルヘク御配慮相煩度

大使ト協議済

700 昭和20年2月28日

在仏印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理後の大使府員の待遇に関する現地軍
との交渉経緯について

サイゴン 2月28日後7時00分発

本 省 2月28日後8時00分着

K第一六號(館長符號、大至急)

二十七日午前本使官邸ニ河村參謀長竹内次官ヲ來訪シ軍政
問題ヲ話出セル趣ニテ次官ヨリ事務所ニ電話アリタルニ付
塚本ヲ同席セシメタル處參謀長ハ
大使ハ一時軍司令官顧問トシテ總督府ノ運轉ニ油ヲ注入シ
テ頂キタシ

塚本ハ總務長官トシテ輔佐官一名ヲ大使府員ヨリ選定シ更
ニ總督府官房長ヲ選定シテ頂キタシ(軍部ノ意見トシテ官
房長ハ倉持囑託ヲ適任トスル意見アリト追加ス)

蓑田ハ經濟局長トス

西尾ヲ土木總監

久保田ヲ交趾支那知事(原住民ヨリ知事ヲ得タル場合ハ其
ノ顧問)

西村ハ「トンキン」理事長官(括弧内前項ニ同シ)

河野ハ「カンボヂヤ」王國顧問

小長谷ハ「ラオス」理事長官兼「ルアンプラバン」王國顧
問

横山顧問ハ安南王國顧問

其ノ他警務總監ハ憲兵隊長財務局長ハ正金支店長法務關係
ハ軍政地域ヨリ司政官ヲ選定シ河内海防「ツーラン」原住
民官吏中ノ先任者ヲシテ代理セシメ日本人顧問ヲ置ク等ノ
信軍腹案ヲ語レルニ付塚本ヨリ日本人カ表面ニ現ハルルコ
トハ從來通り反對意見ヲ有スルコトヲ告ケ次官ハ塚本ノ言
フコトヲ聞カレ度キ旨語リ大使ト協議ノ上更ニ連絡スヘキ
旨答へ會談ヲ終リ塚本ハ直ニ右ノ趣ヲ本使ニ報告シ個人的

問題トシテ軍ニ於テ總務長官ヲ是非ニ引受ケシムルコトハ

決定方要請

對外關係上(三字脫)ニ立入りタルコトヲ示ス具體例トナル

サイゴン 2月28日後8時20分発

ニ付極力反對セラレ度キ旨ヲ申出テ若シ軍ニ於テ聽カサレ

ハ辭意聽許方ヲ願出テ久保田亦同様ノ理由ニ依リ辭表ヲ提

出シ來レルニ付同日夜土橋司令官ノ來訪ヲ求メ右兩者ノ辭

意アル所ヲ傳ヘ總督府局長及地方長官級ヲ日本人ヲ以テ充

ツルコトハ對外關係上又外交官トシテノ立場上絶對ニ不可

ニ付總テ大使府員ハ顧問トナリテ勵キ得ル様再考方ヲ求メ

タル處司令官ハ自分ハ異存ナキモ軍モ機構ヲ有スルニ付協

議ノ結果ニアラサレハ確言シ難キモ大使ノ御希望ニ副フ様

努力スヘシト約シテ引揚ケタリ

事態斯クノ如クニシテ往電K第一〇號本使ノ稟申ト甚タシ

ク懸隔アルニ付司令官ノ回答ヲ待テ更ニ何分ノ訓令ヲ仰ク

心算ナリ本件ハ機微ナル點アルモ現地ノ事情切迫ノ爲次官

トモ協議ノ上不取敢右報告ス

K第一七號(館長符號、大至急)
往電K第一六號ニ關シ

K第一六號ニ關シ

二十八日午前河村參謀長本使ヲ來訪(塚本同席)前電土橋司

令官ニ述ヘタル當方意嚮ニ對スル回答ヲ齎シタルカ(詳細

別ニ電報ス)其ノ際領事館存置問題ニ付テハ信部隊トシテ

ハ各種ノ在留邦人問題事務ノ爲ニハ寧ロ其ノ存續ヲ希望シ

居レルモ右カ問題ノ申合セニ於テ明カラサルト共ニ總軍

ニ於テ反對意見アル爲自分トシテハ決シ兼ネ居ル實情ナリ

從テ本件ハ中央ニ於テ決定アラハ却テ好都合ナリトノ意見

ヲ述ヘ居タリ就テハ此ノ際大至急領事館存置ノ大綱ノミニ

テモ決定相成リ現地ニ指示アル様御取計方希望ス

~~~~~  
トモ協議ノ上不取敢右報告ス

701 昭和20年2月28日 在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

現地軍の提案に従い仏印処理後の領事館存置  
リ大使府側要望事項承諾の旨通告について

702 昭和20年2月28日 在仏印松本大使より  
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理後の大使府員の待遇に關し現地軍よ

サイゴン 2月28日後9時00分発

本省 2月28日後10時30分着

去セリ不取敢

K第一八號(館長符號、大至急)  
往電K第一六號ニ關シ

二十八日午前河村參謀長事務所ニ塚本ヲ來訪二十七日夜本

使ヨリ司令官へ懇談セル事項ヲ皆承諾スル旨ヲ告ケ更ニ本

使ニ面談シ具體的佛譯語等ヲ相談セルニ付參事官以上ハ之

ヲ皆「コンセイエ、オウ、グウベルタマン、ゼネラル」

(司令部顧問)トシ總務長官局長等ハ *faisant fonction du (○*

○事務管掌)ト稱シ適當ノ現地人ヲ選任スル迄ハ空位ト爲

スコト然ルヘシト述ヘタル處勅任官ハ顧問トシテ異議ナキ

モノト思考スルモ奏任官ハ研究ノ上決定シタク尙府員ヲ如

何ニ振當テルヤハ大使府ニテ立案シ頂キタシト述ヘ陸軍次

官ヨリノ電報(政務處理要綱及大使府機構ニ關スル申合セ)

ヲ示シ「直轄地ニハ軍政ヲ施行ス」トナリ居ル爲信軍トシ

テハ實ニ困リ居ル次第ニテ成ルヘク右ニ捉ハレス從來ノ構

想ニテ取運ヒタキニ付其ノ心算ニテ右ノ件立案願度ク尙領

事館ヲ如何ニスルヤニ付テハ何等明示シ居ラサルニ付大使

府ヨリ照會アリタキ旨ヲ依頼シテ(往電K第一七號參照)辭

## 二 對仏印關係

703 昭和20年2月28日

重光大東亞大臣より  
在仏印松本大使宛(電報)

「對佛印武力處理發動ニ關スル件」における

留意事項について

本省 2月28日後7時10分発

第二三號(館長符號、大至急)

二月二十六日最高戰爭指導會議ニ於テ「對佛印武力處理發動ニ關スル件」別電第二四號ノ通り決定ヲ見タル處

(一)右決定、ハ極メテ重要ナル統帥事項ナルニ付御如才無キ

コトトハ存スルモ機密保持方特ニ御注意アリ度

(二)右決定ニ、「二時間」トアルハ貴大使ヨリ先方ニ對スル

所要ノ説明終了後先方ヲシテ考慮セシムル爲ニ與フル時

間ナリ(此點ニ付テハ委細追電スヘシ)

(三)中央ニ於テモ諸般ノ準備ノ都合アルニ付貴大使ト先方ト

ノ面會時刻確定次第大至急(遲クトモ右時刻ノ二十四時

間位前三當方ニ屆ク様)電報アリ度

(四)發表其ノ他ノ關係モアリ右面會ノ場所、會談ノ手筈、形

式等ニ付貴大使ノ御心組ニテモ豫メ電報アリ度

(五) 本件決定ヲハ「印度支那政務處理要領」原案四、ヲ修正セ

ルモノニシテ右ハ總督自身カ我方要求ヲ拒否セル場合ハ

問題無キモ總督ハ我方要求ヲ容レタルモ部下ノ官憲等力

之ニ反抗スルカ如キ「デリケート」ナル事態ノ發生スル

場合ヲ考慮シ佛印カ我方要求ヲ容レタリヤ否ヤノ最後的

決定ハ陸軍最高指揮官ヲシテ貴大使ト連絡ノ上之ヲ爲サ

シムルモノナルコトヲ明カニセル次第ナリ尙、海軍ハ陸

軍最高指揮官ノ隸。下ニ在ルニ鑑ミ海軍最高指揮官ナル字

句ハ削除セル次第ナリ

(六) 廣州灣ニ對シテハ暗號ノ關係上本件其他佛印處理ニ關ス

ル決定申合等ハ一切軍電ニ依リ承知セシムルコトトセリ

~~~~~

昭和20年3月1日 最高戰爭指導會議報告

「佛印處理ニ伴フ聲明ニ關スル件」

● 佛印處理ニ伴フ聲明ニ關スル件

一、佛印カ全面的ニ我カ要求ヲ受諾セル場合

(1) 帝國政府聲明ハ之ヲ行ハス

(四) 必要ニ應シ現地ニ於テ佛側ト協議ノ上適宜當局發表ヲ
行フ

二、佛印カ我カ要求ニ應セサル場合

別紙ノ趣旨ニ依リ帝國政府聲明ヲ行フ

別 紙

佛印カ我カ要求ニ應セサル場合ノ帝國政府聲明案

帝國ハ印度支那ノ共同防衛ニ關スル佛國トノ約定ニ基キ、

終始一貫印度支那ニ於ケル佛蘭西官憲及軍隊ト協力シ同方

面ノ防衛ニ當リ來レルモ戰局ノ推移ト共ニ佛蘭西出先官憲

ノ態度ハ漸次變更ヲ來シ米英等ノ印度支那攻擊ニ對シ共同

防衛ノ實ヲ示ササルニ至レリ

我カ代表ハ之ニ對シテ累次反省ヲ促シタルモ遂ニ其ノ效ナ

キヲ以テ帝國軍隊ハ目前ニ迫レル敵ニ對シテ單獨ニ印度支

那ヲ防衛セサルヘカラサルニ立チ至レリ即チ帝國軍隊ハ印

度支那ノ防衛ノ爲敵性官憲ヲ排除シ我ニ協力スル現地官憲

ニハ援助ヲ與ヘ以テ相共ニ協力シテ所期ノ目的ヲ達セント

スルモノナリ

以上ハ軍事上已ムヲ得ス取リタル處置ニシテ且之ヲ其ノ必

要ナル最少限度ニ止ムルモノナリ從ツテ帝國ハ何等印度支那ニ對シテ領土的企圖ヲ有スルモノニ非ルハ勿論ニシテ東

亞侵略ノ勢力ニ對シ其ノ郷土ヲ防衛セントスル印度支那ノ住民ニ對シテハ有ラユル援助ヲ辭セサルヘク久シキニ亘リ

テ彈壓セラレタル彼等ノ民族的獨立實現ノ要望ハ大東亞共同宣言ノ趣旨ニ基キ全幅的ニ之ヲ支援スルモノナルコトヲ

併セテ茲ニ聲明ス

~~~~~

705 昭和20年3月1日 最高戰爭指導會議報告

「佛印處理ニ伴フ對「タイ」施策ノ件」

佛印處理ニ伴フ對「タイ」施策ノ件

帝國ノ「タイ」國ニ對スル態度ハ既定方針ニ據リ特ニ其ノ

動搖ヲ防止シ對日協力ヲ促進スル爲左ノ通り施策スルモノトス

一、現政府ヲ支援シ其ノ政治力強化ヲ圖ルト共ニ此ノ際特ニ  
對「タイ」援助ノ強化ニ努ム

二、佛印處理發動後機宜大使ヲシテ帝國ノ佛印處理ノ眞意竝  
ニ帝國ノ「タイ」國ニ對スル態度ハ從前ト何等變化ナク

三、其ノ自主獨立ノ支援ニアル旨ヲ説明セシム

(イ)日本軍ノ行動ニ伴ヒ「タイ」領内ニ遁走スルコトアル  
ヘキ佛印軍隊等ノ武裝解除方  
(ロ)佛國外交官佛國人ノ處理等ニ付帝國ト同調方  
要請セシム

四、佛印處理ニ伴ヒ印度支那「タイ」國間ノ物資交流竝ニ交  
通連絡ノ促進ヲ圖ル

~~~~~

706 昭和20年3月1日 最高戰爭指導會議決定

「佛印處理ニ伴フ廣州灣租借地處理ニ關スル件」

佛印處理ニ伴フ廣州灣租借地處理ニ關スル件

佛印カ我力要求ニ應セサル場合廣州灣租借地ニ付テハ印度支那政務處理要領ニ依リ措置スルモ國民政府ニシテ自主的ニ右行政ヲ接收スル場合ニハ帝國ハ之ニ同意スルモノトス

~~~~~

707 昭和20年3月1日

重光大東亞大臣より  
在仮印松本大使宛(電報)

仮印処理に伴つ現地機構に関する関係省申合せについて

別電一 昭和二十年三月一日発重光大東亞大臣より在

仮印松本大使宛第二九号

「對佛印武力處理ニ伴フ關係省申合」

二 昭和二十年三月一日発重光大東亞大臣より在

仮印松本大使宛第三〇号

右関係省申合せにおける大東亞省出先機関に

関する了解事項

本省 3月1日後8時発

第二八號(館長符號、大至急)

佛印処理ニ伴フ現地機構ニ關シ別電第二九號ノ通二月二十

六日内閣、陸、海、外、大東亞各省間申合セ決定スルト共  
ニ右申合セノハノ場合ニ於ケル大東亞省出先機關ノ地位、  
身分ニ關シ軍側ト種々折衝ノ結果別電第三〇號ノ通三月一  
日外務省政務局長、大東亞省總務局長、陸軍省軍務局長間  
ニ諒解成立セリ(軍ヨリモ電報濟)依テ貴電K第一五號ノ件

(別電一)

本省 3月1日後8時発

第二九號(館長符號、大至急)

「對佛印武力處理ニ伴フ關係省申合」

最高戰爭指導會議決定第一六號「情勢ノ變化ニ伴フ佛印處理ニ關スル件」ノ實行ニ伴ヒ現地機構ヲ左ノ通措置ス

記

一、佛印カ全面的ニ帝國ノ要求ヲ受諾シタル場合ニ於テハ大  
使府ハ之ヲ存續ス但シ政務ノ處理ニ當リテハ大使ハ現地  
軍最高指揮官ノ同意ヲ得テ之ヲ行フモノトス

大使ノ隨員中所要ノモノヲ軍ノ要員トシテ活用ス

二、佛印側カ帝國ノ要求ヲ受諾セス之ヲ軍管理下ニ置キタル  
場合ハ大使、隨員(總領事、領事等ヲ含ム)ハ其ノ身分ヲ  
存シ軍ノ囑託又ハ從軍文官トシテ軍ニ於テ活用ス

ニ付テハ前記方針ノ範圍内ニ於テ貴大使ノ御裁量ニ依リ適  
宜措置セラレ事後本省ニ御報告アリ度  
宣措置セラレ事後本省ニ御報告アリ度

本省 3月1日後8時発

大使府員に対し仏印処理後の同地における行  
政事務執行方訓令

本省 3月2日後9時発

第三〇號(館長符號、大至急)

對佛印武力處理ニ伴フ關係省申合ニノ場合ニ於ケル大東亞省出先機關ニ關スル諒解事項

一、大使ハ軍囑託トシテハ最高指揮官ノ政務ニ關スル顧問タ

ルモノトス但シ大使ノ軍囑託タルコトハ外部ニ發表セス

二、法令ニ基ク領事事務ハ引續キ領事官ヲシテ之ヲ行ハシム

但シ右領事官ト雖モ同時ニ軍囑託トシテ軍司令官ノ方針

ニ遵由セシムルモノトス

三、大東亞大臣及外務大臣ヨリ大使及總領事等ニ宛タル文書、

電報ハ人事、會計及一般情報ニ關スルモノヲ除キ豫メ陸

軍省ト協議スルモノトス

四、大使及總領事等ハ其ノ受信ヲ總テ軍司令官ノ閱覽ニ供ス

ルモノトシ其ノ發信ハ軍司令官ノ同意ヲ得テ之ヲ行フモ

ノトス

但人事、會計ニ關スルモノハ此ノ限りニ在ラス



二 対仏印關係

708 昭和20年3月2日

重光大東亞大臣より  
在仏印松本大使宛(電報)

第三一號(大至急、館長符號)

館長符號貴電K第一六號ニ關シ

總務長官、經濟局長等總督府ノ上級機關及地方長官(但シ理事長官ハ保護條約ニ基キ派遣サレ居ルモノナルヲ以テ政務處理要項ニ(ト)1)ノ次第モアリ我方トシテハ派遣セサルコト適當ナルヘシ)等ノ行ヒ來レル職務ハ一日モ廢止シ得サ

ルモノニシテ大使府側ニ於テ之カ引受ヲ拒絶スル場合ハ現

地軍ニ於テ現役軍人又ハ現地軍關係者ヲ之ニ充ツルコトト

ナリ却ツテ面白カラサル結果トナルヘキヲ以テ此ノ際大使

府職員ヲシテ事實上是等ノ職務ヲ執行セシムルコト適當ナ

リト思考ス但シ政務處理要項ノ趣旨ニモ鑑ミ總領事領事等

ヲシテ之等行政的任務ヲ擔當セシムルニ際シテハ例ヘハ何

某任。交趾支那知事等ノ終令ヲ用フルコトナク總領事何某ニ

交趾支那知事ノ事務取扱又ハ事務管理ヲ命スル等ノ形式ニ

依ルヲ適當トスル意見ナリ(本件趣旨ニ付テハ陸外トモ諒解)

1257

委細永井事務官ヨリ御聽取ノ上善處アリ度

709

昭和20年3月2日

重光外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

仮印処理決定による対ソ關係への影響に鑑み  
ソ側への説明等しかるべき措置方訓令

本省 3月2日後5時発

第三五二號(館長符號、緊急)

佛印ノ情勢ハ累次往電(往電第二七六號等)ノ通總督府及佛印軍ノ向背ハ全ク信賴シ難ク敵力既ニ現實ニ印度支那ニ攻撃ヲ加ヘ來リツツアルニ對シ共同防衛ノ實ヲ示ササルニ至レルヲ以テ最後的反省ヲ促ス爲メ協力強化ニ關シ近ク或種ノ要求ヲ提示ノ上先方之ニ應セサレハ武力處理ヲ行フコトニ方針決定ヲ見タリ

右決定ノ内容ニ付テハ先般既ニ係官ヨリ宇山傳書使ニ托送概要守島公使ニ内報濟ナルノミナラス門脇參事官ニ委細傳言シアルヲ以テ右ニ依リ御承知相成度

本件決定ニ當リ之カ對「ソ」關係ニ及ホスコトアルヘキ影響ニ付テハ篤ト考慮シタル次第ナルカ佛「ソ」同盟ニ付テ

ハ既ニ貴大使ニ於テ東亞ニ適用ナキ旨一應「ソ」側ノ言質ヲ得居ラル次第ニモアリ旁々帝國トシテ此ノ際佛印當局ノ印度支那共同防衛取極ニ反スル不協力ノ態度ニ鑑ミ單獨ニ右防衛ヲ行フノ已ムヲ得サルニ至リ軍事上必要ナル最少限度ノ措置ヲ採ル外ナキニ至レルモ佛印ニ對シ何等領土的企圖ヲ有セサルハ勿論印度支那ノ被壓迫民族ノ民族的要望ニ對シテハ大東亞共同宣言ノ趣旨ニ基キ全幅的ニ之ヲ支援

スルモノナルコトヲ明ニシ(安南カンボジヤ等ハ佛蘭西トノ保護條約ヲ廢棄シテ獨立スル豫定ナリ)毅然タル態度ヲ以テ臨ミ本件カ對「ソ」關係ニ影響スルコトナキ様致度キ所存ナルニ付テハ右御含ノ上御裁量ニ依リ「ソ」側ニ説明ヲ與ヘラルル等可然御措置相成度尤モ本件ハ事ノ性質上武力發動ニ至ル迄ハ嚴ニ機密ヲ保持スル必要アル次第ニ付追テ何分ノ儀電報スル迄貴大使限リノ御含ニ止メラレ責任國側ニ對スル措置ハ右電報接到後ト致サレ度爲念

710

昭和20年3月3日

重光外務大臣より  
在獨國大島大使宛(電報)

仮印処理につき獨國政府へ内報方訓令

本省 3月3日後6時00分発

仏印処理につき「シグマリングン」側に適宜  
説明方訓令について

本省 3月3日後10時発

第一四一號(緊急、館長符號)

戰局ノ推移ニ鑑ミ左ノ通り獨逸政府ニ内報シ置カレ度シ

帝國ハ印度支那ニ於テ共同防衛ノ約定ニ基キ終始一貫佛蘭

西官憲及軍隊ト協力シ同方面ノ防衛ニ努メ來レルモ米英ノ

佛本國占領後ハ佛蘭西出先官憲ハ「ペタン」政府ハ解消セ

リト爲シ「ドコール」及米英等ノ意ヲ迎フル急ニシテ且祕

ニ之ト連繫ヲ試ムルニ至リ敵ノ上陸ヲ待チテ帝國ニ敵對セ

ント準備シ居ル有様ナル一方敵ハ既ニ艦隊及航空兵力ヲ以

テ佛印ニ攻撃ヲ加ヘ來リ居リ佛印側動向ハ極メテ重大ナル

モノアルニ付帝國ハ近ク共同防衛ノ根本精神ニ基キ佛印當

局ニ對シ我方ニ對シ一層緊密ニ協力スル様要請スル外ナキ

情勢ニ在リ

本電ハ在蘇、在滿、在支、在西貢各大使及在「ビルマ」、

在「タイ」大使(要旨ノミ)へ大使限り含ミ迄トシテ轉電セ

リ

~~~~~

二 対仏印關係

711

昭和20年3月3日

重光外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

差支ナシ

~~~~~

第一五〇號(館長符號、緊急)

三谷大使ニ對シ左記至急轉達アリ度シ

在獨大使宛往電第一四一號及第一四六號ニ關シ

「シグマリングン」側ニ對シテハ本件ニ付何等交渉シ又ハ

諒解ヲ求ムル要ナキハ勿論ノ義ナルモ對獨關係ヲモ考慮シ

貴大使ニ於テ御裁量ニ依リ個人ノ資格等適當ノ形ニ於テ事

後的ニ(即チ佛印側カ我カ要求ヲ受諾セリヤ否ヤ確報アリ

タル後)我方ノ採リタル措置ヲ冒頭獨宛往電ニ準據シ說明

セラレ帝國ノ立場ヲ明ニシ置クコトト致度(殊ニ在東亞佛

蘭西官憲カ「ペタン」ヲ否認シ居ル點ヲ強調セラルコト

可然シ)

其ノ際印度支那其ノ他ノ東亞地域ニ於ケル一般佛國人及佛

國人財產ハ敵國竝ミニ取扱フコトナカルヘク事此處ニ至ラ

シメタル責任者トモ言フヘキ總督以下及佛印軍構成員等ニ

對シテモ努メテ寛大ナル措置ヲ採ル意嚮ナル旨附言セラレ

仮印処理に関する対独内報の際の参考情報

本省 3月3日後10時発

第一五一號(館長符號)

往電第一四一號ニ關シ

左記獨逸側トノ應酬上御参考迄

一、客年十二月下旬本大臣ヨリ「スタマー」大使ニ對シ獨逸

側ノ「ドコール」ニ對スル見解ヲ確メタル際憲法上ヨリ

見レハ「ペタン」ハ依然トシテ佛國ノ正當元首ニシテ

「ドコール」假政府ハ非合法ナリ「ド」自ラ此ノ點ハ自

覺シ居リ憲法制定議會ヲ召集シ居ラス其ノ地位モ亦弱体

且不安定ニシテ獨逸政府ハ「ドコール」政府ヲ存在セサ

ルモノト見做シ如何ナル形ニ於テモ其ノ承認ヲ考慮シタ

ルコトナシトノ趣旨ヲ回答越セリ

二、帝國ト友好關係ヲ維持シ來レル「ヴィシー」政府ニ叛逆

シテ勢力ヲ占ムルニ至リタル「ドコール」政權ハ謂ハハ

叛徒ニシテ帝國トシテ飽迄之ヲ無視シ其ノ對日宣戰ノ如

キモ相手ニセサルコト當然ナルカ一方「ペタン」ニ付テ

ハ獨逸ノ佛本國ニ對スル施策ヲモ考慮シ其ノ正當元首タ  
ルコトハ我方トシテ之ヲ否定スル考ナキモ「ヴィシー」

退去後政府トシテノ機能ヲ果シ居ラサルコトハ事實ニシ  
テ(獨逸モ政府トシテ存在ストハ主張セサル所ナルヘシ)

且東亞ニ於テハ「ペタン」政府ノ威令ハ何等佛蘭西出先

ニ行ハレ居ラサルハ事實ナリ從テ我方トシテハ現在既ニ

佛國ニハ正當政府存在セストノ建前ヲ採リ差支ナキモノ

ト思考シ居リ今般佛印カ我要求ニ應セサル場合ハ右建前

ヲ漸次明ニシ行キ度キ考ヘナリ

三、尤モ佛國ニ正當政府存在セストスルモ又佛印カ共同防衛

ヲ否認シタリトスルモ之カ爲佛國ナル國家ト帝國トノ關係

ハ戰爭狀態ニ在ルモノニハ非ス東亞ニ於ケル佛國人佛

國權益等モ敵國並ニ取扱ヒ行カサル考ヘナリ

以上爲念

三谷大使ニ轉報アリ度

「ソ」ヘ轉電セリ

~~~~~

昭和二十年三月三日

在仏印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理実行の際の仏印側との交渉方針について

別 電 昭和二十年三月三日発在仏印松本大使より重

光大東亞大臣宛K第二二号

ドクー武装解除受諾の場合の宣言案

サイゴン 3月3日後7時30分発

本 省 3月3日後9時00分着

K第二二號(館長符號、大至急)
貴電第二四號ニ關シ

一、本使ノ交渉振ニ付テハ軍側ト協議中ニシテ未タ最後の決定ヲ見居ラサルモ大體當日夕刻總督ヲ官邸ニ往訪會見シ先ツ全般ノ情勢ヲ説明シタル上斯クナレル上ハ日本政府トシテハ共同防衛ノ精神ニ基キ總督ノ重大ナル決意ヲ要求セサルヲ得ストノ趣旨ヲ述ヘ最高會議決定要領一ノ記ノ趣旨ヲ「エイドメモアール」ニ作リタルモノ(但猶豫時間ハ記載セス)ヲ讀ミ聞カセテ總督ノ熟考ヲ求メ總督カ其ノ場ニテ受諾セル場合ハ別電館長符號第二二號ノ如キ宣言ニ署名ヲ求メテ引揚クルコトトシ先方直ニ受諾ノ

模様ナキ時ハ二時間ノ猶豫ヲ與ヘ夫レ迄ニ回答ナキニ於テハ我方トシテ所要ノ措置ヲ執ルヘキ旨ヲ述ヘテ本使官邸ニ引揚ケ回答ヲ待ツコトスル心算ナリ

二、決定要領ニノ場合ノ武裝解除ノ點ニ付テハ軍司令官ヨリ之ヲ明示セスシテ要領一ヲ受諾セシメタル場合ニ於テハ其ノ實行ニ當リ紛糾ヲ來スノミナラス此ノ點ヲ明確ナラシメタル總督ノ意思表示ヲ示シテ實行スルヲ要ストノ切ナル要請アリタルニ付總督カ要求受諾ノ場合ハ佛印軍ヲ再編成スル爲武裝解除ヲ爲スヘキ旨ヲ説明シ總督ノ宣言中ニモ此ノ點ヲ明確ナラシムルコトトセリ

三、尙此ノ點ニ付テハ軍側ヨリ中央ニ詳細連絡シタル上實行スルコトニ軍司令官ト打合セタルニ付委細軍側ト御連絡アリタシ

(別 電)

サイゴン 3月3日後7時30分発
本 省 3月3日後9時00分着

K第二三號(大至急、館長符號)

宣 言

一般情勢ノ重大性ニ鑑ミ印度支那總督タル下名ハ佛印共同防衛ノ根本精神ニ基キ佛印ノ防衛ヲ日本軍ニ委任スル目途ヲ以テ日本國政府ノ要求ヲ容レ流血ノ慘ヲ避クル爲佛印陸海空軍及武裝警察隊ヲ日本軍最高指揮官ノ命スル所ニ依リ武裝解除シ右ヲ再編成シ日本軍ノ指揮下ニ置クコトニ同意セリ

又鐵道海運通信等作戦上必要ナル機關ハ日本軍ノ管理下ニ置クコトニ同意セリ

尙佛國人ノ生命財産及權益ハ嚴ニ尊重セラルヘキ日本國政府ノ方針ニ鑑ミ佛國人及佛印全機能ハ舉ケテ日本軍ニ全面的且忠實ニ協力スヘキコトヲ要請ス

若シ右要請ニ副ハスシテ發生スヘキ事故障害ニ對シテハ余ハ一切其ノ責ヲ負ハサルヘシ

右宣言ス

一九四五年〇月〇日

署名

安南等の独立に関する陸軍中央と現地軍の連絡会合の模様について

714
昭和20年3月3日

在仏印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

同意セリ…

よう修正された。

「…佛印共同防衛ノ根本精神ニ基キ佛印ノ防衛ヲ一層強化セントスル日本國政府ノ要求ヲ容レ佛印陸海空軍及武裝警察隊ヲ日本軍最高指揮官ノ命スル所ニ依リ再編成シ日本軍ノ指揮下ニ置クヘキコト並ニ右再編成ニ當リ不測ノ事件ノ生センコトヲ避クル爲日本軍最高指揮官ノ命スルコトアルヘキ一切ノ措置ニ應スルコトニ

編注

昭和二十年三月六日発重光大東亞大臣より在仏印松本

大使宛電報第三九号により本宣言の前半部分は以下の

一、中央トシテハ安南等ノ獨立闡明ハ對「ソ」聯關係及一般告中主ナル點御参考迄左ノ通

二 対仏印関係

對外關係上ノ考慮ヨリ武力處理發動ト共ニ間髪ヲ容レス
實行セラレ度シトノ意嚮ナル旨ヲ説明シタルニ總參謀長
以下之ヲ了承シタリ尙信軍參謀長ヨリ右ノ目途トシテ至
急準備ヲ進ムヘキモ實際問題トシテハ發動ノ二、三日後

トナルコトアルヘシトテ了解ヲ求メル所アリタリ
二、信參謀長ハ安南等ノ獨立ヲ煽ル時ハ當然交趾支那等ノ失
地回復ノ問題生スルモノト豫想セラル處右ニ付テハ中

央ニテ何等決定ナキヲ以テ當面之ニ觸ルルコトヲ避クル
様指導スル考ナルモ唯獨立ノ正式承認ハ相當遲延スヘキ
ニ付夫レ迄ノ間安南側ノ土氣ヲ銷沈セシメサル爲ノ「ゼ
スチユア」トシテ「ツーラン」其ノ他ノ重要ナラサルモ
ノハ適宜之力返還ヲ考慮シ行クコト適當ナラスヤト考ヘ
居ル旨ヲ述ヘタリ

三、信參謀長ヨリ行政機構運營ノ腹案トシテ左ノ趣旨ヲ説明

セリ

(イ)總督府機構ハ概ネ現在ノ儘存續セシムルコト
(ロ)警察關係ハ憲兵隊ヲシテ代行セシメ鐵道通信等軍ノ直
接管理スルモノニ關シ連絡將校ヲ入ルル外ハ總督府關
係ニ軍人ハ入レサルコト

(ハ)總督府首腦部理事長官等ノ職務ハ不取敢大使府員ニ委
嘱ス但大使府員カ顧問ノ資格ニ於テ一時其ノ事務ヲ管
掌スルノ形式ヲ採ルコト

(ニ)其ノ他ノ下級ノ職務ハ原住民佛人等ヲ活用シ佛人ヲ排

除シタル場合(例へハ各地市長等)ハ原住民ノ先任者ヲ
シテ事務ヲ代行セシメ顧問ヲ入レテ實質的指導ヲ爲ス
コト

(ホ)安南王國等ノ理事長官ノ職ハ廢止シ其ノ機構ハ各王國
ノ内閣ニ附屬セシムルコト

四、一般佛國人ノ取扱ニ付信參謀長ヨリ逐次奥地ニ移動集結
セシムル案ニテ研究中ニシテ第一着手トシテ先ツ佛國人
ヲ河内、海防、「ビン」、順化、「ニヤトラン」、西貢、
「ブノンベン」、「ビエンチヤン」ノ各都市ニ集結セシム
ルコトヲ考慮シ居ル旨述ヘタリ



715 昭和20年3月4日

重光大東亜大臣より
在中国谷大使、在タイ山本大使、在満
州国山田大使他宛(電報)

仏印処理について任國政府へ説明方訓令

本省 3月4日後9時発

合第三號（館長符號、大至急）

外務大臣發在獨大使宛第一四一號及第一四六號ニ關シ

印度支那問題ニ關シ佛印當局カ共同防衛ノ精神ニ依ル我カ

要求ヲ拒絶シ我ニ於テ武力處理ヲ餘儀ナクセラレタル場合

ニ於テハ（確報ハ軍ノ電報ニ依リ御承知相成ル筈）直ニ貴任

國政府（支、泰、ビルマ、満）ニ對シ我措置ニ付テ別ニ電報

スル帝國政府聲明ノ筋ニ依リ屢次ノ電報ヲモ御參照ノ上充

分説明アリ度ク尙佛國人、佛國權益等ニ對スル措置ニ付別

ニ電報スル所ニ從ヒ帝國ノ措置ニ同調方御申入相成度

尙在「タイ」大使ニ於テハ別電合第二三三號佛印處理ニ伴

フ對「タイ」施策ノ件御含ミノ上應酬相成度シ

又在支大使ニ於テハ別電在支大使宛館長符號第一二號佛印

處理ニ伴フ廣州灣租借地處理ニ關スル件ニ付テ國民政府ニ

申入レ行政權施行ニ付テ廣州灣ニ適當ノ派員ヲ行フ様御交

渉アリ度

尙申ス迄モ無キ儀乍ラ本件ハ作戰ト關係アル高度ノ國家機密ナルニ付企圖祕匿方特ニ御留意相成度（本電以外ノ電報ハ貴使限リノ含ミトシテ豫メ内報シ置クモノナルニ付軍側ヨリノ確報アル迄ハ部外祕トセラレ度ク特ニ事前軍側ト打

合ヲ要スル事項ニ付テハ當方ヨリ軍電ニ依リ承知スヘキ旨連絡アリタル建前ニテ措置セラレ度シ）

本電宛先 在支、タイ、満、緬各大使

参考トシテ在西貢松本大使ヘ轉電セリ

参考トシテ外務大臣ヨリ在蘇大使、在獨大使ヘ轉電セリ

716 昭和20年3月4日 重光大東亞大臣より

在中國谷大使宛（電報）

佛印處理後の廣州灣租借地處理に關する日本側意向を南京国民政府へ申入れ方訓令

本省 3月4日後10時20分発

第一三號（館長符號、大至急）

（編注）
往電第一二號ニ關シ

佛印處理ニ伴ヒ廣州灣租借地ニ於ケル措置ニ付テハ佛印ニ
共同宣言及對支新政策ノ大局的見地ヨリ國民政府ニシテ自
主的ニ同租借地ノ行政ヲ接收スルノ希望アルニ於テハ之ニ
應スルヲ適當ト認メ既ニ電報ノ通り最高戰爭指導會議ニ於
テ決定ヲ見タル次第ナリ

就テハ貴大使ハ佛印カ我カ要求ニ應セサル旨ノ確報ヲ總軍

司令官ヨリ受ケタル際ハ直ニ國民政府ニ對シ廣州灣租借地

處理ニ關スル前記帝國ノ意図ヲ御傳達相成度ク國府側ニ於

テ同地行政接收ノ希望アルニ於テハ國府側ノ準備成リ次第

右要望ニ應シタキ所存ナルニ付結果至急回電相成度尙其ノ

場合帝國ニ於テ一旦接收セル行政權ヲ改メテ國府側ニ移管

スル形式ニ依ルコトナク佛側行政權排除セラレタル事實ニ

鑑ミ國府ニ於テ將來同租借地ノ回収ヲ目途トシテ自主的ニ

之ガ行政ヲ接收スル建前ヲ取リ廣東省官憲ヲ廣州灣ニ派遣

シテ行政ヲ行ハシメタキ所存ナルニ付御含ミアリ度

追而國府ノ行政接收完了迄ノ期間ハ軍ニ於テ管理スルモノ

ト承知アリ度爲念

参考トシテ西貢(大)ヘ轉電セリ

編注 最高戰爭指導會議決定「佛印處理ニ伴フ廣州灣租借地

處理ニ關スル件」(本書第706文書)の内容を伝えるもの。

~~~~~

二 対仏印關係

717 昭和20年3月4日

重光大東亞大臣より  
在中国谷大使宛(電報)

仏印處理に伴う在中国仏國權益處理に關し南

京國民政府への内面指導ないし協力方訓令

別電 昭和二十年三月五日發重光大東亞大臣より在

中国谷大使宛第一五号

仏印處理に伴う在中国仏國官民權益取扱要領

本省 3月4日後10時發

第一四號(館長符號、大至急)

往電館長符號合第三號ニ關シ

佛印處理ニ伴フ在支佛國官民權益取扱要領(陸海外大東亞

四省諒解)別電第一五號ノ通リナルニ付右ニ依リ國府側ニ

所要ノ内面指導乃至協力ヲナサレ度尙右取扱要領ノ具體的

細目ニ付テハ總軍及艦隊ト協議ノ上貴大使ヨリ北京、天津、

上海等ニ必要ナル訓令ヲ發出セラレタク又漢口、青島等ニ

對シテハ本件企圖祕匿上事前訓達ヲ爲ササルニ付之等地區

ノ佛國官憲ニ對スル處置ハ自然他地ニ比シ遲延スヘク又國

府側ノ處置ハ我方處置ニ比シ遲延スヘキ處之等ノ點ハ貴大

使ニ於テ陸海軍ト協議ノ上可然御措置アリタシ

別電ト共ニ北京、上海、廣東へ轉電セリ

(別電)

本省 3月5日前0時発

第一五號(館長符號、大至急)

一、佛印當局カ全面的ニ帝國ノ要求ヲ受諾シタル場合ハ差當リ格別ノ措置ヲ執ラサルモ防諜ニ關シテハ遺漏ナキヲ期スルモノトス

但シ軍隊及武裝團體ノ處理ハ佛印ニ於ケル場合ニ準ス

二、佛印當局カ帝國ノ要求ヲ受諾セサル場合ト雖モ佛國官民及權益ノ取扱ハ事情許ス限り寛大ニスルコトトシ左ニ據ル

(イ)外交官領事官ニ對スル取扱

1、國民政府ヲシテ職務執行停止ノ通告ヲ爲サシメ同時ニ當該地所在ノ日本外交機關ヨリモ爾今當該佛國公館ノ職務執行ヲ認メ得サル旨通告ス

(ロ)一般佛國人ニ對シテハ格別ノ措置ハ取ラサルモ防諜ニ關シテハ遺漏ナキヲ期スルモノトス  
但シ本件措置ヲ理由トシテ故ラニ諜報容疑者等ノ一齊檢舉等ハ行ハス

2、事務所ノ封印公文書ノ押收等ハ行ハス  
3、事務所、官邸又ハ住宅ノ電話ハ切斷セス  
4、無電發信機ノ使用ハ之ヲ禁止シ右機械ハナシ得ル  
限り佛側ヲシテ自發的ニ提出セシムル如ク措置スル

モノトス

5、原則トシテ從來ノ居所ニ引續キ居住セシム

6、食料、燃料等ノ配給ハ從來通りトス

7、外出ハ自由トスルモ佛國人以外ノ者トノ接觸ハ自制セシムルコトトシ右ニ違背スル場合ハ監視付ノ抑留ヲ行フコトアル可キ旨豫メ通告ス

8、暗號電報ノ發受ハ之ヲ禁止シ平文電報及郵便ハ檢閱ノ上差支ナキモノニ限り之ヲ許可ス

9、資產凍結、預金引出制限等ヲ行ハス

10、外交官領事官ニ對スル措置ハ總テ支那側ニ於テ實施ノ建前ヲ取ルモノトス

(二)武装解除ノ通告及被解除者ノ取扱  
1、中立國政府ノ利益保護ハ認メサルモ領事タリシモノ等カ佛國居留民ノ代表トシテ居留民全體ノ生計維持其他ノ行政事務ヲ代行シ支那側又ハ日本側ニ接觸シ利益代表の職務ヲ行フコトヲ認メ差支ナシ

## 二 対仏印関係

(1) 武裝解除ノ際ハ「在支佛國軍隊ハ曩ニ租界還付ノ結果其ノ存在ノ基礎ヲ失ヒ佛印軍ニ編入セラレ佛印移送ノ便ヲ待チ居リタルモノナル處今回佛印當局ハ印度支那共同防衛ニ關スル帝國ノ要求ヲ拒絕シ在佛印

佛國軍隊ハ武裝解除セラレタルニ依リ在支佛國軍隊ヲモ武裝解除スルコトナリタル」旨通告ス

(2) 軍隊及武裝團體中武裝解除ノ際抵抗セル者ハ俘虜トシテ抑留シ然ラサル者ハ一般人トシテ取扱ヒ自治的規律ノ下ニ引續キ概ネ從來ノ場所ニ集團居住セシム但シ必要アル場合ハ其居住行動等ニ制限ヲ加フルコトアリ抑留セル艦船ノ乗組員ノ取扱亦右ニ準ス

尙生活費ハ佛側所有ノ特別圓資金ヨリ送金ス

(3) 一般權益ニ對スル取扱

1、公私財產及一般權益ニ對シテハ敵產ニ準シテ取扱

フコトナク防諜上絶對必要ナルモノ(例ヘハ通信社、電臺、放送局等)ニ限り我方ノ管理下ニ置キ爾餘ノモノニ付テハ格別ノ措置ヲ取ラサルコトトス

2、佛籍新聞、電燈電車公司等ニ付テモ差當リ我方乃至中國側ノ監視指導ヲ強化スルニ止メ出來得ル限り

從前ノ機構、職員ヲ活用スルニ努ム

3、一般權益ニ對スル措置ハ原則トシテ中國側ニ連絡ノ上日本側ニ於テ行フ建前トス

(備考)

一、本件措置ノ發動ハ在佛印陸軍最高指揮官ヨリノ確報ヲ俟チ之ヲ行フモノトス

二、支那派遣軍總司令官右確報ヲ受ケタル時ハ直チニ之ヲ關係機關(在支大使及在支海軍最高指揮官)ニ通報スルモノトス

轉電先 北京、上海、廣東

(但シ追テ指示ヲ俟テ轉電ノコト)

718 昭和20年3月4日 重光大東亞大臣より  
在タイ山本大使宛(電報)

仏印処理に際して国境付近での紛争防止をタ  
イ及び現地軍部隊長に要請方訓令

本省 3月4日後8時30分発

第一號(館長符號、大至急、國家機密扱)  
往電第一〇號ニ關シ

本件對「タイ」施策方針ノ原案ニハ佛印武力處理ノ場合

「タイ」トノ國境方面ニ於テ日「タイ」兩軍官ニ紛争ヲ惹起スルカ如キコト無キ様我軍ニ於テ留意スヘシトノ趣旨ノ一項アリタルカ統帥ニ對シ餘リニ干涉ガマシキ印象ヲ與フルコトヲ考慮シ之ヲ削除シタルモ右紛争ノ防止ハ日「タイ」關係上重要ナルニ付「タイ」側現地軍官憲ニ對シ紛争防止方徹底ノ措置ヲトル様「タイ」國政府ニ要請セラルト共ニ義部隊長管下ノ關係部隊ニ對スル注意方同部隊長ニ要請セラレ度(信部隊ニ付テハ松本大使ニ電報シ置キタリ)

編　注　最高戰爭指導會議報告「佛印處理ニ伴フ對「タイ」施策ノ件」(本書第705文書)を伝えるもの。

719 昭和20年3月5日

重光大東亞大臣より  
在仏印松本大使宛(電報)

仏印處理を仏印側受諾の際の宣言文案につき慎

重講究方要請

本省　3月5日後9時発

貴電第二二號ニ關シ

本件交渉振ハ世界政局ニ對スル將來ノ我カ立場ニ影響スル所大ナルハ御推察ニ難カラサル所ニテ即チ戰局ノ印度支那ニ及ヒタル現狀ニ鑑ミ共同防衛協定ノ趣旨ニ從ヒ一層ノ協力ヲ要望スルノ餘儀無キニ至リシコトヲ骨子トシ將來先方ノ宣傳ニ餘地ヲ與ヘサル様特ニ注意スルノ要アルハ申迄モ無キニ付右此上共御含アリ度シ尙先方カ受諾セル場合ノ聲明モ以上ノ趣旨ヨリ佛印側ニ於テモ亦大局的見地ヨリ共同防衛強化ノ具體措置ニ應シタルコトヲ骨子トスルコト適當ニシテ少ク共帝國ノ佛印ニ對スル要求カ不當ナリシモノナルヤノ印象ヲ與ヘサル様留意ノ要アリ御申越ノ宣言案ナルモノカ假ニ總督ノ隸下各機關並ニ一般住民ニ對シテ發セラル布告ナリトスルモ對外的ニ惡用セラルル惧少シトセス其ノ内容ハ慎重ニ講究ノ要アルニ付當方ニ於テモ至急研究ノ上後電ス

720 昭和20年3月5日

重光大東亞大臣より  
在仏印松本大使宛(電報)

仏印處理のタイ及びビルマへの影響につき意

第三八號(館長符號、緊急)

見具申

官の談話について

サイゴン 3月5日後3時39分發  
本省 3月6日前10時34分着

ハノイ 3月6日後9時00分發  
本省 3月7日後5時20分着

(緊急、館長符號)

「タイ」大發貴大臣宛電報

第二〇六號

兩大使ヨリ

佛印處理問題ニ付次官ヨリ詳細説明ヲ受ケタル處「タイ」

緬兩國ニ對スル關係ニ於テ氣付ノ點不取敢左ノ通

一、中央ニ於ケル聲明中「タイ」緬兩國特ニ「タイ」國ニ對

スル影響ヲ考慮シ安南等ノ獨立問題ニ關スル部分ヲ強調

シ帝國力情勢ノ必要ニ迫ラレ佛印ヲ武力處理セルモノナ

リトノ印象ヲ與ヘサル様考慮セラレタキコト

尙「タイ」側ニ對スル説明資料トシテ佛印ノ不誠意不信行為ノ具體的事例出來得ル限り電報相成度

之カ爲困難性ヲ増シタルモ其ノ實施ニ自信アリ

二、事後ノ收拾ニハ軍ノ外官民ノ助力ニ俟ツ所大ナリ軍ハ人ヲ頤テ使ハス官民ニ十二分ニ手腕ヲ發揮シテ貰フ積リニシテ之カ青年將校ヘノ徹底ニ努力スル所存ナリ

三、處理發動ニ呼應シ雲南國境ニ集結ノ重慶軍カ印支ニ進入シ來ル可能性アリ此ノ場合軍ハ直ニ之ト對戰姿勢ニ移行スヘシ其ノ場合後ヲ如何ニスルヤニ心ヲ痛メ居レリ

仏印處理の發動準備状況等につき現地軍司令

二 対仏印關係

721

昭和20年3月6日 在ハノイ西村事務所長より

重光大東亞大臣宛(電報)

四、發動ハ六、七、八、九日ノ内ト指示ヲ受ケアリ（貴電館長符號第一三號ノ次第司令官ト參謀長ニ聯絡濟）

尙今次發動ニ際シ在留邦人保護ニ付テハ收容態勢（今後持參ノ在留保護措置要綱ニ依ル）ヲ執ルコトトシ其ノ前提ニテ兵ノ配備モ決定シアル處司令官及參謀長ヨリ聯絡アリ當方諸般ノ手配極祕裡ニ略々完了セリ一般邦人ハ稍冷靜ヲ取戻シ（三日來訪ノ朝日新聞公文ハ西貢ヨリ河内ニ來リ當地邦人ノ冷靜ナルニ拍子抜ケノ感ナリト語レリ）タル感アレト西貢ヨリ來ル軍人及一般人ノ言動ニ依リ神經ヲ尖銳化サレツツアル狀況ナリ

大臣へ轉電セリ

722 昭和20年3月9日

重光大東亞大臣より  
在タイ山本大使宛（電報）

仏印処理後のタイによるインドシナ失地回復

問題への対応振りについて

本省 3月9日後2時30分発

第一四號（館長符號、緊急）  
往電第一〇號ニ關シ

武力處理ノ場合「タイ」側ノ印度支那ニ於ケル失地恢復問題ニ付テハ我方トシテ慎重考慮致度キ所存ナルカ先方ヨリ何等申出アリタル場合ニハ貴大使ハ「我方トシテハ印度支那ノ防衛強化ノ爲軍事的措置ヲ進ムルコトカ當面ノ重大問題ニシテ且ソ之ト並行シテ大東亞共同宣言ノ精神ニ則リ原住民ノ民族的獨立ノ要望ヲ支援スル方針ナルヲ以テ此際直ニ本件ヲ取上クルコト恐ラク困難ナリト思考スルモ御申出ノ次第ハ本國政府ニ取次クヘシ」トノ趣旨ニテ應酬セラレ度

……………

723 昭和20年3月9日

重光大東亞大臣より  
在中國谷大使、在タイ山本大使、  
在滿州國山田大使他宛（電報）

仏印処理後の仏國民及び仏國財産の取扱いに  
つき注意喚起

本省 3月9日後5時10分発

合第一號（館長符號、大至急）

往電合第三號等ニ關シ

一、佛印當局カ我カ要求ニ應セサル場合ニ於テモ我方ハ單獨ニ印度支那ヲ防衛スルタメ已ムヲ得サル緊急措置ヲ取ル

モノニシテ佛國ヲ敵國ト認ムルモノニ非ス從テ佛國人財產ハ之ヲ敵國人及敵產トシテ取扱ハサルモノナルコトハ既ニ往電合第四號佛國力「カトリツク」系「ラテン」國家中ノ大國ニシテ同國民ニ對スル我方ノ態度如何カ爾餘ノ「カトリツク」及「ラテン」系國家ノ動向ニ及ホス影響大ナルコト佛蘇ノ同盟關係ニ鑑ミ在東亞佛國人人取扱如何ニ依リテハ蘇聯カ何等カノ口實ヲ設ケテ容喙スル可能性無シトセサルコト佛印ニ於テ爾後ノ行政ニ一部佛國人ヲ利用スルコト得策ナルコト等ノ觀點ヨリシテ在東亞佛國官民及權益ニ對スル取扱ハ出來得ル限り之ヲ寬大トルコト適當ニシテ其ノ見地ヨリシテ前記「政務處理要領」ノ基本トナル二月一日最高戰爭指導會議決定「情勢ノ變化ニ應スル佛印處理ニ關スル件」ニ於テモ「一般佛國人、權益等ニ對シテハ努メテ穩健ニ取扱フモノトス」トノ注意書アリ又「佛印處理ニ伴フ在大東亞佛國官民權益取扱要領」ニ「佛印當局カ帝國ノ要求ヲ受諾セサル場合ト雖モ佛國官民及權益ノ取扱ハ事情許ス限り寛大ニス」ル旨記載シアルモ右事情ニ基ク次第ナルニ付御含ミアリ度ク殊ニ最近ニ於ケル蘇佛ノ親善關係ヲ考慮シ蘇側ニ口

實ヲ與ヘサル様御留意アルト共ニ「カトリツク」關係ニ付テハ特ニ慎重ヲ期セラレ度

三、往電合第一〇號「輿論指導ニ關スル件」中ニハ特ニ言及シ居ラサルモ我方カ在支佛國軍隊ヲ武裝解除スル事實等ニ關シテハ誇大ニ報道セラルルヲ避ケ成ル可ク目立タサル様取扱ハレ度

本電宛先 支、タイ、滿、緬各大使  
西貢(大)、北京、上海、廣東へ轉電セリ

724 昭和20年3月9日

重光外務大臣より  
在独國大島大使、在ソ連邦佐藤大使、  
在滿州國山田大使宛(電報)

日本軍増兵に対する憂慮など仏印諸問題に關する仏印總督府外交部長の談話について

本省 3月9日後6時發

合第三〇八號

在西貢松本大使發大東亞大臣宛電報第二號轉電塚本ニ對スル總督府外交部長ノ談話要領左ノ通り一、今回「ラオス」ヲ經テ南下セルカ各所ニ日本軍ノ進駐アリテ總督ニ於テモ奇異ノ感ニ打タレタル模様ナリ我等一

同ハ右カ米軍侵攻ニ備フルタメナルコトハ克ク理解シ居

リ亦日本軍ノ規律嚴正ナルヲ以テ進駐其レ自身ニ對シテ

ハ何等反対スヘキ理由ハナキモ政治的ニハ増兵力印度支

那ノ脅威トナリ居ルニ付日本政府カ之ヲ軍事的ト同時ニ

政治的ニモ考慮セラルコト要望ニ堪エス

二、「ドゴール」政府カ佛印ニ自治ヲ許與スヘキ旨ノ情報ア

ルモ右ハ公ノ宣言ニアラス客年末開カレタル「ブラツザ

ブイル」會議ニ於ケル佛領民意全般ノ問題ニ由來スルモ

ノニシテ自治ヲ佛印ニ對シ許與スル理由ハ關稅獨立等ノ

技術的理由ニ基キ唱導セラレ居ルモノニシテ何等日本軍

增駐等ノ問題ト關係ナシ

三、我々ノ米軍來ラストナス主張ニハ何モ根據アル譯ニハア

ラス「ルソン」ノ食糧問題解決ヲ計リ米ヲ交趾支那ニ求

ムル爲侵攻シ來ルコトモ考ヘラレ日本軍ノ「プレコーチ

ヨン」ニ付テハ充分理解シ居レリ

四、自分ハ最モ對蘇關係ヲ重視シ居ルモノニシテ「ドゴール」

政權カ蘇聯ニ繩リ佛印問題ヲ以テ對日牽制ヲ策スルコト

最モ可能性多ク蘇聯ハ極東ニ對シ武力的進出ハ行ハサル

ヘキモ進出シ來ルヘク又外交的ニハ米軍日本本土へ侵攻

スルニ至ラハ蘇聯ハ日本ニ「アプローチ」スルモノト考フ

~~~~~

725 昭和20年3月9日 在中國谷大使より

重光大東亞大臣宛(電報)

仏印処理後の在中国仏官憲や仏國權益の取

扱いに関する注意喚起について

南京 3月9日後8時00分発

本省 3月10日前5時45分着

(館長符號)

本使發在支各大使館事務所長、漢口、天津、海口宛電報

合第一九號(緊急)

佛印ニ武力ヲ行使スル場合ニ於ケル在支佛官憲、軍隊及權

益ノ處理(發動ハ總軍ヨリ貴地軍側ニ對シ確報アルヲ待チ

之ヲ行フモノトス)ニ付テハ現地軍側ト緊密ニ連絡シ委細

軍電ニ依リ承知ノ上所要ノ處置ヲ執ラレ度キモ從來ノ敵性

國ニ對スル取扱振リト異ルモノアルニ依リ特ニ左ノ諸點ニ

留意アリ度

一、外交官、領事官憲ニ對スル職務執行停止ハ中國側ヲシテ

通告セシムルコト

右ニ關シ當館ヨリ國民政府ニ對シ中國側關係各機關ニ對シ訓令發出方申入ル豫定ナリ

之ニ並行シ貴方ヨリモ佛國側ニ對シ自今職務執行ヲ認メ得サル旨通告ノコト

但シ佛居留民ノ保護ニ關スル日華官憲トノ連絡ハ從來ノ領事等ヲシテ代表的ニ之ニ當ラシメ差支ナシ尙中立國ニ依ル利益代表ハ之ヲ認メ斯通告後モ事務所出入ハ阻止スル要ナキモ國旗掲揚ヲ禁止スルコト勿論トス

二、日佛印關係ハ戰爭狀態ニ非ラサルヲ以テ成ルヘク穩便ニ取扱ヒ敵國又ハ斷交國ニ對スル場合ノ如ク事務所ノ封印、公文書ノ押收、事務所又ハ住宅ノ電話切斷、食糧燃料等

ノ配給停止、資金凍結、預金引出制限等ヲ爲ササルコト但シ無電機(成ルヘク自發的ニ供出セシム)及暗號ノ使用ハ禁止シ平文電報及郵便ハ檢閱ノ上許可スルコト尙原則

トシテ從來ノ居所ニ引續キ居住セシメ外出ハ自由トスルモ佛國人以外ノ者トノ接觸ハ自制セシムルコトトシ右ニ違背スル場合ハ監視付ノ抑留ヲ行フコトアルヘキ旨豫メ通告ノコト

三、外交官及領事官ニ對スル措置ハ總テ支那側ニ於テ實施ノ

建前ヲ取ルモノトシ又一般佛國人ニ對シテハ格別ノ措置ハ取ラサルモ防諜ニ關シテハ遺怠ナキヲ期スルモノトス但シ本件措置ヲ理由トシテ故ラニ諜報容疑者等ノ一齊検舉等ハ行ハサルコト

四、一般佛國人、財產ハ敵國人、敵產トシテ取扱ハス從來通りトスルコト

尤モ若干ノ權益(防諜上絕對必要ナルモノニ限ル)ニ付テハ軍事上ノ必要ヨリ軍ノ監督下ニ置カルルコトアルヘシ、天主教關係ニハ佛人經營ノモノ多キ處無用ノ摩擦ヲ起ササル様特ニ注意スルコト

南總ニ轉報セリ

大使館事務所ヨリ事務所所在地總領事館ニ夫々轉報アリ度大臣ヘ轉電セリ



726 昭和20年3月10日

在中國谷大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

南京國民政府より廣州灣接收應諾申入れについて

本省 3月11日前0時40分着

(館長符號扱)

本使發廣東宛電報

第七號(緊急)

大臣發貴官宛館長符號第一號ニ關シ

本十日陳代理主席ニ對シ本使ヨリ「國民政府ニ於テ廣州灣ノ行政權接收方希望セラル場合帝國ハ欣然之ニ應スル意嚮ニシテ其ノ際ニハ行政權行使ノ爲事前ニ我方ト緊密ニ連絡ノ上廣東省ヨリ廣州灣ニ派員ヲ行ハレ度」旨申入レ置キタルヲ以テ準備完了次第國民政府側ヨリ我方ニ對シ何分ノ申出アルコトト存セラル處本措置ヲ實行スルニ當リ軍ニ於テ一時廣州灣租借地ヲ管理スル方針ニハ依然變更ナキモ形式的ニハ一旦帝國ニ於テ接收スル行政權ヲ更メテ國民政府ニ移管スルノ建前ハ取ラサルモノナルニ付御含ミ置キアリ度

總軍ト打合濟

大臣ヘ轉電セリ

第二二〇號(大至急、館長符號扱)

バンコク 3月11日發
本 省 着

館長符號貴電合第三號ニ關シ

御訓令ノ御趣旨ヲ體シ且當地軍側トモ協議ノ上九日二〇時一五分(日本時間)外務大臣ヲ私邸ニ往訪シ(總理ハ病氣引籠中)佛印當局ノ最近ニ於ケル對日非協力的態度ニ鑑ミ帝國政府ハ本九日在佛印松本大使ヲシテ「ドクー」總督ニ對シ共同防衛ノ根本精神ニ基キ對日協力ノ一層緊密化ニ關シ重要申入ヲ爲サシメ目下交渉繼續中ノ由只今電報ニ接シタル旨通達シ本件交渉ノ圓滿解決ヲ期待スルモ萬一「ドクー」總督カ我方申入ヲ受諾セサル場合ハ勿論受諾スル場合ニ於テモ之カ實施ニ關聯シ佛印軍隊等カ日本軍隊トノ間ニ紛糾ヲ惹起スル虞ナシトセズ斯テ佛印軍隊ノ一部ガ「タイ」領内ニ遁入スルコトナキヲ保セザルニ付斯ル場合ニ於テハ右遁入軍隊ノ武裝解除等「タイ」側ニ於テ適切ナル措置ヲ講セラレ度キコトヲ要請スルト共ニ佛印ニ於ケル今次交渉ノ歸趨如何ニ拘ラズ日本國ノ「タイ」國ニ對スル態度ハ從前

ト何等變更ナキ旨ヲ説明シ右趣旨ヲ「タイ」譯シタル口上書ヲ手交シタル處外務大臣ハ本使ノ説明ノ御趣旨ハ充分了解シタルニ付總理ニ面會貴大使申入ノ次第ヲ報告スベシト述ベタリ

更ニ本使ヨリ今晚中ニ我方申入ニ對スル佛印側ノ回答振りニ關シ電報アル筈ニ付其ノ際重ネテ會見ヲ得タキ旨申入レタルニ大臣ハ何時ニテモ御會ヒ出來得ル様用意致シ置クベシト答ヘタリ

二二時三〇分佛印側ノ我方申入拒絕ノ旨軍側ヨリ連絡アリタルヲ以テ二三時五〇分總理ノ希望ニ依リ私邸ヲ往訪シ(外務大臣及外務次官陪席)館長符號貴電第一〇號第一一號及合第四號ノ趣旨ニ依リ申入ヲ爲シ之カ要旨ヲ「タイ」譯シタル口上書ヲ手交シタル處總理ハ先程外務大臣ヨリ本件ニ關スル貴使申入ノ次第詳細報告ヲ受ケ日本側ノ意圖サレ居ル所モ充分了解シ得タルヲ以テ「タイ」側トシテハ出來得ル限り協力ヲ致度キ所存ナルヲ以テ實ハ先程内務大臣ノ私邸ニ出掛け大至急地方關係各當局ニ對シ

- (一)遁入佛印軍隊ノ武裝解除ニ必要ナル豫備的措置ヲ講ジ
- 置クト

(二)「タイ」領内ノ日本軍隊ノ佛印向ヶ移動ニ必要ナル食糧宿舎交通機關入手方ニ關スル便宜供與ノ手筈ヲ講シ置クコトヲ電命スル様命令セリ
尙國內佛國人ニ對スル措置ニ付テハ只今貴使ノ御説明ニ依リ日本側ノ取扱振り判明セルニ付「タイ」側ニ於テモ出來得ル限り之ニ同調スベシト述ベタリ
次テ本使ヨリ私見トシテ今回ノ我カ對佛印措置カ一段落着クニ於テハ(二字不明)地域國境方面ニ於ケル物資交流運輸交通ヲ圓滑ナラシムルヲ得テ同地方ノ經濟事情改善ニ資スル所大ナルモノアルベキヲ信スト述ベタルニ總理ハ至極同感ナリトテ今回ノ日本ノ措置ガ日本ノ企圖スル如ク順調且急速ニ解決スベキヲ期待シ居レリト述ベ次テ本使ヨリ尙本件措置ニ關スル軍事上專門事項ニ付テハ我軍側當局ヨリ「タイ」側軍事當局ニ詳細申入レ協議アル筈ナリト述ベタルニ總理ハ先程國防大臣及副總司令來訪シ日本軍側ヨリ申入アリタル旨報告セルニ付必要ニ應シ對日協力ニ遺憾ナキヲ期スル様命シ置キタル次第ナリト答ヘタリ

- 西貢ヘ轉電セリ
- 外務大臣ニ轉電アリ度

昭和20年3月14日

在仮印松本大使より
重光大東亞大臣宛(電報)

仮印処理後の現地軍管理下におけるインドシ

ナ行政応急実施要領について

付記一 発受信日不明、沼田(多稼蔵)南方軍總參謀長よ

り秦(彦三郎)參謀次長、柴山陸軍次官宛軍電報

仮印処理後の安南独立運動に関する現地軍の

意向について

二 外務省作成、「外交資料 日佛印關係ノ部」(昭

和二十一年二月)より抜粋

仮印処理及びその後の動向について

サイゴン 3月14日後11時50分発

本 省 3月15日後6時00分着

(大至急)

本使發河大宛電報

第八四號

當方ト打合ノ上信軍參謀軍ニテ作成セル軍管理下ニ於ケル

印度支那行政應急實施要領左ノ通

本要領ハ印度支那ヲ軍管理下ニ置キタル直後差當リ實施ス

ヘキ要領ヲ指示ス、治安概況確立セル時期以降ニ於ケル要
領ニ關シテハ別ニ指示ス

第一 方 针

印度支那ヲ軍管理下ニ置キタル場合之ニ對スル統治ハ特
ニ示ス施策ノ外先ツ治安ヲ回復シ成ルヘク速ニ之ヲ正常
ノ狀態ニ復歸セシムルヲ以テ主眼トス

第二 要 領

一、從來ノ行政機構、諸法令等ハ特ニ示スモノノ外現狀ノ
儘之ヲ踏襲活用シ作戰上眞ニ支障アルモノニ限り更改
スルモノトス

尙更改ハ總テ軍司令官ノ認可ヲ受クルモノトス

二、軍ノ趣旨ヲ住民ニ了解セシムル爲警察機關、報道機關、
各種諮詢機關、鄉職會、親日原住民其ノ他民間有力者
ニ對シ速ニ連絡ヲ圖リ之ヲ頤使スルコトナク諸事取扱
ヲ懇切ニシ先ツ此ノ種階層ニ我力趣旨滲透ヲ圖リ以テ
民衆ニ之ヲ反映スル如ク施策スルモノトス三、多發スヘキ各種流言ニ對シテハ取締ヲ嚴ナラシムルノ
ミナラス其根源ヲ考究シ以テ當時之力消滅ヲ圖ルモノ
トス之力爲學校、市場等多數人ノ集合地點ニ對スル報

道、宣傳施設ノ完備ニ努ムルモノトス

四、都市地域ニ於テハ生活必需物資就中食糧ノ確保ニ留意シ之カ供給源タル隣接農村及關係營業者ヲ確實ニ掌握シ物資ノ退藏隠匿ヲ豫防スルト共ニ需給關係ノ調節ニ努ムルモノトス

五、軍需物資ノ調達ハ當初強制的ナラサル様施策ス之カ爲努メテ少數有力者ヲ相手トシ廣ク一般住民ヨリ徵發スルカ如キ方法ハ避ケルモノトス

六、佛國人ニ對シテハ原住民ノ反感ヲ誘發セサル如ク自戒セシムルト共ニ之カ保護ハ積極的ニ行ヒ舊讐原住民ノ侵害ヲ警戒スルモノトス

特ニ留任官吏ニ對スル保護ニ努ムルモノトス
七、防空ニ對スル指導ヲ強化シ速ニ主要都市ニ對スル防空監視網ノ復活ヲ圖ル其ノ他罹災者ニ對スル救濟措置ヲ迅速的確ナランム

八、各地域ノ特性ニ應スル措置左ノ如シ
1、各保護國ニ付テ

(イ)各保護國ハ各々固有ノ統治機構ヲ以テ我方ノ^(マニ)內面的指導下ニ適宜統治ニ任セシムルモノトス(ロ)各保

護國政府顧問ノ内面指導ニ依リ各國ヲシテ自發的

ニ佛國トノ保護條約破棄ノ擧ニ出テシメ各國政府ノ宣言其ノ他ニ依リ獨立回復ノ事實ヲ内外ニ闡明ス

(ロ)獨立宣言ハ原則トシテ「安南」「カンボヂヤ」「ルアンプラバン」國ノ順序ニ實施シ得ル如ク指導ス

ルモノトス

(ハ)獨立ニ對スル我方ノ正式承認ハ中央ノ指令アル迄行ハサルモノトス

從テ獨立宣言後民族意識ノ昂揚及對日協力ノ強調ニ努ムルモ實質的政治ニハ急激ナル變革ヲ行ハサル様指導ス

(二)親日系安南獨立運動者ヲ失望セシメサル如ク指導ス之カ爲情報宣傳行政監察方面ニ活用ス

(三)行政機構及其ノ變更

(1)各國政府顧問ハ各王國統治ノ内面指導ニ任スルモノトス但シ安南政府顧問ノ内一名ハ東京理

長官顧問(當分ノ間理事長官事務管掌)ニ專任ス
又「ルアンプラバン」政府顧問ハ「ラオス」理

事長官顧問(當分ノ間理事長事務管掌)ヲモ兼ヌ
ルモノトス

(2)理事長官

(1)安南「カンボヂヤ」理事長官ハ置カサルコト
トン從前ノ理事長官府ノ事務ハ安南及「カン
ボヂヤ」政府ヲシテ代行セシムルモノトスニ
カ爲理事長官府ノ機構及職員ヲナルヘク現狀
ノ儘各國政府ニ統合スルモノトス

(2)東京理事長官ハ當分ノ間之ヲ存續シナルベク
速ニ原住民適任者ヲ撰ヒ之ニ充ツルモ差當リ
安南政府顧問ノ一名ニ於テ其事務ヲ管掌スル
モノトス

(3)「ラオス」理事長官ノ權限ハ「ルアンプラバ
ン」王國領域ニハ及ハサルコトトシ王國內ニ
於ケル從來ノ理事長官ノ事務ハ王國政府代行
スルモノトス然レトモ之カ爲理事長官府ノ機
構及職員ノ分割ハ當分ノ間之ヲ行ハサルモノ
トシ王國政府ノ依囑ヲ受ケ「ルアンプラバン」
國顧問ノ資格ニ於テ不取敢之ヲ行フモノトス

(3)理事官及地方參事官ハ置カサルコトトシ其ノ事
務ハ原住民省長ヲシテ代行セシムルモノトス

2、直轄地域ニ就テ

イ、直轄地域ニ對シテハ日本軍ニ於テ一時行政管理
ニ任シアル建前ヲトルモノトス

ロ、直轄地域内住民ハ本來ノ國籍ニ復歸シタルモノ
トシテ取扱ヒ其(ラオス)旨公示スルモノトス

ハ、行政機構及其ノ更改

(1)各長官ニハ原住民適任者ヲ充ツルモ交趾支那知
事、「ラオス」理事長官、河内、「ユエ」、「ブノ
ンペン」及西貢堤岸市長ニハ日本側顧問ヲ配屬
シ内面指導ニ任セシム

(2)「ラオス」理事長官顧問ハ「ルアンプラバン」
政府顧問之ヲ兼ヌルモノトス

顧問ハ原住民適任者就任迄一時各市長ノ事務ヲ
管掌スルモノトス

(3)各市長ハ差當リ原住民タル市會議員或ハ市役所
吏員中ヨリ適任者ヲ撰定スルモノトス

(4)交趾支那各省長ニハ各省原住民官吏ノ適任者ヲ

充ツ

(5)「ラオス」地方ニハ理事長官及地方參事官ヲ置カサルコトトシ其ノ事務ハ原住民省長ヲシテ代行セシム

大臣へ轉電セリ

行セシム

(付記一)

安南國等ノ獨立ニ關スル指導ニ就テ受諾ノ場合ニハ差當リ特ニ措置セサルモ拒否シタル場合ニハ左ノ通措置スル如ク取計ヒアリ

一、各國ハ我カ内面的指導ノ下ニ武力發動直後一刻モ速カニ

自發的ニ獨立ヲ宣言セシム

宣言文ニハ各國ノ特性ニ應シ適宜左ノ内容ヲ包含セシム

但シ宣言文ノ一案ハ夫々我カ方ニ於テ作製携行ス

(1)保護條約ヲ破棄シテ獨立ヲ恢復シタル事實ヲ闡明スル

コト

(2)大東亞共同宣言ノ趣旨ニ則リ民族意識ヲ昂揚シツツ大

東亞諸民族ト共ニ共存共榮ノ實ヲ舉クヘキコト

(3)獨立完遂ノ爲總力ヲ擧ケテ日本ニ協力スヘキコト

三、獨立宣言ハ原則トシテ安南國「カ」國次テ「ル」國ノ順序ニ實施ス

四、「カ」國ニ對シテハ久保田總領事ヲ本八日再ヒ陸路「プロンペン」ニ派遣シ前項ニ準シ措置セシム

吾、「ル」國ノ宣言ハ兵力派遣トモ關聯シ若干遲延ノ見込ナリ

通電先 次長 次官

(付記二)

佛印ニ於ケル武力行使及爾後ノ概況

絃上ノ準備ヲ進メツツ現地ニ於テ關係機關打合ノ結果三月九日日本時間午後七時西貢佛印總督官邸ニ於テ本年一月以來懸案トナリ來レル日佛印貿易協定ノ署名行ハルルコトトナリタルヲ以テ此ノ機會ヲ以テ松本大使ヨリ「ドクター」總督ニ對シ本件申入ヲ爲スコトナリタリ斯テ貿易取極ノ署

名後松本大使ヨリ世界及東亞ノ戰局佛印當局ノ動向等ヲ説

キ佛印ノ共同防衛ノ強化ノ爲總督ノ英斷ヲ求ムル旨ヲ述べ豫テ用意セル我要求事項ヲ盛リタル「エードメモアール」

ヲ提示シ之ニ説明ヲ加ヘタル後二時間ノ期限内ニ諸否ノ回答アリ度キ旨並ニ右期限内ニ承諾ノ回答ナキ場合ハ拒絕ト認メザルヲ得ザルベキ旨ヲ申入レテ日本軍司令部ニ引揚ゲ

回答ヲ待チタリ此ノ間「ドクー」總督ハ直ニ總督官邸ニ西貢在住中ノ佛印側要人ヲ招集シテ對策ヲ協議シタルガ豫定ノ回答期限ヲ二十三三分遅レテ十時二十三三分(日本時間)「ロ

バン」大佐日本軍司令部ニ出頭シ「ドクー」總督ノ回答ヲ齋ラシタリ「ドクー」總督ノ回答ハ、日本側要求ハ目下河内ニ在ル佛印軍司令官「エーメ」中將ト協議セズシテ「ド

クー」限りニテ決定スルコト困難ナルガ二時間ヲ以テハ河内ト連絡ヲ取り得ザルコト、佛印側ハ米英軍ガ佛印ニ上陸シタル場合ハ日本軍ガ佛印防衛ノ全責任ヲ負擔スルコトヲ受諾スルノ用意アルヲ以テ之ガ爲交渉繼續スベキコト然レドモ「ドクー」總督ハ佛國ノ名譽ヲ傷クル如キ事ハ絶対ニ受諾シ得ザルコト等ノ趣旨ヲ述ベタルモノナリシヲ以テ松本大使ハ右回答一覽後直ニ「ロバン」大佐ニ對シ右ハ明カ

ニ我要求拒絶ノ回答ト認メル旨ヲ述べ引取ラシメタリ

之ヨリ先日本軍司令官ハ所定ノ回答期限ヲ經過セルヲ以テ十時十八分隸下部隊ニ對シ軍事行動開始ヲ命令シ佛印軍ノ武裝解除ヲ實施セリ其ノ結果避遠ノ地ヲ除キ數日ニシテ主要地點ノ軍事行動ヲ終リ治安ヲ確保シ得タリ

右軍事行動ト併行シ安南ニ對シテハ横山大使府顧問、「カンボヂヤ」ニ對シテハ久保田總領事ヲ派遣シテ帝國ノ眞意說明ニ當ラシメタル結果安南國王ハ三月十一日佛國トノ保護條約ヲ廢棄シ安南國ノ獨立回復ヲ宣言シ、「カンボヂヤ」

國王モ十三日對佛保護條約ノ無效「カンボヂヤ」王國ノ獨立回復ヲ宣言スル勅令ヲ公布セリ又「ルアンプラバン」王國ニ對シテハ「ラオス」ニ對スル軍隊派遣遲延シタル爲同王國ニ派遣セラレタル渡邊領事ハ漸ク四月上旬「ルアンプラバン」ニ到着帝國ノ眞意ヲ説明シタル結果同國王ハ四月八日獨立宣言式ヲ舉行セリ

斯テ佛印ハ軍管理ノ下ニ置カレタルガ右管理、實施ニ當リテハ大使府ト打合ノ上現地軍ニ於テ作成セル「印度支那行政應急實施要領」(松本大使發重光大東亞大臣宛電報)ニ從ヒ急速ナル治安恢復及正常狀態ノ復歸ヲ目的トシテ行政ヲ

實施セラレタリ之ガ爲差當リ佛印總督府ノ行政機構ヲ活用シ、首脳佛國官憲ヲ排除スル外ハ佛國人及原住民ノ官吏ヲ其ノ職務ニ止マラシメ、軍司令官自ラ事實上總督タル地位ニ在テ政務ヲ統轄シ主要行政長官ノ職務ハ原住民ノ適格者ノ之ヲ擔任スルニ至ル迄大使府職員等ヲシテ臨時其ノ職務ヲ管掌セシムルコトトセリ斯テ塚本公使ハ總務長官、西村總領事ハ東京州理事長官、蓑田總領事ハ交趾支那知事、鈴木總領事ハ經濟局長、金井正金支店長ハ財務局長、西尾總領事ハ土木局長、小長谷總領事ハ河内市長、河野總領事ハ西貢市長等、夫々職務ヲ管掌シ、又安南及「カンボヂヤ」兩王國ニ對シテハ理事長官ノ派遣ヲ廢止シ横山大使府顧問ハ安南王國ニ、久保田總領事ハ「カンボヂヤ」王國ニ夫々顧問トシテ各王國ノ發展ヲ援助スル任ニ當ルコトトナレリ「ルアンプラバン」王國ニ對シテモ石橋司政官ヲ同國顧問兼「ラオス」理事長官タラシメタリ

他方「カンボヂヤ」王國及安南王國ハ獨立宣言ト同時ニ國內體制ノ整備充實ニ努メ先ヅ「カンボヂヤ」國王ハ三月中旬保護國時代ノ閣僚ヲ辭職セシメ新閣僚ヲ登用シテ政府ヲ強化シ舊理事長官府ヲ接收シテ中央行政機構ヲ確立シ又地方行政ニ於テモ佛人理事官ニ代リ「カンボヂヤ」人又ハ安南人ヲ地方官トシテ地方行政ニ當ラシメタリ但シ「カンボヂヤ」國ニ於テハ佛國保護國時代佛國ハ佛國人官吏ノ下ニ多數ノ安南人官吏(軍人モ同様)ヲ使用シ居タル關係上「カンボヂヤ」人ノ眼ヨリ見レバ安南人ハ佛國人ノ手先ノ如ク映リ獨立後「カンボヂヤ」人ノ安南人殊ニ安南人官吏ニ對スル惡感情ハ相當顯著ナルモノアリテ行政運營上困難ナル問題トナリタリ

安南國ニ於テモ保大安南皇帝ハ三月二十二日保護國時代ノ大臣ヲ辭職セシメテ近代的内閣ノ性格ヲ有スル新内閣ヲ組織シテ理事長官府ヲ接收シ國務ニ當ラシメントシ先ヅ東京、交趾支那等各地ヨリ有力者ヲ「ユエ」ニ招集シ協議シタル後當時西貢ニ在リシ獨立黨員トシテ令名アリタル吳廷琰ニ組閣ヲ命ゼントシタルガ吳ハ保大皇帝トノ從來ノ行懸リモアリタル模様ニテ健康ヲ理由ニ固辭シテ受ケサリシカバ國外亡命ヨリ最近歸國セル獨立黨ノ有力者陳重金ニ組閣ヲ命ジタル結果四月十七日陳重金ヲ首班トシ交趾支那、東京州各地ノ新進分子ヲ集メタル近代的内閣ノ成立ヲ見タリ地方政府ニ於テモ佛人理事官ヲ排除シタル後地方行政ノ責任ヲ

負擔スヘキ地方「トンドク」（總督）以下地方官ノ更迭ヲ行ヒタリ

右ノ如ク各王國ノ國內體制ノ整備ニ對應シ我方ハ交通、通信、其他全國的施策ヲ必要トスル事項ノ外ハ總督府ノ權限ヲ極力各王國ニ委譲シテ其ノ地位ノ向上ヲ計ル方針ニテ行政機構ノ改善ヲ進ムルコトトシタルガ先づ安南國側ノ希望ニ從ヒ東京州ニ於ケル特殊制度ヲ廢止スル爲五月上旬安南國王ノ任命スル欽差大臣ヲシテ東京州ノ統治ニ當ラシメ東京州理事長官ハ之ヲ廢止シ東京州ノ安南國ノ一部タルコトヲ明確ナラシメタリ

次デ「ツーラン」、海防、河内、交趾支那等舊佛國直轄地ニ付テモ速ニ其ノ歸屬ヲ決定シ其ノ「ステータス」ヲ明カナラシムルコト必要ナルニ鑑ミ現地軍ニ於テ研究シタル結果ヲ中央ニ於テ檢討シタル結果五月十九日内閣、陸、海、外、大東亜各省間ニ

- (イ)「ツーラン」、海防、河内ハ速ニ以上ノ順席ニ從ヒ順次
安南國ニ歸屬セシムルコト
(ロ)交趾支那ハ之ヲ安南國ニ歸屬セシム但シ要スレバ「カンボヂヤ」トノ國境ニ付所要ノ調整ヲ加フルコト

ハ「ラオス」直轄地ハ安南國、「カンボヂヤ」國、「ルアンプラバン」國ノ三國ノ適當ノモノニ歸屬又ハ分屬セシムル方針ニテ研究スルコト

ニ決定ヲ見タリ依テ右ニ基キ「ツーラン」、海防及河内ノ行政ノ安南國側ヘノ委譲ヲ實行シタルガ、交趾支那ニ付テハ「カンボヂヤ」國側ニ於テ其ノ一部分ニ對シ「クレーム」ヲ有シ居タルヲ以テ我方斡旋ノ下ニ安南、「カンボヂヤ」兩國外相間ニ國境調整方ニ付會商ヲ實行セシムルコトトシタル處右手續進行中ニ八月十五日終戰トナリタリ

尙此ノ間印度支那ノ治安ハ良好ニシテ安南、「カンボヂヤ」「ラオス」等ノ諸民族ノ我方ニ對スル協力振ハ見ルベキモノアリタルガ唯昭和十九年末ノ東京州ノ米作ノ大不作ニ加ヘ米空軍ノ爆擊熾烈トナリ南北航路及縱貫鐵道斷絶シ我方ノ多大ノ努力ニ拘ラズ南部ヨリノ食糧ノ北送困難ナリシ爲東京州及安南北部ハ深刻ナル飢餓狀態ヲ現出シタルト一般ニ空爆ノ影響ヲ受ケテ經濟上ノ困難増大シ印度支那ノ行政運營ニ多大ノ困難ヲ來シタリ又右飢餓及經濟的困難ハ北部佛印ニ於ケル共產主義的傾向ノ所謂越盟運動ニ活動ニ好箇ノ地盤ヲ提供シ越盟革命運動ハ漸次活潑トナリ終戰後ハ忽

二 對仏印關係

チ全印度支那ヲ壓スル大勢力トナルニ至レリ

—